

HP Universal CMDB Configuration Manager

Windows オペレーティング・システム向け

ソフトウェア・バージョン : 9.20

ユーザーズ・ガイド

ドキュメント・リリース日 : 2011 年 6 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2011 年 6 月 (英語版)



ご注意

保証

HP の製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

ドキュメントの更新情報

このガイドの表紙には、次の識別情報が記載されています。

- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の取得登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログイン・ページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポート・サービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

HP ソフトウェア・サポート Web サイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP ソフトウェア・サポート・オンラインでは、セルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェア・サポート Web サイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート・ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア・カスタマとの意見交換
- ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、次の Web サイトを参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセス・レベルの詳細については、次の Web サイトを参照してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

ようこそ	9
本書の構成	9
対象読者	10
Configuration Manager のオンライン・ドキュメント	11
その他のオンライン・リソース	12
ドキュメントの更新情報	12

第 1 部 : はじめに

第 1 章 : Configuration Manager の紹介	15
HP Universal CMDB Configuration Manager の概要	16
構成のモデリングと分析	16
構成ポリシー	17
データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス	18
履歴の比較	19
トポロジ・モードとインベントリ・モード	20
システム運用の自動化	21
ユースケース	22
Configuration Manager の操作のためのベスト・プラクティス	24
第 2 章 : コンテンツ管理	25
コンテンツ管理の概要	26
変更要求	27
Configuration Manager コンテンツのワークフロー	29
Configuration Manager のコンテンツの管理 - ユースケース	33

第 II 部：管理

第 3 章：ビュー管理	41
ビュー管理の概要	42
トポロジ・ビューとインベントリ・ビュー	43
自動ステータス遷移	44
ビューを管理ビュー・リストに追加	45
ビューの自動ステータス遷移ルールの設定	45
ビュー管理のユーザ・インタフェース	47
第 4 章：自動化管理	53
自動化管理の概要	54
自動化のセットアップ	55
自動化管理のユーザ・インタフェース	57
第 5 章：自動化ポリシーの管理	61
自動化ポリシーの管理の概要	62
自動化ポリシーの定義	63
Configuration Manager の自動化ポリシー - ユースケース	63
自動化ポリシーのユーザ・インタフェース	66
第 6 章：構成ポリシーの管理	73
構成ポリシーの概要	74
ベースラインの設定	76
ポリシー・グループ	76
ポリシーの定義	78
Configuration Manager のトポロジ・ポリシー - ユースケース	79
構成ポリシーのユーザ・インタフェース	85

第 III 部：アプリケーション

第 7 章：ホーム・ページ	97
ホーム・ページの概要	98
ホーム・ページのユーザ・インタフェース	99
第 8 章：ビュー・サマリ	103
ビュー・サマリの概要	104
自動ステータス遷移のステータスのレビュー	105
ビュー・サマリのユーザ・インタフェース	106
第 9 章：ポリシー・サマリ	109
ポリシー・サマリの概要	110
ポリシー・サマリのユーザ・インタフェース	112

第 10 章：構成分析	115
構成分析の概要	116
比較用の構成モデルの定義	119
類似する CI のグループを含む CI の選択	121
構成分析のユーザ・インタフェース	123
第 11 章：ステータス管理	135
ステータス管理の概要	136
CI の変更の認証	138
ステータス管理のユーザ・インタフェース	140
第 12 章：履歴の比較	151
履歴の比較の概要	152
スナップショットの比較	154
履歴の比較のユーザ・インタフェース	155
第 13 章：構成エクスプローラ	165
構成エクスプローラの概要	166
インパクト分析	167
自動化の衝突	168
コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行	170
複合 CI の折りたたみルールの設定	173
構成エクスプローラのユーザ・インタフェース	176
第 IV 部：システムのセットアップ	
第 14 章：システム設定	205
システム設定の概要	206
ユーザ管理の構成の概要	208
構成の変更の保存と適用	209
Configuration Manager で未設定の共有ユーザ・リポジトリを使用するための 設定	210
Configuration Manager で外部ユーザ・リポジトリ (LDAP) を使用するための 設定	210
システム設定のユーザ・インタフェース	223
第 15 章：ユーザ管理	239
ユーザ管理の概要	240
Configuration Manager のユーザおよび権限のセットアップ	242
権限と権限セット	245
ユーザ管理のユーザ・インタフェース	247

第 16 章 : ライセンス	261
ライセンスの概要	262
ライセンスのインストール	264
ライセンスのユーザ・インタフェース	265
第 V 部 : プリファレンス	
第 17 章 : ユーザ・プリファレンス.....	269
ユーザ・プリファレンスの概要	270
ユーザ・プリファレンスのユーザ・インタフェース	271
第 VI 部 : 付録	
付録 A : ユーティリティ	275
Configuration Manager ユーティリティ	276
付録 B : システム・データのエクスポートとインポート	287
システム・データのエクスポートとインポートの概要	288
システム・データのエクスポート	291
システム・データのインポート	292
ログの冗長レベルの設定	292

ようこそ

本書では、Configuration Manager の設定と操作方法について説明します。

本章の内容

- ▶ 本書の構成（9ページ）
- ▶ 対象読者（10ページ）
- ▶ Configuration Manager のオンライン・ドキュメント（11ページ）
- ▶ その他のオンライン・リソース（12ページ）
- ▶ ドキュメントの更新情報（12ページ）

本書の構成

本書は、次の各章で構成されています。

第 I 部 はじめに

Configuration Manager 製品の紹介とビジネスでのユースケースのワークフローを説明します。

第 II 部 管理

Configuration Manager を使用する準備に必要なタスクについて説明します。

第 III 部 アプリケーション

Configuration Manager の操作時に使用するモジュールについて説明します。

ようこそ

第 IV 部 システムのセットアップ

Configuration Manager を設定するときのオプションについて説明します。

第 V 部 プリファレンス

Configuration Manager のユーザ・プリファレンスについて説明します。

第 VI 部 付録

Configuration Manager のユーティリティについて、また JMX コンソールを使用して Configuration Manager のデータをインポートおよびエクスポートする方法を説明します。

対象読者

本書は、次のユーザを対象としています。

- ▶ Configuration Manager の管理者
- ▶ Configuration Manager のプラットフォーム管理者
- ▶ Configuration Manager のアプリケーション管理者
- ▶ Configuration Manager のデータ・コレクタ管理者
- ▶ グローバル構成の管理担当者
- ▶ 構成の所有者
- ▶ 構成の設計担当者

本書の読者は、エンタープライズ・システム管理に精通し、ITIL の概念を理解していること、そして Configuration Manager についての知識を備えていることが前提条件になります。

Configuration Manager のオンライン・ドキュメント

Configuration Manager では、次のオンライン・ドキュメントが提供されています。

Readme : バージョンの制限事項および最終更新のリストが記載されています。Configuration Manager DVD のルート・ディレクトリで、**readme.html** をダブルクリックします。最新の Readme ファイルには、HP ソフトウェア・サポート Web サイトからもアクセスできます。

印刷用ドキュメント : [ヘルプ] > [Configuration Manager ヘルプ] を選択します。次のガイドは、PDF 形式のみで提供されています。

- ▶ 『HP Universal CMDB Configuration Manager デプロイメント・ガイド』(PDF) : Configuration Manager の設定に必要なハードウェアおよびソフトウェア要件、Configuration Manager のインストール方法、システムのセキュリティを強化する方法、アプリケーションへのログイン方法について説明します。

Configuration Manager オンライン・ヘルプ : オンライン・ヘルプは、Configuration Manager の各ウィンドウからも利用できます。ウィンドウをクリックして [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

オンライン・ブックは Adobe Reader を使用して表示および印刷できます。Adobe Reader は Adobe Web サイト (www.adobe.com/jp/) からダウンロードできます。

トピックの種類

このガイドでは、各サブジェクト領域はトピックに分類されています。トピックには、サブジェクトの個別の情報モジュールが含まれています。トピックは通常、含まれる情報のタイプに従って分類されます。

ドキュメントは異なる状況で必要となるさまざまな情報タイプに分割されており、特定情報にアクセスしやすいように設計されています。

主なトピックには、**概念**、**タスク**、**リファレンス**の3つがあります。これらのトピックの種類は、アイコンで視覚的に分かりやすく分類されています。

その他のオンライン・リソース

HP ソフトウェア・サポート: HP ソフトウェアのサポート Web サイトにアクセスします。このサイトで、セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。また、ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの書き込みや検索、サポート要求の送信、パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなどを行うこともできます。[ヘルプ] > [HP ソフトウェア サポート] を選択します。この Web サイトの URL は、<http://support.openview.hp.com>です。

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

アクセス・レベルの詳細については、次の Web サイトを参照してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Passport ID の登録は、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

HP ソフトウェア Web サイトから、HP ソフトウェア Web サイトにアクセスします。このサイトでは、HP ソフトウェア製品に関する最新の情報をご覧になれます。新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマー・サポートなどに関する情報が含まれます。[ヘルプ] > [HP ソフトウェア Web サイト] を選択します。この Web サイトの URL は、<http://welcome.hp.com/country/jp/ja/prodserv/software.html> です。

ドキュメントの更新情報

HP ソフトウェアの製品マニュアルは、常に更新されています。

更新版の有無、またはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、HP ソフトウェア製品マニュアルの Web サイト

(<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>) にアクセスしてください。

第 I 部

はじめに

第1章

Configuration Manager の紹介

本章の内容

概念

- ▶ HP Universal CMDB Configuration Manager の概要 (16ページ)
- ▶ 構成のモデリングと分析 (16ページ)
- ▶ 構成ポリシー (17ページ)
- ▶ データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス (18ページ)
- ▶ 履歴の比較 (19ページ)
- ▶ トポロジ・モードとインベントリ・モード (20ページ)
- ▶ システム運用の自動化 (21ページ)
- ▶ ユースケース (22ページ)

タスク

- ▶ Configuration Manager の操作のためのベスト・プラクティス (24ページ)

概念

HP Universal CMDB Configuration Manager の概要

構成管理は、ITIL V3 に準拠したプロセスであり、IT がビジネスをサポートするために必要な情報を集約したデータ・ソース（CMS、Configuration Management System の略）を管理します。このプロセスは、IT インフラストラクチャとソフトウェアを完全かつ正確に把握することで、ITIL プロセスの品質を向上し、ビジネス上の意思決定を容易にします。さらに、組織の IT を正常稼働することで、ビジネスの中断を最小限に抑えます。

HP Universal CMDB Configuration Manager (以下、Configuration Manager とします) は、CMS データの管理を効率化するシステム管理者向けのツールです。このツールは、ITIL V3 に基づいて CMS 内にあるデータを分析および管理することを主な目的とします。Configuration Manager は、CMS インフラストラクチャを管理するための環境を整備し、さまざまなデータ・ソースや、幅広い製品およびアプリケーションに対応します。

構成管理機能は、CI を適切に管理できる環境を実現すると同時に、CI、バージョン、場所、保管/所有の変更履歴を保持します。インフラストラクチャの物理的または電子的な資産やコンポーネントを管理することによって、物理的な環境に基づいて最新の構成データを提供します。

構成のモデリングと分析

Configuration Manager の基本機能の 1 つに、設定された基準に基づいて IT 環境を測定する機能があります。この機能では、「目的が同じ CI には同じ構成を適用する」という考え方に基づいて、保守コストの削減と予測の精度向上を図ります。構成分析モジュールは、選択した複合 CI と、組織の標準となる構成モデルを比較します。これにより、CI とモデルの類似性を測定できます。

この分析では、選択した CI と、組織のニーズに合わせて作成したカスタム構成モデルを比較します。CI とモデルの類似性のレベルは、複合 CI のトポロジと CI の属性に基づいて判定されます。分析は、モデルの定義と比較分析という 2 つの手順を繰り返して行われます。具体的には、モデルを定義し、それを CI と比較した結果、構成上の相違点を特定するか、モデルを再定義して比較に戻ります。

この分析を利用すると、たとえば、複数の環境内に存在するさまざまな CI の構成を比較できます。同じアプリケーションが運用環境とステージング環境にある場合、これを比較することによって、テスト構成を使って運用環境で問題が発生した場合の原因を究明できます。

構成分析プロセスの詳細については、115 ページ「構成分析」を参照してください。

構成ポリシー

構成ポリシーとは、組織の標準を定義するルールです。定義した標準を管理対象環境（ビュー）に適用することによって、設定した標準へのコンプライアンスを継続的に監視できます。ポリシーをビューに適用すると、Configuration Manager はビュー内の CI がポリシーに適合しているかどうかをチェックします。1 つのビューに複数のポリシーを同時に適用することが可能です。

ビューの**ポリシー・ステータス・レベル**は、ビューに適用されているすべてのポリシーに基づいて総合的に決定されます。ビューのポリシー・ステータス・レベルは、ポリシーに適合する CI の割合（%）を表します。

適用可能な構成ポリシーの 1 つに**ベースライン・ポリシー**があります。このポリシーは、ポリシーのベースラインとなる構成モデルを保存したものであり、これをもとに構成分析機能をさらに拡張することができます。ベースライン・ポリシーをビューに適用すると、個々の CI をベースラインと比較するのではなく、ビュー内にある特定のタイプのすべての CI をベースラインと比較できます。これによって、同じタイプの CI がベースラインに適合していることを確認できます。さらに、新しい CI をシステムに追加する際には、ベースラインに基づいた構成が可能になります。ベースラインの詳細については、76 ページ「ベースラインの設定」を参照してください。

トポロジ・ポリシーも構成ポリシーの 1 つです。これは、UCMDB で使用するトポロジ・クエリ言語 (TQL) を使って定義します。トポロジ・ポリシーでは、トポロジ構成 (CI のセットと CI 間の関係) を定義します。

トポロジ・ポリシーの使用例としては、ビジネス・クリティカルなアプリケーションの高い可用性を確保し、障害発生時には迅速に復旧できるように、このようなアプリケーションをサポートするサーバ群が同じ場所に設置されていないことを確認するポリシーを定義します。

ポリシーの定義と管理の詳細については、73 ページ「構成ポリシーの管理」を参照してください。

データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス

Configuration Manager は、ビューのステータスを管理することによって、構成管理システム内のデータを管理します。

実際のステータスとは、サービスのトポロジと構成について、構成管理システム (ディスプレイ・モジュールなど) のデータ・ソースが現在報告している状態を示します。

認証済みステータスとは、サービスが制御された状態であり、configuration manager に基づく正しいサービス構成を示します。

必要になる CI 情報は、製品、プロセス、ユーザのニーズによって異なります。たとえば、アプリケーション・エラーに対応する場合には、アプリケーションを実行しているサーバの実際のステータスを確認する必要があります。そのためには、サーバと、サーバにインストールされているソフトウェアを特定する必要があります。また、たとえばサービス・レベル契約を締結する際には、認証済みのサーバ構成を定義することが重要です。実際の構成は必ずしも認証済みの構成と一致するわけではなく（認証されていない変更が発生している可能性があります）、1 カ月後も同じ構成のままだという保証もありません（追加の変更が行われる可能性があります）。認証済みのステータスは、ポートフォリオを使用する際に保全された環境を提供でき、データは最新の状態ではない可能性があります。安定性と信頼性が高いという特徴があります。

Configuration Manager は、サービスの実際のステータスの変化を表示し、これに基づいてユーザが認証します。ビューの実際のステータスで発生した変更を認証すると、ビューのステータスは認証済みになります。

複合 CI の変更をレビューし、個々に選択して認証する手動の方法と、条件を設定してビュー全体のステータスを自動的に遷移させる方法があります。自動ステータス遷移を実行すると、ビューの変更内容のうち、すべての条件を満たすものが認証されます。

各種ステータスの管理の詳細については、135 ページ「ステータス管理」を参照してください。自動ステータス遷移については、41 ページ「ビュー管理」を参照してください。

履歴の比較

問題の根本原因を究明してミスの再発を防止するためには、過去の変更データや変更履歴を検討することが必要になる場合があります。Configuration Manager では、履歴の比較モジュールを使って、実際のステータスと認証済みのステータスのいずれかについて、過去のデータを参照することができます。

第 1 章・Configuration Manager の紹介

スナップショットとは、特定の日時に記録されたビューの構成を指します。スナップショットを比較することによって、過去に発生した変更内容をスキャンできます。この操作には高機能ユーザ・インタフェースを使用でき、異なるタイミングで取得したスナップショットの比較や、現在の構成との相違の特定が可能です。

Configuration Manager は、ビューに変更が発生すると、実際のステータスのスナップショットを自動的に取得します。また、認証時にもビューのスナップショットを取得します。スナップショットは CMS 内に記録され、固定の履歴レコードとして保持されます。同じステータスの同じビューのスナップショットを 2 つ取得して比較すると、時間の経過に伴う変更内容を追跡できます。実際のステータスの履歴比較モジュールは、ビューの実際のステータスのスナップショットを表示し、認証済みのステータスの履歴比較モジュールは、ビューの認証済みステータスのスナップショットを表示します。

スナップショットの使用例として、企業ポータルのパフォーマンスが数週間の間に低下した場合を考えてみましょう。顧客から苦情が寄せられたため、管理者は、ポータル環境の現在のステータスと 1 週間前に取得したスナップショットを比較します。次に、すべての変更内容をレビューし、パフォーマンス低下の原因となる変更を特定します。

スナップショットの比較の詳細については、151 ページ「履歴の比較」を参照してください。

トポロジ・モードとインベントリ・モード

構成管理は、トポロジのパーспекティブとインベントリのパーспекティブから実行できます。たとえば、サービスの所有者は、サービス・トポロジの全体像を、最上位のビジネス・サービス CI から下位のハードウェア CI へと参照します。これに対してデータベース管理者などのマネージャは、特定の CI タイプを参照するために、同じタイプの CI を一覧表示します。

このようなニーズに対応するために、Configuration Manager では次の 2 つのモードで管理対象環境を表示できます。

- ▶ **インベントリ・モード**: フィルタ可能な CI リスト
- ▶ **トポロジ・モード**: トポロジ・グラフ

インベントリ・モードでは、複合 CI リストのフィルタや、CI のサブセットの絞り込み（変更された CI やポリシー違反の CI など）が可能です。トポロジ・モードでは、幅広い範囲のサービス・トポロジをグラフ表示します。

システム運用の自動化

Configuration Manager では、HP Operations Orchestration で事前定義されたフローを使用して、標準的なシステム運用作業を自動化できます。この自動化は、HP Operations Orchestration からフローをインポートして設定します。

自動化には、コントロールされた自動化とコントロールされない自動化があります。また、コントロールされた自動化機能は、自動的なリスクの可視化とも呼ばれます。この自動化により、Configuration Manager での自動実行に伴って発生する可能性のあるリスクを認識することができます。

自動化ポリシーでは、自動化を実行すると大きなリスクが発生するケースを特定することができます。すべての自動化ポリシーは、自動化ポリシー管理モジュールで管理されています。ポリシーでは、自動実行情報と、自動実行の対象となる CI への影響に基づいて制限を設定します。

コントロールされた自動化とコントロールされない自動化の実行方法については、170 ページ「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」を参照してください。

自動化ポリシーの設定方法については、63 ページ「自動化ポリシーの定義」を参照してください。

ユースケース

Configuration Manager の使用方法の例をいくつか紹介します。

▶ サーバの表示

システム管理者は、サーバとその詳細情報（属性、CPU、ファイル・システム、IP アドレス）、サーバ間の関係を表示できます。

▶ ハードウェアの調査

システム管理者は、物理サーバに搭載されている CPU のタイプを簡単に確認できます。

▶ ラボ用の構成ベースラインの設定

ラボ管理者は、サーバ構成の分析に基づいて、(ほとんどの) サーバの現在の構成を的確に示すベースラインを設定できます。

▶ アプリケーション・サービス・ツリーのモデル化と表示

アプリケーションの所有者は、アプリケーション・サービス・ツリーのモデル化と表示を、ビジネス・レイヤからアプリケーションおよびソフトウェア・レイヤ、さらにインフラストラクチャ・レイヤへと実行できます。

▶ アプリケーションで問題を引き起こした可能性のある構成変更の調査および特定

アプリケーションの所有者は、パフォーマンスが低下し始めたアプリケーションがある場合、問題が発生したと考えられる時期にアプリケーション・サービス・ツリーで行った構成変更を特定できます。

▶ アプリケーション・サービス・ツリーの変更の追跡

アプリケーションの所有者は、アプリケーション・サービス・ツリー内の変更を追跡および確認できます。

▶ 変更の自動確認（手動による追跡作業を軽減）

アプリケーションの所有者は、アプリケーション・サービス・ツリーでの変更を追跡および確認することが可能ですが、手動で確認する変更を重要なものだけに限定し、事前設定した条件を満たす変更を自動確認するオプションを利用することもできます。

▶ アプリケーション・サービス・ツリーのコンプライアンス・スタックの作成

アプリケーションの所有者は、アプリケーションの構成コンプライアンスに関するポリシーを作成できます。

タスク

Configuration Manager の操作のためのベスト・プラクティス

高品質の構成データを必要とするアプリケーションで認証済みのステータスを使用する場合、以下のアプローチをベスト・プラクティスとしてお勧めします。

- ▶ まず、必要なデータを特定します。これに従ってビューを定義し、定義したビューを Configuration Manager で管理します。
- ▶ このビューに適用する自動ステータス遷移条件を設定し、ビューで発生したすべての変更内容を認証します。この処理では、実際のステータスの構成が、認証済みのステータスにコピーされます。
- ▶ アプリケーションが、実際のステータスではなく認証済みのステータスのデータを使用するように設定します。
- ▶ ポリシーの適用、自動ステータス遷移ルールの変更、手動による変更の認証を通じて、ビュー内のデータの管理体制を徐々に整えていきます。このアプローチでは、データの可用性を確保しながら、構成の認証プロセスを導入することができます。

第 2 章

コンテンツ管理

本章の内容

概念

- ▶ コンテンツ管理の概要 (26ページ)
- ▶ 変更要求 (27ページ)

タスク

- ▶ Configuration Manager コンテンツのワークフロー (29ページ)
- ▶ Configuration Manager のコンテンツの管理 - ユースケース (33ページ)

リファレンス

- ▶ **トラブルシューティングおよび制限事項** (37 ページ)

概念

コンテンツ管理の概要

Configuration Manager で管理ビューを操作するには、UCMDB のコンテンツを準備する必要があります。管理ビューには IT 要素が含まれており、Configuration Manager を使って CMS データを分析および管理できるように編成されています。

Configuration Manager 向けにコンテンツを編成する方法の 1 つが、**CI の複合**です。CI の複合とは、特定の CI タイプを上位タイプとして選択し、その CI に属するすべての CI をコンポーネント CI としてグループ化するプロセスを指します。たとえば、CPU はホストの一部なので、ホストの複合 CI に CPU が含まれることになります。

複合 CI を使用してコンテンツを表示すると、次のような利点があります。

- ▶ データをわかりやすく表示することができます。たとえば CPU を参照する際には、通常はホストのコンテキストのみで参照します。
- ▶ トポロジは複合 CI のレベルのみにマップされるので、トポロジを簡素化できます。多数のコンポーネント CI から複合 CI を構成できるので、トポロジ・マップを大幅に簡素化できます。
- ▶ 上位 CI から関連 CI を管理できます。コンポーネント CI での変更内容はすべて、上位 CI に対する変更としてキャプチャされます。したがって、複合 CI からドリルダウンし、コンポーネント CI の詳細を参照することもできます。

管理ビューのコンテンツから複合 CI を作成する場合、どの CI タイプを複合 CI のコンポーネントとして認識するかを示した折りたたみルールを定義します。複合 CI の折りたたみルールを設定するには、HP Universal CMDB の CI タイプ・マネージャを使用します。詳細については、173 ページ「複合 CI の折りたたみルールの設定」を参照してください。

データの編成には、複合 CIT でレイヤと分類を定義する方法もあります。**レイヤ**とは、複合 CIT の機能をグループ化するカテゴリです。レイヤには、ビジネス、ソフトウェア、インフラストラクチャなどがあります。**分類**とは、複合 CIT をさらにきめ細かいグループに分けるためのカテゴリです。

さらに、Configuration Manager で UCMDB コンテンツを使用するための準備として、CIT の管理属性と比較可能な属性を定義する必要があります。**管理属性**とは、Configuration Manager で管理対象となる CIT 属性を指します。この属性は、変更が認証された時点と履歴で追跡した時点で、認証済みのステータスにコピーされます。また、ポリシーの定義にも使用できます。**比較可能な属性**とは、Configuration Manager で CI のベースライン比較に使用する管理属性を指します。

レイヤと分類の値、管理属性と比較可能な属性は、UCMDB の CI タイプで定義されます。

変更要求

Configuration Manager は、Service Manager で発生した UCMDB 変更要求 (RFC) をインポートします。RFC は、それぞれが 1 つ以上の CI に関連付けられています。CI の RFC は、ステータス管理モジュールと履歴の比較モジュールにある [比較詳細] 表示枠の [関連 RFC] タブに表示されます。

[システム] > [設定] > [アプリケーション管理] > [RFC] の [取得される RFC 基準] では、RFC プロパティ、CI タイプ、RFC の完了日からの経過日数に基づいて RFC をフィルタできます。表示する RFC プロパティは、[RFC 表示] で選択できます。

注： RFC の完了予定日によるフィルタは、ステータス管理モジュールで使用します。履歴の比較モジュールでは、選択したスナップショットの中で、完成予定の RFC のみが表示されます。

第2章・コンテンツ管理

ポリシー違反の原因を調査する際のベスト・プラクティスの1つとして、CIの[関連RFC] タブで違反の有無を確認してください。

タスク

Configuration Manager コンテンツのワークフロー

このタスクでは、Configuration Manager コンテンツの管理ワークフローについて説明します。

このタスクでは、次の手順を実行します。

- ▶ 30 ページ「前提条件」
- ▶ 30 ページ「複合 CI の定義」
- ▶ 30 ページ「レイヤと分類の定義」
- ▶ 31 ページ「管理属性の定義」
- ▶ 31 ページ「比較可能な属性の定義」
- ▶ 32 ページ「比較での一致ルールの定義」

1 前提条件

まず、UCMDB のビューを調べます。ビューの目的と、複合 CI でどのようにデータを表示したいのかを考えてください。

2 複合 CI の定義

複合 CI の範囲のルールを決めたら、関連する複合 CI の既存の折りたたみルール定義を編集します。詳細については、173 ページ「複合 CI の折りたたみルールの設定」を参照してください。

Configuration Manager を起動するか、HP Universal CMDB で折りたたみルールを変更すると、HP Universal CMDB で定義されている折りたたみルールに基づき、関連のパースペクティブが UCMDB で自動生成されます。このパースペクティブは Configuration Manager に格納されますが、モデリング・スタジオの [リソース] 表示枠でフォルダを**変更しないように**注意してください。

折りたたみルールを定義したら、Configuration Manager の構成エクスプローラにアクセスし、定義したルールに基づいてビューが正しく表示されることを確認します。

3 レイヤと分類の定義

それぞれの複合 CIT がどのレイヤと分類に所属するかを考えます。複合 CIT で使用するレイヤと分類の定義には、UCMDB の CI タイプ・マネージャで、**layer** と **classification** の各静的属性を使用します。レイヤと分類の色を定義するには、Configuration Manager で [システム] > [設定] > [アプリケーション管理] > [トポロジ表示] > [トポロジ レイアウト] を選択します。

注：コンポーネント CIT では、レイヤと分類は定義する必要はありません。

4 管理属性の定義

すべての CI タイプ（複合とコンポーネント）の中で、どの CI タイプ属性を管理属性として定義するかを決めます。定義するには、UCMDB の CI タイプ・マネージャで属性を選択し、**[変更をモニタ]** 修飾子を選択します。

主要な CIT 属性を管理属性として定義することをお勧めします。ただし、ユーザにとって有意な値が含まれていない CIT タイプ属性（ルート・コンテナなど）は除きます。

注： Configuration Manager では、管理属性のみが表示され、認証時には認証済みのステータスにコピーされます。

5 比較可能な属性の定義

すべての CI タイプ（複合とコンポーネント）の中で、どの管理属性を比較可能な属性として定義するかを決めます。比較可能な属性は、Configuration Manager で CI を比較する際に使用します。定義するには、UCMDB の CI タイプ・マネージャで属性を選択し、**[比較可能]** 修飾子を選択します。

複合 CIT については、主要な属性は比較可能な属性として定義しないでください。コンポーネント CIT については、主要な属性を比較可能属性として定義することをお勧めします。ただし、ユーザにとって有意な値を含む場合に限りです。

6 比較での一致ルールの定義

比較可能な CIT の属性には一致ルールを定義できます。このルールは、コンポーネント CI を比較する際のガイドラインになります。Configuration Manager は、一致ルールで指定されている属性を元に、比較対象となる CI を特定します。

1 つの CIT 一致ルールに複数の属性を定義することができ、それぞれの属性に異なる優先度（第 1 属性、第 2 属性の順で優先など）を割り当てることも可能です。一致ルールの定義は、HP Universal CMDB の CI タイプ・マネージャで行います。HP Universal CMDB には Configuration Manager からアクセスできます。

- a [管理] > [UCMDB ファウンデーション] を選択し、HP Universal CMDB を開きます。
- b [マネージャ] > [モデリング] > [CI タイプ マネージャ] を選択します。
- c [CI タイプ] 表示枠のリスト・ボックスから、[CI タイプ] を選択します。
- d 右の表示枠で [一致ルール] タブをクリックします。
- e 属性に対する一致ルールを定義し、どの CI を比較するかを決定します。詳細については、HP Universal CMDB のマニュアルを参照してください。

注：

- ▶ 一致ルールは、複合 CIT には適用されません。
 - ▶ 一致ルールの定義で使用できるのは、比較可能な属性のみです。
-

Configuration Manager のコンテンツの管理 - ユースケース

このユースケースでは、IIS Web サーバ・ビューに関する Configuration Manager コンテンツのワークフローを説明します。

注：このシナリオに関連するタスクの詳細については、29 ページ「Configuration Manager コンテンツのワークフロー」を参照してください。

このシナリオでは、次の手順を実行します。

- ▶ 33 ページ「前提条件」
- ▶ 34 ページ「HP Universal CMDB での複合 CI の設定」
- ▶ 34 ページ「レイヤの設定」
- ▶ 34 ページ「分類の設定」
- ▶ 35 ページ「管理属性の設定」
- ▶ 35 ページ「比較可能な属性の設定」
- ▶ 36 ページ「一致ルールの定義」

1 前提条件

次のタイプの CI を含む UCMDB のビューを考えてみましょう。

- ▶ **IIS Web Server**
- ▶ **Node**
- ▶ **Oracle**

Configuration Manager で使用するビューを作成するには、次に示す手順に従ってさまざまな設定を行います。

2 HP Universal CMDB での複合 CI の設定

[管理] > [UCMDB ファウンデーション] を選択し、HP Universal CMDB を開きます。HP Universal CMDB で [マネージャ] > [モデリング] > [CI タイプ マネージャ] を選択します。[CI タイプ] 表示枠のリスト・ボックスから、[計算された関係] を選択します。[Calculated Links] の下で、[Folding Rules (Config Manager)] を選択します。IIS Web Server の次の折りたたみルールを特定します。

▶ IIS Application Pool

▶ IIS Web Service

▶ IIS Web Site

さらに、IIS Web Site のコンポーネント CI として **IIS Web Dir**、IIS Web Dir のコンポーネント CI として **Configuration File** がルールで定義されています。

折りたたみルールの変更が必要な場合は、HP Universal CMDB でファイルを編集します。詳細については、173 ページ「複合 CI の折りたたみルールの設定」を参照してください。

3 レイヤの設定

UCMDB の CI タイプ・マネージャにアクセスします。このビューに含まれる CI タイプの **layer** 属性は、次のように定義されています。

▶ IIS Web Server - ソフトウェア

▶ Node - インフラストラクチャ

▶ Oracle - ソフトウェア

定義を変更する場合は、CIT の layer 属性を変更してください。

4 分類の設定

UCMDB の CI タイプ・マネージャにアクセスします。このビューに含まれる CI タイプの **classification** 属性は、次のように定義されています。

▶ IIS Web Server - Web サーバ

▶ Node - インフラストラクチャ

▶ Oracle - データベース

定義を変更する場合は、CIT の **classification** 属性を変更してください。

5 管理属性の設定

管理属性として定義する CIT 属性を選択します。たとえば、IIS Web サーバの場合、**Version** 属性と **Name** 属性がデフォルトで管理属性として定義されます。**StartupTime** 属性は、構成の一部としてはみなされないため、デフォルトでは管理属性として定義されません。デフォルトの属性定義は、システムでのニーズに合わせて変更可能です。

管理属性として属性を定義するには、次の手順を実行します。

- a UCMDB の CI タイプ・マネージャの [属性] タブを開きます。
- b 属性を選択し、[編集] ボタンをクリックします。[属性の編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
- c [詳細設定] タブを選択し、[変更をモニタ] 修飾子のチェック・ボックスを選択します。[OK] をクリックします。
- d 変更を保存します。



注： Configuration Manager では、管理属性のみが表示され、認証時には認証済みのステータスにコピーされます。

6 比較可能な属性の設定

比較可能な属性として定義する管理属性を決定します。比較可能な属性は、Configuration Manager で CI を比較する際に使用します。

たとえば IIS Web Server の場合を考えると、**Version** 属性は比較対象として適切です (2 つの Web サーバのバージョンを比較)。ただし、**Name** 属性は適切ではありません。Web サーバにはさまざまな名前が付けられるからです。

比較可能な属性として属性を定義するには、次の手順を実行します。

- a [管理] > [UCMDB ファウンデーション] を選択し、HP Universal CMDB を開きます。
- b [マネージャ] > [モデリング] > [CI タイプ マネージャ] で [属性] タブを開きます。
- c 属性を選択し、[編集] ボタンをクリックします。[属性の編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
- d [詳細設定] タブを選択し、[比較可能] 修飾子のチェック・ボックスを選択します。[OK] をクリックします。
- e 変更を保存します。



7 一致ルールの定義

比較項目となる CI を指定するために、コンポーネント CIT の属性を一致ルールとして定義します。[IIS Application Pool] と [IIS Web Service] のコンポーネント CIT について、HP Universal CMDB の CI タイプ・マネージャで [Name] 属性を一致ルールとして定義します。

一致ルールを定義するには、次の手順を実行します。

- a [管理] > [UCMDB ファウンデーション] を選択し、HP Universal CMDB を開きます。
- b [マネージャ] > [モデリング] > [CI タイプ マネージャ] を選択します。
- c [CI タイプ] 表示枠のリスト・ボックスから、[CI タイプ] を選択します。
- d 右の表示枠で [一致ルール] タブをクリックします。[IIS Web Service] または [IIS Application Pool] を選択すると、[一致ルール] 表示枠に **Name** 属性が表示されます。
この設定の後に、タイプが [IIS Web Server] の複合 CI を比較すると、[IIS Application Pool] CI と [IIS Web Service] CI が名前を元に比較されます。

リファレンス

トラブルシューティングおよび制限事項

問題 : UCMDB で CI を変更したが、Configuration Manager に反映されない。

解決策 : Configuration Manager で実行される分析プロセスは、オフラインのプロセスであり、非同期的に実行されます。したがって、UCMDB の最新の変更がまだ処理されていない可能性があります。この問題を解決するには、次のいずれかの手順を実行してください。

- ▶ 数分間待ちます。分析プロセスの実行間隔は、デフォルトで 10 分に設定されています。この値は [システム] > [設定] で設定できます。
- ▶ JMX 呼び出しを実行します。これにより、ビューに含まれるオフラインの分析計算が実行されます。
- ▶ [管理] > [ポリシー] > [構成ポリシー] を選択します。[ポリシー分析の再計算] ボタンをクリックします。これにより、オフラインの分析プロセスがすべてのビューで実行されます (多少時間がかかる場合があります)。また、ポリシーを人為的に変更して保存する操作が必要になることもあります。

問題 : [管理] > [UCMDB ファウンデーション] をクリックすると、UCMDB のログイン・ページが開く。

解決策 : 再度ログインせずに UCMDB にアクセスするには、シングル・サインオンを有効にする必要があります。詳細については、『HP Universal CMDB Configuration Manager デプロイメント・ガイド』(PDF) の「Configuration Manager と UCMDB の間での LW-SSO の有効化」を参照してください。さらに、ログインに使用する Configuration Manager ユーザが UCMDB ユーザ管理システムで定義されていることを確認してください。

問題 : [マネージャ] > [モデリング] > [CI タイプ マネージャ] の [CI タイプ] 表示枠のリスト・ボックスから [CI タイプ] を選択しても、HP Universal CMDB で [一致ルール] タブが表示されない。

解決策 : HP Universal CMDBで [マネージャ] > [管理] > [インフラストラクチャ設定
マネージャ] を選択し, [Enable Configuration Manager Matching Rules] を [True]
に設定します。ログアウトしてからログインし直すと, CI タイプ・マネージャで [一致
ルール] タブが表示されます。

第 II 部

管理

第 3 章

ビュー管理

本章の内容

概念

- ▶ ビュー管理の概要 (42ページ)
- ▶ トポロジ・ビューとインベントリ・ビュー (43ページ)
- ▶ 自動ステータス遷移 (44ページ)

タスク

- ▶ ビューを管理ビュー・リストに追加 (45ページ)
- ▶ ビューの自動ステータス遷移ルールの設定 (45ページ)

リファレンス

- ▶ ビュー管理のユーザ・インタフェース (47ページ)
- ▶ **トラブルシューティングおよび制限事項** (51 ページ)

概念

ビュー管理の概要

Configuration Manager での作業では、まずビューを選択します。ビューは UCMDB で定義され、Configuration Manager 環境での管理作業に使用されるので、管理ビューと呼ばれます。ビュー管理では、履歴の追跡、ポリシーの定義、変更の認証による各ステータスの管理などを行います。

ビュー管理モジュールは、Configuration Manager で管理するビューのリストを操作します。このリストには、現在管理対象となっているビューがすべて一覧表示されます。また、このリストにビューを新しく追加したり、不要になったビューを削除することができます。

管理ビューでは、そのビューで表示する管理 CI タイプを定義します。管理 CI タイプのみを認証することができ、非管理 CI タイプはビュー内で淡色表示されます。1 つの CI タイプを複数のビューで管理することは可能ですが、同じ複合 CI を複数のビューで管理しないでください。同じ CI を複数のビューで管理すると、CI を管理するビューが他に存在することを示す警告メッセージが表示されます。

注：

ビュー管理モジュールにアクセスするには、次のいずれかの権限が必要です。

- ▶ ビュー管理権限：このモジュールのすべてのビューを追加、削除、変更できます。
 - ▶ ビュー書き込み権限：ビューを表示、変更できます。
-

管理するビューを選択したら、次の操作タイプでビューの管理方法を指定できます。

- ▶ **[削除の候補]** : UCMDB で削除候補としてマークした CI を、ビューの実際のステータスから削除します。詳細については、49 ページ「[削除候補ポリシー] 表示枠」を参照してください。
- ▶ **[自動ステータス遷移]** : ビューを自動的に認証する条件を定義します。詳細については、44 ページ「自動ステータス遷移」を参照してください。

このような機能は、ビューの管理作業の一部を自動化するときに便利です。

管理ビュー・リストにビューを追加すると、そのビューは [ビュー サマリ] ページに他の管理ビューとともに表示されます。ビューにはステータス管理モジュールなどでアクセスできます。

管理ビュー・リストにビューを追加する方法の詳細については、45 ページ「ビューを管理ビュー・リストに追加」を参照してください。

トポロジ・ビューとインベントリ・ビュー

管理ビューには、2つのタイプがあります。**トポロジ・ビュー**と**インベントリ・ビュー**です。トポロジ・ビューでは、ビューのトポロジおよび複合 CI 間の関係を把握することができます。インベントリ・ビューでは、類似した複合 CI をグループ化することができます。トポロジ・ビューよりも関係の数は少なく、ビューのサイズは大きくなります。ビューのタイプは、ビュー管理モジュールの [一般] 表示枠で定義します。インベントリ・ビューの一例として、サーバに接続されているデータベース CI をすべて含むビューがあります。

構成エクスプローラ、ステータス管理モジュール、履歴の比較モジュールでは、トポロジ・モードとインベントリ・モードのいずれかでビューを表示できます。ビューは、作成時にトポロジ・ビューまたはインベントリ・ビューのいずれかを指定しますが、どちらのモードを使っても表示できます。ビューに含まれる複合 CI の数が 250 を超えると、トポロジ・ビューとして定義されていても、自動的にインベントリ・ビューで表示されます。Configuration Manager では、最大 5000 の複合 CI がサポートされています。

自動ステータス遷移

Configuration Manager には、自動ステータス遷移機能があります。これにより、ビューで発生した変更を自動的に認証する条件を定義できます。ビューを選択し、認証する変更タイプ、変更を認証する CI タイプ、新しいポリシー違反を許可するかどうかを定義します。すべての変更が定義済みの条件を満たす場合のみ変更を自動的に認証するか、定義済みの条件を満たす個々の変更を自動的に認証する（その他の変更は認証しない）かを選択できます。1つ以上のルールに違反するすべての CI は認証されません。また、そのような CI に依存する CI も認証されません。その他の CI は認証されます。

次に例を挙げて、認証がどのように適用されるかを示します。変更の認証を承認する CI タイプとして [computer] と [net device] を選択し、承認する変更タイプとして [追加された CI] のみを選択します。また、新しいポリシー違反は許可しないように選択します。

- ▶ ビュー・レベルの認証を指定した場合、認証を承認する変更は CI タイプ [computer] または [net device] の追加のみです。これ以外のタイプの CI をビューに追加した場合や、CI を変更または削除した場合は、自動認証の対象にはなりません。同様に、任意の CI で新しいポリシー違反が検出されると、認証は行われません。たとえば、あるコンピュータを追加して別のコンピュータを削除すると、追加したコンピュータの CI がルールに適合していても、変更は自動認証されません。
- ▶ CI レベルの認証を指定した場合、[computer] または [net device] の追加のみが認証されます。その他の変更は認証されません。

新しいポリシー違反が許可され、ビューに新しいトポロジ・ポリシー違反がある場合、この違反の原因になっているのがどの変更かを特定する方法がないため、変更は認証されません。存在するのが新しいベースライン・ポリシー違反のみである場合、ベースライン・ポリシーに違反している CI のみが認証されません。

認証条件は、1つのビューに対して複数定義できます。自動ステータス遷移は、任意のビューに関連する認証条件を満たすすべての変更に対して実行可能です。

タスク

ビューを管理ビュー・リストに追加

このタスクでは、ビューを管理ビュー・リストに追加する方法を説明します。



- 1 ビュー管理モジュールで、[**ビューを管理ビュー リストに追加**] ボタンをクリックします。[**管理するビューの選択**] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 目的のビューを選択して [OK] をクリックします。[詳細] 領域にビューの詳細が表示されます。

注: リスト内に目的のビューが表示されていない場合は、[**更新**] をクリックするとビュー・リストが更新されます。

- 3 [一般] 表示枠で、ビュー・タイプと管理 CI タイプを設定します。
- 4 オプションで、[削除候補ポリシー] 表示枠のチェック・ボックスを選択できます。詳細については、49 ページ「[削除候補ポリシー] 表示枠」を参照してください。
- 5 オプションで、ビューの自動ステータス遷移条件を設定できます。詳細については、45 ページ「ビューの自動ステータス遷移ルールの設定」を参照してください。
- 6 [保存] をクリックします。ビューが管理ビュー・リストに追加され、他のモジュールがビューにアクセスが可能な状態になります。



ビューの自動ステータス遷移ルールの設定

このタスクでは、ビューの自動ステータス遷移ルールを設定する方法を説明します。

- 1 ビュー管理モジュールの左の表示枠でビューを選択し、[自動ステータス遷移] 表示枠にある [**自動ステータス遷移を有効にする**] チェック・ボックスを選択します。詳細については、44 ページ「自動ステータス遷移」を参照してください。
- 2 [**ビュー レベル**] 認証か [**CI レベル**] 認証を選択します。

3 条件テーブルで、次のオプションを構成します。

- ▶ **[CI タイプ]** をクリックして CI タイプ・ツリーを開きます。自動認証で承認する CI タイプを選択します。
- ▶ **[構成ポリシー]** をクリックして目的のオプション (**[ビューで新規ポリシー違反を許可する]** または **[ビューで新規ポリシー違反を許可しない]**) を選択します。
- ▶ **[検出された変更タイプ]** をクリックして、認証を承認する変更タイプを選択します。

4 **[構成のテスト]** をクリックすると、設定した認証条件を満たした変更がビューに含まれているかどうかをチェックできます。

- ▶ すべての変更が自動ステータス遷移ルールに適合している場合、テストのステータスが **[Passed]** になります。
- ▶ 一部またはすべての変更が自動ステータス遷移ルールに適合しない場合は、テストのステータスが **[Unsatisfied]** になります。



5 **[OK]** をクリックして [ビュー管理] ウィンドウに戻り、**[保存]** をクリックして 条件を保存するか、認証ルールを編集して再度テストします。

これで、自動ステータス遷移ルールを設定できました。自動ステータス遷移を実行すると、ビュー内に設定した条件を満たす変更があれば認証されます。詳細については、138 ページ「CI の変更の認証」を参照してください。

注：自動ステータス遷移は、自動ステータス遷移が有効になっているすべてのビューで実行されます。

リファレンス

ビュー管理のユーザ・インタフェース

本項の内容



- ▶ 47ページ「[ビュー管理] ページ」






[ビュー管理] ページ

このページには、現在管理対象になっているビューのリストが表示されます。

利用方法	[管理] > [ビュー管理] を選択します。
重要な情報	左の表示枠には、管理ビューが一覧表示されます。[一般] 表示枠, [削除候補ポリシー] 表示枠, [自動ステータス遷移] 表示枠には、左の表示枠で選択した管理ビューの詳細情報が表示されます。 ビューを管理ビュー・リストに追加すると、システムの更新が完了するまでの間、数分間データを参照できなくなることがあります。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 45 ページ「ビューを管理ビュー・リストに追加」 ▶ 45 ページ「ビューの自動ステータス遷移ルールの設定」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
<ビューのフィルタ>	表示されているビューのリストをフィルタするための文字列を入力します。
	クリックすると、すべてのビューを表示するか、お気に入りビューのみを表示するかを切り替えることができます。
	クリックすると、管理ビュー・リストに追加するビューを選択できます。[管理するビューの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。

UIの要素	説明
	クリックすると、選択したビューが管理ビュー・リストから削除されます。
	クリックすると、変更を保存できます。
	クリックすると、ビューの変更を取り消すことができます。
	クリックすると、すべてのビューで自動ステータス遷移をトリガできます。
	クリックすると、ビュー・リストが更新されます。
ビュー名	管理ビューの名前。

[一般] 表示枠

UIの要素	説明
説明	UCMDBで選択した管理ビューの説明。
管理 CI タイプ	このビューで管理する CI タイプを選択します。このビューで選択した CI タイプのみが管理対象になります。たとえば、CI タイプに子 CI タイプが複数存在する場合、一部のみを選択しても親 CI タイプは管理対象になりません。 注: デフォルトでは、すべての CI タイプが選択されています。
ビュー名	選択した管理ビューの名前。
ビュータイプ	ビューのタイプを選択します。[トポロジ]と[インベントリ]のいずれかを選択できます。詳細については、43 ページ「トポロジ・ビューとインベントリ・ビュー」を参照してください。

[削除候補ポリシー] 表示枠

UI の要素	説明
実際のステータスから、 削除候補としてマーク された CI を削除する (UCMDB エージング メカニズムを 上書きする)	このチェック・ボックスを選択すると、UCMDB で削除候補としてマークした CI が、ビューの実際のステータスから即時で削除されます。チェック・ボックスの選択を解除すると、UCMDB で設定された削除時刻まで削除されません。

[自動ステータス遷移] 表示枠

関連タスク	45 ページ「ビューの自動ステータス遷移ルールの設定」
-------	-----------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
<条件リスト>	<p>自動ステータス遷移ルールは、次の項目に基づいて設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [CI タイプ]: 自動認証で承認する変更の CI タイプを指定します。このオプションがハイライト表示されると、CI タイプ・ツリーが下に表示されます。ツリーから目的の CI タイプを選択します。 ▶ [構成ポリシー]: ビュー内で新しいポリシー違反が発生した場合に、自動認証で承認するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [ビューで新規ポリシー違反を許可する] を選択すると、すべての違反が無視されます。 ▶ [ビューで新規ポリシー違反を許可しない] を選択し、[CI レベル] の認証を選択していない場合、新規ポリシー違反によって自動化が停止されます。 <ul style="list-style-type: none"> - チェック・ボックスを選択し、CI に新規ベースライン・ポリシー違反がある場合、その CI の変更のみが認証されません。 - CI に新規トポロジ・ポリシー違反がある場合、ビュー内の CI の変更は認証されません。 ▶ [検出された変更タイプ]: 自動認証で承認する変更のタイプを指定します。次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 追加された CI ▶ 変更された CI ▶ 削除された CI

UIの要素	説明
自動ステータス遷移を有効にする	<p>このチェック・ボックスを選択すると、[自動ステータス遷移]表示枠のフィールドがアクティブになります。次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ビューレベルの認証（デフォルト）：このオプションでは、すべてのルールに適合する場合、選択したビューのすべての変更が自動認証されます。 つまり、すべてのルールに適合する場合はビュー内のすべての変更が自動認証され、定義済みのルールに適合しない変更が1つでもある場合はビュー内のどの変更も認証されません。 ▶ CIレベルの認証：このオプションでは、自動ステータス遷移を実行する特定のCIタイプと変更タイプを選択できます。
構成のテスト	<p>自動ステータス遷移を設定した後、[構成のテスト]をクリックすると、設定した認証条件を満たす変更がビュー内に存在するかどうかをチェックできます。</p>

トラブルシューティングおよび制限事項

Configuration Manager で管理ビューを操作する際には、次のような制限があります。

次のタイプのビューは、管理ビュー・リストに追加できません。

- ▶ 計算リンクを含むビュー
- ▶ 連合データを含むビュー
- ▶ 複合リンクを含むビュー（複合リンクがフル・パスを返すように設定されている場合は問題ありません）

上記のいずれかのタイプのビューを選択すると、エラー・メッセージが表示されます。

第4章

自動化管理

本章の内容

概念

- ▶ 自動化管理の概要 (54ページ)

タスク

- ▶ 自動化のセットアップ (55ページ)

リファレンス

- ▶ 自動化管理のユーザ・インタフェース (57ページ)

概念

自動化管理の概要

Configuration Manager には、HP Operations Orchestration の定義済みフローを使用して標準のシステム動作を自動化する機能があります。

自動化には、次の情報が含まれます。

- ▶ 名前や説明などの一般的な詳細
- ▶ 自動化を実行する CI タイプ
- ▶ 自動化の管理の有無
- ▶ 自動化のリスク計算に使用するパラメータ
- ▶ 自動化セットアップで指定できるパラメータ・マッピング
 - ▶ OO フローから入力される選択リスト
 - ▶ OO フローから入力されるデフォルト値


注： HP Operations Orchestration バージョン 9.0 からフローをインポートした場合、Configuration Manager にはデフォルト値は表示されません。デフォルト値は、セットアップ時または実行時に手動で入力する必要があります。

- ▶ フリー・テキスト
- ▶ 実行時に選択した CI からの値
マッピングできる CI タイプは次のとおりです。
 - ▶ **Node** : ドメイン名, ホスト名, IP アドレス
 - ▶ **Running Software** : ドメイン名, ホスト名, IP アドレス, インストール・パス, ソフトウェア名

タスク

自動化のセットアップ

このタスクでは、HP Operations Orchestration のフローから自動化を作成し、構成する方法を説明します。

 **表示**：自動化のセットアップ・ムービーで、自動化をセットアップして構成する方法のデモンストレーションを見ることができます。ムービーにアクセスするには、
<Configuration Manager のルート・ディレクトリ>%servers%server-0%webapps%docs%movies%Automations_Setup%にある .htm ファイルをクリックしてください。

このタスクでは、次の手順を実行します。

- ▶ 55 ページ「HP Operations Orchestration の接続設定」
- ▶ 56 ページ「HP Operations Orchestration からのフローのインポート」
- ▶ 56 ページ「自動化プロパティの指定」

1 HP Operations Orchestration の接続設定


- a [システム] > [設定] > [統合] > [Operations Orchestration] > [OO Server Location] を選択します。
- b 次の詳細を入力します。

UI の要素	説明
周期間隔	HP Operations Orchestration サーバで自動化フローの結果をチェックする頻度を示す間隔（単位：分）を定義します。 デフォルト ：60 秒
ホスト	HP Operations Orchestration サーバがインストールされているマシンのホスト名。
パスワード	HP Operations Orchestration サーバへの接続に必要なパスワード。


UI の要素	説明
ポート	HP Operations Orchestration サーバで使用するポート。
ユーザ名	HP Operations Orchestration サーバへの接続に必要なユーザ名。
バージョン	HP Operations Orchestration のバージョン。

2 HP Operations Orchestration からのフローのインポート

HP Operations Orchestration からフローをインポートする場合、Configuration Manager で自動化を作成します。

- a [管理] > [自動化管理] を選択します。
- b  をクリックして [フローの選択] ウィンドウを開きます。
- c 左の表示枠でフロー・ツリーをクリックして展開し、Configuration Manager で自動化として実行する HP Operations Orchestration のフローを選択します。
- d [OK] をクリックして [自動化管理] ウィンドウに戻ります。

3 自動化プロパティの指定

- a [自動化] ウィンドウの左の表示枠で、構成する自動化を選択します。
- b 自動化に必要な詳細を入力します。
 - ▶ 自動化の名前は OO フローから自動的に取得されますが、変更も可能です。
 - ▶ 自動化する CI タイプを指定する必要があります。
- c  [保存] をクリックします

リファレンス

自動化管理のユーザ・インタフェース

本項の内容






- ▶ 57ページ「[自動化管理] ページ」

[自動化管理] ページ

このページには、現在管理対象になっている自動化のリストが表示されます。このページで、HP Operations Orchestration のフローをインポートし、構成を変更できます。


利用方法	[管理] > [自動化管理] を選択します。
重要な情報	左の表示枠には、自動化が一覧表示されます。右の表示枠には、左の表示枠で選択した自動化の詳細が表示されます。
関連タスク	170 ページ「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」

左の表示枠

UI の要素	説明
	クリックすると、自動化リストが更新されます。
	クリックすると、選択した自動化に加えた変更を保存できます。
	クリックすると、編集可能なすべての自動化に加えた変更を保存できます。
	クリックすると、自動化リストにフローを追加できます。
	クリックすると、選択した自動化を自動化リストから削除できます。

[自動化] 表示枠 - [自動化の詳細] 領域

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
関連する CI タイプ	この自動化を割り当てる特定の CI タイプを選択できます。  をクリックして [CI の選択] ウィンドウを開きます。 実行中は、選択した CI タイプに割り当てられた自動化のみが表示されます。たとえば、CI タイプとして Windows を選択して自動化を実行すると、Windows CI タイプに関連する自動化と、階層でその上位にある他のブランチが表示されます。
説明	自動化の説明。デフォルトでは、インポートしたフローの説明が自動化の説明として使用されますが、変更も可能です。
フロー パス	HP Operations Orchestration ツリーでインポートしたフローの元のフル・パスと名前を（参考情報として）表示します。
フロー UUID	インポートしたフローの一意の識別子を（参考情報として）表示します。
名前	自動化の名前。デフォルトでは、インポートしたフローの名前が自動化の名前として使用されますが、変更も可能です。

[自動化] 表示枠 - [実行の詳細] 領域

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UIの要素	説明
構成変更の原因	自動化によってUCMDBのCIの変更が発生するかどうかを指定します。[はい] または [いいえ] を選択します。ポリシー定義や自動化分析の際に使用します。
ダウンタイムの原因	自動化によって実行中にCIが使用できない状態になるかどうかを指定します。[はい] または [いいえ] を選択します。ポリシー定義や自動化分析の際に使用します。
コントロールされた実行	<p>このチェック・ボックスを選択すると、選択したフローをコントロールされた自動化として実行するように指定できます。</p> <p>このチェック・ボックスの選択を解除すると、選択したフローをコントロールされない自動化として実行するように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ コントロールされた自動化では、自動化を実行する前にポリシーおよび分析をレビューします。 ▶ コントロールされない自動化では、追加情報なしで自動化が実行されます。 <p>自動化の実行の詳細については、170 ページ「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」を参照してください。</p>
推定リスク レベル	<p>自動化におけるリスク・レベルの客観的評価です。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 不明 ▶ なし ▶ 低い ▶ 中 ▶ 高い <p>ポリシー定義や自動化分析の際に使用します。</p>

[自動化] 表示枠 - [実行パラメータ] 領域

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
<フロー実行パラメータ>	自動化を実行するときに使用するパラメータを指定します。このリストに表示されるパラメータは、選択したフローによって異なります。 注： グレーのアスタリスクは、HP Operations Orchestration フローの必須フィールドを示します。必須値を入力しないと、構成エクスペローラで自動化を実行できません。自動化の実行方法の詳細については、170 ページ「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」を参照してください。

第 5 章

自動化ポリシーの管理

本章の内容

概念

- ▶ 自動化ポリシーの管理の概要 (62ページ)

タスク

- ▶ 自動化ポリシーの定義 (63ページ)
- ▶ Configuration Manager の自動化ポリシー - ユースケース (63ページ)

リファレンス

- ▶ 自動化ポリシーのユーザ・インタフェース (66ページ)

概念

自動化ポリシーの管理の概要

自動化ポリシーは、自動化を実行する上でどのような場合にリスクが高まるかを判断するビジネス・ルールです。自動化ポリシーの評価により、これらのリスクを認識できます。

すべての自動化ポリシーは、自動化ポリシー管理モジュールで管理されています。自動化ポリシーによって、自動化実行の情報および評価に基づいて制限を定義できます。

Configuration Manager は組織のポリシーを事前に評価し、自動化がビジネス・ルールに適合しているかどうかを判断します。

条件の基準に使用できるのは、インパクトの重大度や重要度などの CI 分析情報と、成功率や衝突条件などのフロー統計です。これは、その条件で容認できるしきい値を示します。それぞれのポリシー評価で、違反または合格という結果が出ます。

たとえば、**My_CI** アプリケーションのインパクトの重大度レベルが **[クリティカル]** または **[高い]** である場合、ポリシー違反とするルールを定義できます。自動化がすべての条件を満たす場合、ポリシー違反とみなされます。

自動化の実行方法の詳細については、176 ページ「[自動化実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

自動化ポリシーの定義の詳細については、66 ページ「[自動化ポリシー] ページ」を参照してください。

注：自動化ポリシー管理権限を持っているユーザは、すべてのポリシーを表示、変更できます。

タスク

自動化ポリシーの定義

このタスクでは、新しい自動化ポリシーの定義方法を説明します。



- 1 [管理]> [ポリシー] > [自動化ポリシー] ツールバーで、[新規ポリシーの追加] をクリックします。
- 2 [一般] 領域で、次を入力します。
 - ▶ ポリシーの名前
 - ▶ ポリシーの説明
 - ▶ ポリシーの検証頻度
- 3 [範囲] 領域で、新しい自動化ポリシーを適用するビューを選択します。特定のビューを選択するか、ポリシーをすべてのビューに適用します。
- 4 (オプション) ポリシーへの適合性をテストするCIのCIタイプを選択します。
- 5 [制限] 領域で、必要な自動化/CI条件を定義します。
- 6 [自動化ポリシー] ツールバーで [保存] をクリックして、ポリシーを保存します。

Configuration Manager の自動化ポリシー - ユースケース

本項では、Configuration Manager で自動化ポリシーを定義する例を紹介します。

このシナリオでは、次の手順を実行します。

- ▶ 64 ページ「前提条件」
- ▶ 64 ページ「前提条件 - HP Universal CMDB からの管理ビューのインポート」
- ▶ 65 ページ「Configuration Manager での自動化ポリシーの定義」
- ▶ 65 ページ「ポリシー評価結果の表示」

1 前提条件

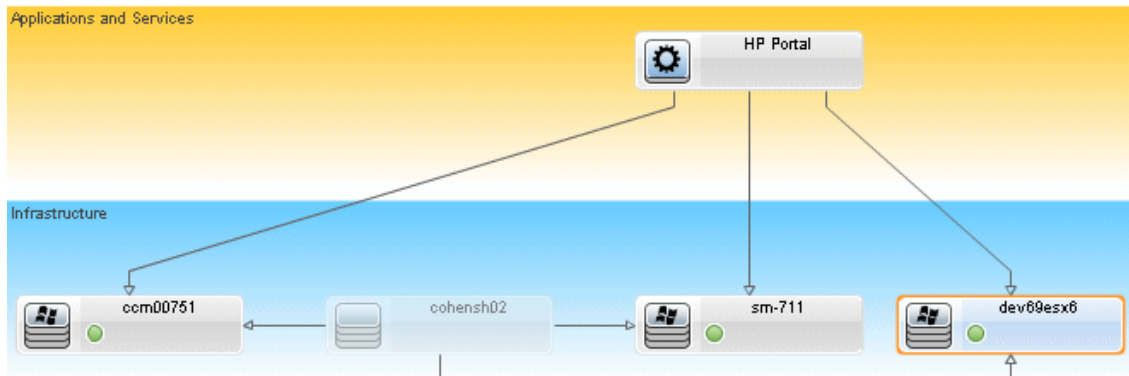
HP Portal アプリケーションの所有者は、このアプリケーションの高可用性を継続的に監視する必要があります。そのため、変更が発生したときに、アプリケーションが合意されている要件に従って機能することを保証することが重要です。

アプリケーション所有者はこの目的を達成するために、次の場合にインジケータを表示する自動化ポリシーを定義します。

- ▶ 変更を実施する自動化によってアプリケーション・ダウンタイムが発生した場合
- ▶ 複数の自動化によって CI が直接的な影響を受けた場合



2 前提条件 - HP Universal CMDB からの管理ビューのインポート

アプリケーション・トポロジは、HP Universal CMDB のビューでモデリングされます。目的のビューをインポートすると、Configuration Manager に対応する管理ビューが存在します。次の図に、Configuration Manager での **HP Portal** アプリケーション・トポロジを示します。



管理ビューをインポートする方法の詳細については、45 ページ「ビューを管理ビュー・リストに追加」を参照してください。

3 Configuration Manager での自動化ポリシーの定義

- a [管理] > [ポリシー] > [自動化ポリシー] を選択し、新しい自動化ポリシーを作成します。
- b [一般] 領域で、次の手順を実行します。
 - ▶ [名前] ボックスに、「HP Portal アプリケーションでのダウンタイムと CI 衝突の原因」と入力します。
 - ▶ (オプション) [説明] ボックスに、適切な説明を入力します。
 - ▶ [検証の実行] チェック・ボックスで、ポリシーの検証頻度を定義します。
- c [範囲] 領域で、次の手順を実行します。
 - ▶ [選択したビュー] を選択し、 ボタンをクリックしてポリシーを適用する管理ビューを選択します。
 - ▶ [CI タイプの割り当て] ボックスで  ボタンをクリックし、ポリシーへの適合性をテストするCIタイプとして [BusinessApplication] を選択します。
- d [制限] 領域で、次の手順を実行します。
 - ▶ 自動化制限条件で [ダウンタイムの原因] を選択します。
 - ▶ CI 制限条件で [Definite Collision exists] を選択します。
- e 新しい自動化ポリシーを保存します。

4 ポリシー評価結果の表示

ポリシー評価結果を、コントロールされた自動化の実行中のコンテキストで表示できます。詳細については、170 ページ「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」を参照してください。

リファレンス

自動化ポリシーのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 66ページ「[自動化ポリシー] ページ」





[自動化ポリシー] ページ

Configuration Manager には、未設定の自動化ポリシーがあります。各ポリシーの説明を表示するには、[ポリシー] 表示枠で目的のポリシーを選択します。ポリシーの説明が [一般] 表示枠の [説明] ボックスに表示されます。

このページでは、自動化ポリシーを定義および編集します。

利用方法	[管理] > [ポリシー] > [自動化ポリシー] を選択します。
重要な情報	このモジュールを使用するには、自動化ポリシー管理権限が必要です。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none">▶ 170 ページ「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」▶ 63 ページ「自動化ポリシーの定義」▶ 63 ページ「Configuration Manager の自動化ポリシー - ユースケース」
参照	176 ページ「[自動化実行] ダイアログ・ボックス」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[新規ポリシーの追加]: 新しいポリシーを作成します。
	[ポリシーの削除]: 選択したポリシーを削除します。
	[すべて保存]: 現在のポリシーに加えたすべての変更を保存します。
	[更新] をクリックすると, [ポリシー管理] ページの情報が更新されます。



[ポリシー] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
<ポリシー・リスト>	未設定およびユーザ定義の自動化ポリシーのリストを表示します。



【一般】表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
説明	ポリシーの説明を入力します。
検証の実行	<p>ポリシーを検証する範囲を選択します。次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 【有効期間の開始日】: このチェック・ボックスだけを選択すると、ポリシーの有効期間がカレンダーで選択した日付から始まり、常に有効になります。[カレンダー] ボタン  をクリックし、開始日時を選択します。 ▶ 【有効期間の終了日】: ポリシーの固定された有効期間を選択します。固定期間を選択するには、【有効期間の開始日】 と 【有効期間の終了日】 の両方のチェック・ボックスを選択する必要があります。[カレンダー] ボタン  をクリックし、終了日時を選択します。 <p>注: どちらのチェック・ボックスも選択しない場合、ポリシー検証は計算されません。</p>
名前	一意のポリシー名を入力します。

【範囲】表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
CI タイプの割り当て	<p>ポリシーへの適合性をテストする CI の CI タイプです。</p> <p> ボタンをクリックすると [CI タイプの選択] ダイアログ・ボックスが開き、CI タイプを選択できます。</p> <p>ポリシー検証が計算されるには、インパクト・トポロジ・マップに選択した CI タイプの CI が 1 つ以上表示されている必要があります。</p> <p>たとえば、ビューで Unix タイプの CI に衝突があっても、[CI タイプの割り当て] ボックスで Windows を選択した場合、Unix タイプの CI に対してはポリシーは評価されません。</p> <p>トポロジ・マップに Windows タイプの CI がない場合、ポリシーは評価されません。</p> <p>注： CI タイプを指定しない場合、ポリシーはすべての CI に適用されます。</p>
ポリシーの割り当て先ビュー	<p>ポリシーを適用するビューを選択できます。</p> <p>▶ [すべてのビュー]：ポリシーをすべての管理ビューに適用します。</p> <p>注： ポリシーをすべてのビュー（管理対象外のビューを含む）に適用するには、自動化ポリシーのすべてのビュー権限が必要です。自動化ポリシーのすべてのビュー権限を持っていない場合、ポリシーを適用できるのは管理対象のビューのみです。</p> <p>▶ [選択したビュー]：ポリシーを適用するビューを選択します。</p> <p> ボタンをクリックすると、[ビューの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>注： [すべてのビュー] を選択するか、[選択したビュー] オプションからビューを選択した場合、ポリシーの有効性は計算されません。</p>

【制限】表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
自動化制限条件	<p>このポリシーの自動化制限条件を示します。</p> <p>たとえば、自動化の初回実行時はポリシー違反が発生することを示すポリシーを定義できます。</p> <p>注：AND 演算子は定義済みのすべての条件を結合します。したがって、このポリシーに対して定義されているすべての条件に自動化が適合する場合のみ、ポリシー違反となります。</p> <p>属性条件を定義するために使用される演算子のリストについては、85 ページ「属性演算子」を参照してください。</p> <p>定義可能な条件の説明については、186 ページ「[自動化分析] > [自動化] 表示枠」を参照してください。</p>

UI の要素	説明
CI 制限条件	<p>このポリシーの CI 制限条件を示します。</p> <p>AND 演算子は定義済みのすべての条件を結合します。したがって、このポリシーに対して定義されているすべての条件に自動化が適合する場合のみ、ポリシー違反となります。</p> <p>ポリシー違反が発生するには、定義されているすべての条件に適合する CI がインパクト・マップに 1 つ以上存在する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 違反 CI は [CI 制限] 表示枠のすべての条件に適合する必要があります。 ▶ CI は [範囲] 表示枠で選択したビューに存在する必要があります。 ▶ CI は [CI タイプの割り当て] ボックスで選択した CI タイプ、またはそのサブタイプである必要があります。 <p>属性条件を定義するために使用される演算子のリストについては、85 ページ「属性演算子」を参照してください。</p> <p>CI 制限条件には次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Collision exists] : 衝突（直接的または間接的）が存在するかどうかをチェックします。 ▶ [Direct Collision exists.] : 直接衝突が存在するかどうかをチェックします。 ▶ [Impact importance.] : インパクトの重要度レベルをチェックします。 ▶ [Impact severity.] : インパクトの重大度レベルをチェックします。 ▶ [Indirect collision exists.] : 間接衝突が存在するかどうかをチェックします。 <p>衝突の詳細については、188 ページ「[[自動化分析] > [衝突] 表示枠」を参照してください。</p> <p>インパクトの重要度およびインパクトの重大度の詳細については、183 ページ「[[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠」を参照してください。</p>

第 6 章

構成ポリシーの管理

本章の内容

概念

- ▶ 構成ポリシーの概要 (74ページ)
- ▶ ベースラインの設定 (76ページ)
- ▶ ポリシー・グループ (76ページ)

タスク

- ▶ ポリシーの定義 (78ページ)
- ▶ Configuration Manager のトポロジ・ポリシー - ユースケース (79ページ)

リファレンス

- ▶ 構成ポリシーのユーザ・インタフェース (85ページ)

トラブルシューティングおよび制限事項 (93 ページ)

概念

構成ポリシーの概要

構成ポリシーでは、ビューで期待される構成を定義できます。ポリシーを管理ビューに適用することにより、標準を設定することができます。ポリシーを使用することによって、基準にしたがってビューを作成し、IT 環境構築をより予測可能にできます。

構成ポリシー・モジュールでは、管理ビューで定義したポリシー・グループとポリシーを管理します。次の 2 つのタイプの構成ポリシーを定義できます。

▶ ベースライン・ポリシー

ベースライン・ポリシーは、複合 CI 用のベースラインであり、ビューに含まれる CI と比較する属性を選択します。たとえば、「ビュー内の運用サーバは、1 台あたり CPU を 2 基以上搭載しなければならない」というベースライン・ポリシーを定義するとします。このポリシーでは、ビュー内にあるすべてのサーバ CI がベースライン CI と比較されます。ポリシーを満たしていない CI が存在すると、ビューはポリシー違反とみなされます。

注: 条件を満たした構成を持つ CI がすでに存在する場合、これをベースラインとして選択することができます。

▶ トポロジ・ポリシー

トポロジ・ポリシーでは、ビューの構成を決定する条件 TQL を定義します。たとえば、「運用 J2EE の各クラスタは 2 台以上のサーバで構成する」という条件を条件 TQL で定義します。この条件を満たしたビューは、トポロジ・ポリシーを満たすこととなります。この条件を満たさないビューは、ポリシー違反とみなされます。

ポリシーに適合する構成ではなく、違反するトポロジを TQL で定義する方が簡単な場合もあります。このような場合は、トポロジ・ポリシーの条件を逆にするオプションを使用することにより、ポリシーの適合条件を逆にすることができます（上の例では、サーバが 2 台未満のクラスタのみが条件を満たすことになります）。

いずれのタイプのポリシーでも、次の項目を定義できます。

- ▶ **[有効性]**：ポリシーの有効期間を設定します。
- ▶ **[詳細フィルタ]**：ポリシーをビュー内の CI のサブセットに限定する TQL クエリを選択します。たとえば、ベースライン CI のタイプが「Oracle」の場合、フィルタによって「Oracle version 9」に限定することができます。

いずれのタイプのポリシーも、Configuration Manager のすべての管理ビューに適用できます。

ポリシーの定義の詳細については、86 ページ「[構成ポリシー] ページ」を参照してください。

注：

- ▶ このモジュールを使用するには、構成ポリシー管理権限が必要です。
- ▶ また、次のいずれかの権限も必要です。
 - ▶ ビュー書き込み権限：ビューの割り当てと削除を行うことができます。
 - ▶ ビュー読み取り権限：ポリシーのプレビューと管理 CI からのベースライン・ポリシーの作成を行うことができます（ビュー書き込み権限に含まれます）。

ベースラインの設定

構成ベースラインとは、正式なレビューを行った結果、操作の基準として承認されたサービス、製品、インフラストラクチャの構成を指します。ベースラインは、構成の構造、コンテンツ、詳細情報をキャプチャし、相互に関連性のある構成項目のセットを示します。

ベースラインを作成することにより、次の操作が可能になります。

- ▶ サービスの開発におけるマイルストーンを設定
- ▶ 定義した入力セットからサービス・コンポーネントを構築
- ▶ 後日、バージョンを変更または再構築
- ▶ 変更やリリースの準備として、すべての関連コンポーネントをまとめる
- ▶ 構成の監査や取り消し（変更後など）のベースを提供

ポリシー・グループ

ポリシーを論理的にまとめることにより、ポリシー・グループを定義することができます。ポリシー・グループには、ベースライン・ポリシーとトポロジ・ポリシーを含めることができます。個々のポリシーではなくポリシー・グループをビューに割り当てることにより、ポリシー管理が簡単になります。また、ポリシー・グループ内でサブグループを定義することも可能です。

グループ内のポリシーは、コピーして別のグループまたはツリーのルートに貼り付けることができます。この方法を使うと、ポリシー・グループにポリシーを簡単に追加できます。既存のポリシーに類似したポリシーを定義する場合は、コピーしてから変更してください。コピーしたポリシーを変更しても、元のポリシーには影響しません。また、グループのポリシーを切り取って、別のポリシーに貼り付けることもできます。この場合、ポリシーは元のグループから削除されます。

ポリシー・グループをコピーまたは切り取ってから、別のポリシー・グループまたはポリシー・ツリーのルートに貼り付けることも可能です。1回の操作で切り取りまたはコピーできるのは、単一のポリシーまたはグループのみです。

ポリシーやポリシー・グループをコピーまたは切り取ってから他の場所に貼り付けても、ビューの割り当てはそのまま変わりません。ただし、グループ・ポリシーがビューに割り当てられている状態で、グループ内のポリシーを別のグループにコピーすると、コピーされたポリシーは、前のグループではなく新しいグループのビューに適用されます。

ポリシー・グループの定義の詳細については、86 ページ「[構成ポリシー] ページ」を参照してください。

タスク

ポリシーの定義

このタスクでは、新しいポリシーを定義し、管理ビューに適用する方法を説明します。



- 1 [構成ポリシー] ツールバーの [**ポリシーの追加**] ボタンをクリックし、[ベースラインポリシーの追加] または [トポロジポリシーの追加] を選択します。
- 2 [詳細] 表示枠の [一般] 領域で、ポリシーの名前と説明を入力します。
- 3 [詳細] 表示枠の [ビュー] 領域で、新しいポリシーの割り当て先となるビューを選択します。
- 4 [詳細] 表示枠の [有効性] 領域で、ポリシー検証の期間を選択します。
- 5 [詳細] 表示枠の [フィルタ] 領域で、ポリシーの適合性のテスト対象となる CI の CI タイプを選択します。オプションで、ポリシーの適合性をテストする CI の CI タイプをフィルタする際に、詳細フィルタとして使用する TQL を選択できます。
- 6 トポロジ・ポリシーについては、[詳細] 表示枠の [条件] 領域で条件タイプと条件 TQL を設定します。

ベースライン・ポリシーについては、[詳細] 表示枠の [ベースライン CI] 領域でベースライン CI と属性を設定します。



- 7 完了したら、[ポリシー管理] ツールバーの [**保存**] をクリックし、ポリシーを保存します。

Configuration Manager のトポロジ・ポリシー - ユースケース

本項では、Configuration Manager でのトポロジ・ポリシーのユースケースを紹介します。

このシナリオでは、次の手順を実行します。

- ▶ 79 ページ「前提条件」
- ▶ 81 ページ「UCMDB での条件 TQL クエリの作成」
- ▶ 83 ページ「Configuration Manager でのトポロジ・ポリシーの定義」

1 前提条件

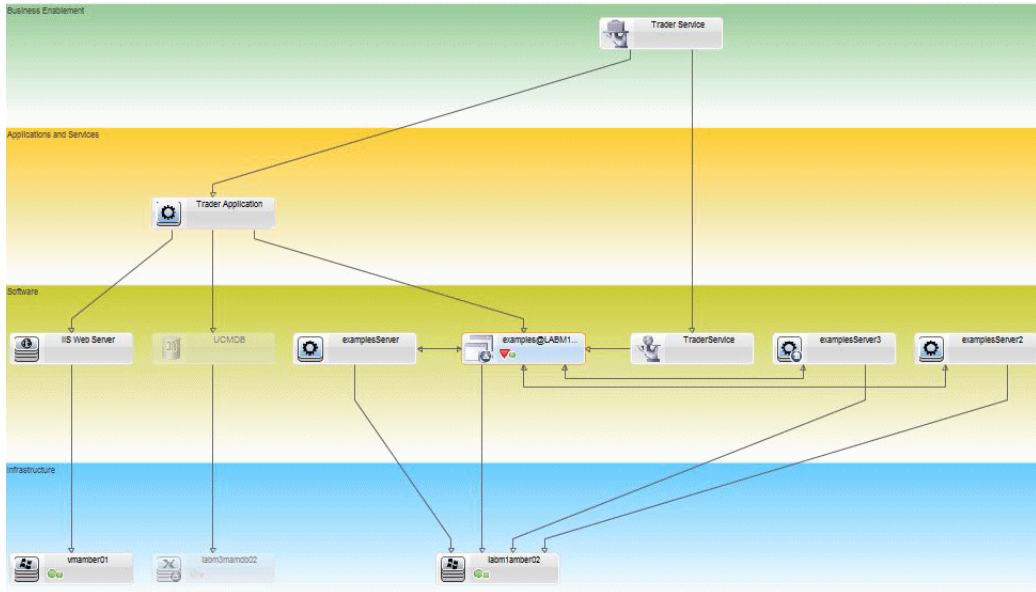
トレーダ・サービスの所有者は、サービスが高い可用性と復元性を発揮していることを継続的に監視する必要があります。このサービスには、複数の Web Logic サーバで構成される J2EE Cluster を使用します。各サーバは Windows ホスト上で稼働します。

サービスの所有者は、クラスタでこの構成をサポートする場合、十分なレベルのサービス提供とアプリケーションの応答時間を実現するためには物理ホストが 3 台以上必要になることを特定しました。したがって、変更が発生した状況でも、合意された要件に基づいてサービスを確実に連続稼働するためには、適切なレベルのリソースを確保することが重要になります。

そこでサービスの所有者は、Configuration Manager のトポロジ・ポリシーを定義し、クラスタをサポートするホスト数を監視することにしました。つまり、サービスをサポートするクラスタに含まれるホスト数が 2 台以下になった場合、インジケータで確認できるようにしました。

第 6 章・構成ポリシーの管理

サービス・トポロジは UCMDB のビューでモデル化され、これに対応する管理ビューが Configuration Manager に存在します。次の図は、Configuration Manager でのサービス・トポロジを示します。

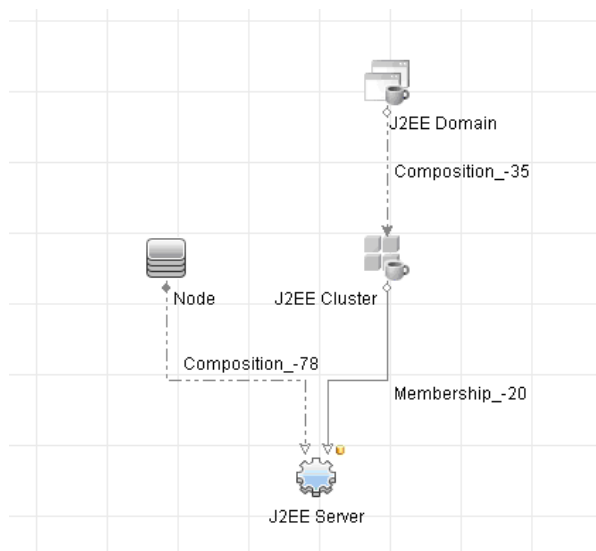


2 UCMDB での条件 TQL クエリの作成

UCMDB ウィンドウを開きます（[管理] > [UCMDB ファウンデーション] を選択し、ログインします）。

[モデリング スタジオ] を開きます。[リソース] タブで、リソース・タイプとして [ビュー] を選択し、[Trader] ビューを探します。ダブルクリックして開きます。このビューには、J2EE ドメインと Windows ホスト間の接続を定義する関係が含まれています。

次の図は、UCMDB のビューの関連部分を示します。



J2EE ドメインと Node CI との間にある関係パスから、J2EE ドメインとホスト（Node CI）間の複合関係を示すクエリを作成します。

複合関係を含むクエリを作成するには、次の手順を実行します。



- a [モデリング スタジオ]の[新規作成]ボタンをクリックし、[クエリ]を選択します。
- b [J2EE Domain] と [Node] の各 CI を [モデリング] 表示枠にドラッグします。
- c 両方の CI を選択して、新しい複合関係を追加します（右クリックのコンテキストメニューを使用）。

第 6 章・構成ポリシーの管理

d 複合関係を編集して、次のパス要素を追加します。

- ▶ J2EE Domain - Composition - J2EE Cluster
- ▶ J2EE Cluster - Membership - J2EE Server
- ▶ J2EE Server - Composition - Windows

複合関係の方向は、[J2EE Domain] から [Node] である点に注意してください。

複合関係の追加

↑ + 複合関係の追加
クエリノード間に必要な複合関係を定義します。

ソース	関係	ターゲット	関係の方向
J2EE Domain	<input type="checkbox"/> Composition	J2EE Cluster	→
J2EE Cluster	<input type="checkbox"/> Membership	J2EE Server	→
J2EE Server	<input type="checkbox"/> Composition	Windows	←

ソース Managed Object 関係 Link ターゲット Managed Object

関係の名前: Virtual - Compound

最小ステップ数: 1

最大ステップ数: 5

最初の複合レベルで停止する

可視

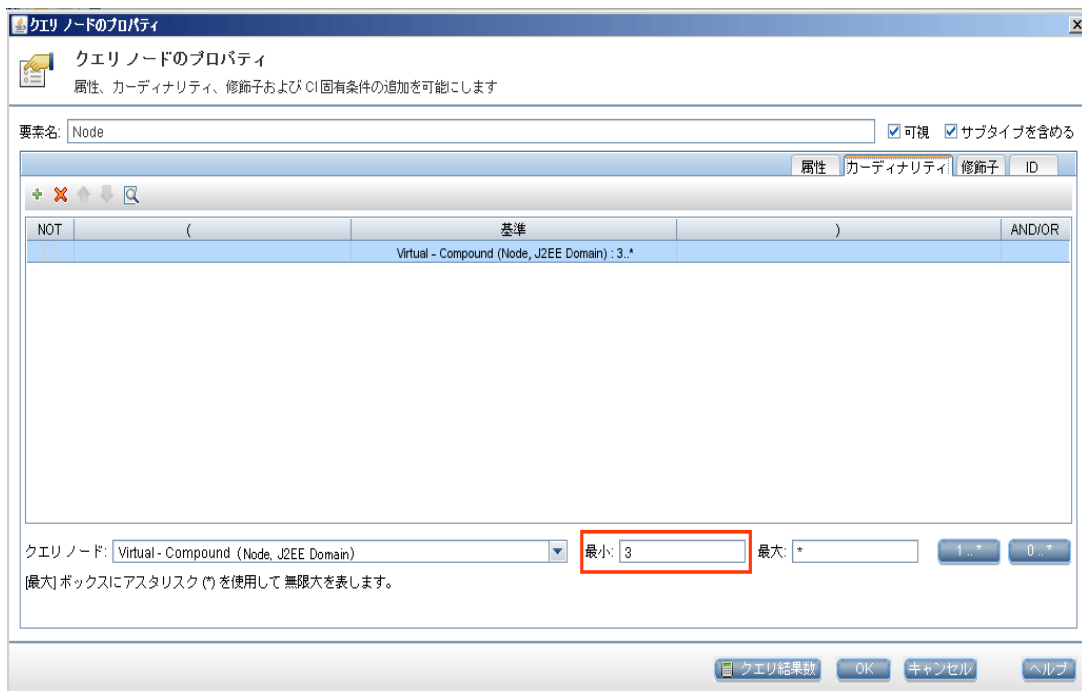
ソースおよびターゲット CI の間にフルパスを表示

関係の方向: J2EE Domain → Node

関係の制限: 全関係を許可

OK キャンセル ヘルプ

- e [Node] のカーディナリティの値の最小値を 3 に設定します。[Node] CI を右クリックして [クエリノードのプロパティ] を選択し、[カーディナリティ] タブを選択して [最小] ボックスに「3」と入力します。



- f 完了したらクエリを保存します。

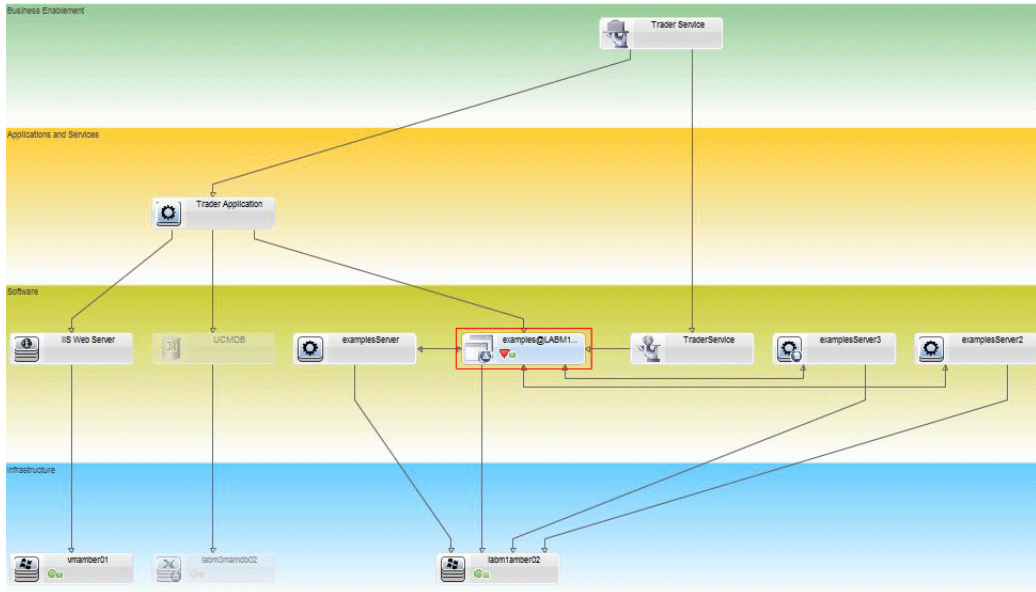
3 Configuration Manager でのトポロジ・ポリシーの定義

トポロジ・ポリシーを定義するには、次の手順を実行します。

- Configuration Manager で [構成ポリシー] を開き、新しいトポロジ・ポリシーを作成します。
- 名前と説明を設定し、新規作成したポリシーを「Trader」管理ビューに割り当てます。
- [条件]で、UCMDB で作成したクエリを選択し、[条件タイプ]で[正]を選択します。
- 新規作成したポリシーを保存し、プレビューします。

第 6 章・構成ポリシーの管理

この新しいポリシーは、J2EE Cluster をサポートするノード数が 2 以下になると、次の図で示すように、J2EE Domain の違反を通知します。



リファレンス

構成ポリシーのユーザ・インタフェース



本項の内容

- ▶ 85ページ「属性演算子」
- ▶ 86ページ「[[構成ポリシー] ページ」
- ▶ 91ページ「[[ポリシー プレビュー] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 92ページ「[[複合 CI の選択] ダイアログ・ボックス」

属性演算子

次の表は、属性の条件定義で使用する演算子を示します。

演算子	説明
含む	属性値に指定した値が含まれるかどうかをチェックします。
含む(大文字小文字の区別なし)	属性値に指定した値が含まれるかどうかをチェックします。大文字と小文字は区別されません。
等しい	属性値が指定した値と等しいかどうかをチェックします。
等しい(大文字小文字の区別なし)	属性値が指定した値と等しいかどうかをチェックします。大文字と小文字は区別されません。
大きい	属性値が指定した値より大きいかどうかをチェックします。
以上	属性値が指定した値以上かどうかをチェックします。











演算子	説明
含まれる	属性値が定義した値リストに含まれるかどうかをチェックします。値のリストを編集するには、[値の編集] ボタン  をクリックします。
含まれる (大文字小文字の区別なし)	属性値が定義した値リストに含まれるかどうかをチェックします。大文字と小文字は区別されません。値のリストを編集するには、[値の編集] ボタン  をクリックします。
小さい	属性値が指定した値より小さいかどうかをチェックします。
以下	属性値が指定した値以下かどうかをチェックします。
類似	ワイルドカード (%) を使用します。[類似] を指定すると、名前の一部を検索できます。ワイルドカード文字を名前の一部として挿入できます。
類似 (大文字小文字の区別なし)	ワイルドカード (%) を使用します。[類似 (大文字小文字の区別なし)] を指定すると、名前の一部を検索できます。文字列の大文字と小文字は区別されません。
等しくない	属性値が指定した値と等しくないかどうかをチェックします。
Null ではない	属性値が Null でないかどうかをチェックします。



[構成ポリシー] ページ

このページでは、構成ポリシーを定義および編集します。

利用方法	[管理] > [ポリシー] > [構成ポリシー] を選択します。
重要な情報	左の表示枠には、展開可能なポリシー・リストが表示されます。[詳細] 表示枠には、左の表示枠で選択したポリシーの詳細が表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[ポリシー グループの追加] をクリックすると、新しいポリシー・グループを定義できます。
	[ポリシーの追加] をクリックすると、新しいポリシーを定義できます。次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ベースライン ポリシーの追加 ▶ トポロジ ポリシーの追加
	[削除] をクリックすると、選択したポリシーが削除されます。
	[切り取り] をクリックすると、選択したポリシーまたはグループは現在の場所から削除され、クリップボードに保存されます。
	[コピー] をクリックすると、選択したポリシーまたはグループがクリップボードにコピーされます。
	[貼り付け] をクリックすると、コピーしたポリシーまたはグループが、選択した場所に追加されます。
	[取り消し] をクリックすると、最後に実行した操作が取り消されます。
	[保存] をクリックすると、変更内容が現在のポリシーに保存されます。
	[プレビュー] をクリックすると、[ポリシー プレビュー] ダイアログ・ボックスが開き、管理ビューのポリシー適合性が表示されます。 注： ユーザがビュー読み取り権限を持っているビューのみがサーバに送信され、プレビュー結果に表示されます。ユーザが特定のビューのビュー読み取り権限を持たずにプレビューしようとする、エラー・メッセージが表示されます。
	[ポリシー分析の再計算] をクリックすると、すべての管理ビューでポリシー分析が再計算されます。

UI の要素	説明
	<p>[レポートのエクスポート] をクリックすると、構成ポリシー・レポートのデータで使用するエクスポート形式を選択できます。次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Excel : スプレッドシートで表示できる .xls (Excel) ファイル形式でエクスポートします。 ▶ PDF : PDF 形式でエクスポートします。 ▶ CSV : スプレッドシートで表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式でエクスポートします。
	<p>[更新] をクリックすると、ポリシー・リストが更新されます。</p>

左の表示枠





<p>重要な情報</p>	<p>[ポリシー] (ポリシー・ツリーのルート) の横にある矢印をクリックすると、ツリーが展開されます。ポリシー・グループの横にある矢印をクリックすると、グループに含まれるポリシーのリストが展開されます。</p>
---------------------	---

[詳細] 表示枠

<p>重要な情報</p>	<p>左の表示枠でポリシー・グループを選択すると、そのグループの詳細情報が [詳細] 表示枠に表示されます。左の表示枠でポリシーを選択すると、そのポリシーの詳細情報が [詳細] 表示枠に表示されます。</p>
---------------------	--



[詳細：<ポリシー>] 項


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
フィルタ	<p>本項は、ポリシーへの適合性がテスト済みの CI をフィルタするために使用します。この項に含まれる要素：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [詳細フィルタ]：選択結果の絞り込みに使用するフィルタ TQL です。 ボタンをクリックして [TQL の選択] ダイアログ・ボックスを開き、フィルタ TQL を選択します。 ▶ [CI タイプ]：ポリシーへの適合性をテストする CI の CI タイプです。 ボタンをクリックして [CI タイプの選択] ダイアログ・ボックスが開き、CI タイプを選択します。
一般	<p>この項に含まれる要素：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [説明]：ポリシーの説明を入力します。 ▶ [ポリシー名]：ポリシーの名前を入力します。
有効性	<p>ポリシーを検証する期間を指定します。[カレンダー] ボタン  をクリックし、開始日時と終了日時を選択します。</p>
ビュー	<p>[ポリシーの割り当て先ビュー] フィールドには、このポリシーが適用されるビューが表示されます。 ボタンをクリックして [ビューの選択] ダイアログ・ボックスが開き、ポリシーを適用するビューを選択します。</p>

[ベースライン CI] 項


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	<p>次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [管理 CI からベースラインを作成]: ビューから既存の CI を選択し、ベースライン CI として使用します。 ▶ [既存の構成モデルからベースラインを作成]: 構成分析モジュールからモデルを選択し、ベースライン CI として使用します。
	<p>[ベースラインに CI クラス タイプを追加] をクリックし、ベースライン定義に追加する CI タイプを選択します（ベースラインが定義されていない場合、[ベースラインの作成] と表示されます）。CI カウント機能を使用すると、同じタイプの CI を複数追加できます。</p>
	<p>[選択したアイテムをベースラインから削除] をクリックすると、選択した CI がベースライン定義から削除されます。</p>
<p><チェック・ボックス列></p>	<p>属性の横にあるチェック・ボックスを選択すると、属性をベースライン定義に追加できます。列ヘッダのチェック・ボックスを選択すると、すべての属性が選択されます。</p>
<p><比較可能列></p>	<p>選択した属性の [比較可能] 列に何も表示されていない場合、その属性は比較項目ではありません。</p> <p>選択した属性の [比較可能] 列に  アイコンが表示されている場合、その属性は比較項目です。</p> <p>選択した属性の [比較可能] 列に  アイコンが表示されている場合、その属性は比較項目であり、システムの照合アルゴリズムで順位が割り当てられています。</p>
<p>[属性名] 列</p>	<p>選択した CI の属性名。</p>

UI の要素	説明
【属性値】列	<p>選択した CI の属性値。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 属性タイプが [Enum] の場合、ドロップダウン・リストから値を選択するか、フリーテキストを使って新しい値を入力します。 ▶ 属性タイプが [string_list] の場合、 ボタンをクリックして【属性名】ダイアログ・ボックスを使用することで、複数の値を追加できます。
CI タイプ	<p>ベースラインから CI タイプを選択します。この CI タイプの属性がテーブル形式で表示されます。</p> <p>注：ベースラインでは、同じタイプの CIT を複数選択することができます。このモードは、共通定義モードと呼ばれます。このモードでは、選択した CIT のうちの 1 つを変更すると、変更内容がすべての CIT に適用されます。</p>
追加の内部 CI を違反とみなす	<p>【追加の内部 CI を違反とみなす】を選択する場合、追加の内部 CI が存在する CI をこのベースラインと比較すると、ポリシー違反とみなされます。</p>
【演算子】列	<p>属性と属性値の関係を定義する演算子を選択します。詳細については、85 ページ「属性演算子」を参照してください。</p>




【ポリシー プレビュー】ダイアログ・ボックス

このページでは、管理ビューのポリシー適合レベルをプレビューできます。

利用方法	【構成】 ツールバーの 【プレビュー】  をクリックします。
------	--

第6章・構成ポリシーの管理

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UIの要素	説明
	[計算の続行] をクリックすると、一時停止していたポリシー適合レベルの計算が続行されます。
	[計算の一時停止] をクリックすると、ポリシー適合レベルの計算が一時停止します。
	[ポリシー詳細の表示] をクリックすると、選択したビューのCIに関する詳細情報が表示されます。
CI名	選択したビューに含まれるCIの名前。
ポリシー適合性	ビューがポリシーに適合しているレベル (%)。
ポリシーステータス	選択したビューの各CIに関するポリシーのステータス。
ステータス	ビューのステータスを選択します。
ビュー名	ビューの名前。

[複合CIの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ベースライン定義で使用するCIを選択します。

利用方法	[詳細] 表示枠の [ベースライン] 項から、[管理CIからベースラインを作成] を選択します。
重要な情報	ベースライン定義で使用するCIを選択すると、その定義で選択されていたCIタイプは削除されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UIの要素	説明
<CIのリスト>	選択したビューに含まれるCIの名前とタイプのリスト。ベースラインCIとして使用するCIを選択します。
フィルタ	リスト内のCIのフィルタに使用する文字列を入力します。

UI の要素	説明
ステータス	[実際のステータス] または [認証済みのステータス] のいずれかを選択します。
ビュー	ドロップダウン・リストからビューを選択します。

トラブルシューティングおよび制限事項

構成ポリシーを操作する際には、次のような制限があります。

条件 TQL クエリでは、管理対象でない属性で属性条件を指定することはできません。

第 III 部

アプリケーション

第7章

ホーム・ページ

本章の内容

概念

- ▶ ホーム・ページの概要 (98ページ)

リファレンス

- ▶ ホーム・ページのユーザ・インタフェース (99ページ)

概念

ホーム・ページの概要

ホーム・ページでは、Configuration Manager が監視する主要なデータをダッシュボードで表示します。このページでは、認証ステータス別の管理 CI の数、ポリシー・ステータス別の CI の数、認証済みの変更の数、非準拠 CI の数などのデータについて、時間経過に伴う変化をグラフで表示します。

注：表示できるのは、ビュー読み取り権限を持っているビューの CI のみです。

リファレンス

ホーム・ページのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 99ページ「ホーム・ページ」

ホーム・ページ



このページでは、管理ビューに関するデータを概要で示します。

注：すべての表示枠で、ユーザがビュー読み取り権限を持っているビューのCIのみが表示されます。

利用方法	[アプリケーション] > [ホーム] を選択します。
重要な情報	<p>[管理 CI] 表示枠には、選択した期間に含まれる認証済み CI と未認証 CI の数が表示されます。</p> <p>[ポリシー サマリ] 表示枠には、ポリシーに適合している CI と違反している CI の数がポリシーとステータスごとに表示されます。</p> <p>[認証済みの変更] 表示枠には、選択した期間に含まれる認証済みの変更の数が表示されます。</p> <p>[非準拠 CI] 表示枠には、ベースライン・ポリシーに適合する CI と違反する CI の合計数が表示されます。</p> <p>注：ホーム・ページに含まれる表示枠のレイアウトは、ドラッグして変更できます。</p>

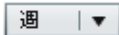



左の表示枠

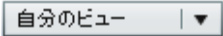
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UIの要素	説明
	[お気に入りビューのみを表示する] をクリックすると、すべてのビューの表示とお気に入りビューのみの表示を切り替えることができます。
	クリックすると、表示データが更新されます。
新規ポリシー違反	CIの合計数に対するポリシー違反の数を、管理ビューごとに一覧表示します。
認証待ち	CIの合計数に対する未認証CIの数を、管理ビューごとに一覧表示します。

【認証済みの変更】表示枠





ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UIの要素	説明
	グラフ表示する期間を選択します。次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 週 ▶ 月 ▶ 3ヶ月 ▶ 年
	クリックすると、グラフの凡例が表示されます。
	クリックすると、テーブル形式を変更できます。
	クリックすると、グラフ形式を変更できます。

UI の要素	説明
	グラフで表示するビュー（1つまたは複数）を選択します。
<グラフ>	選択した期間に含まれる認証済みの変更の数が表示されます。





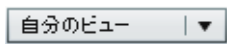

[管理 CI] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	グラフ表示する期間を選択します。次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 週 ▶ 月 ▶ 3ヶ月 ▶ 年
	クリックすると、グラフの判例を表示できます。
	クリックすると、テーブル形式を変更できます。
	クリックすると、グラフ形式を変更できます。
<グラフ>	選択した期間に含まれる認証済み CI と未認証 CI の数が表示されます。緑色の領域は認証済み CI、青色の領域は未認証 CI を示します。

[非準拠 CI] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	グラフ表示する期間を選択します。次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 週 ▶ 月 ▶ 3ヶ月 ▶ 年
	クリックすると、グラフの凡例が表示されます。
	クリックすると、テーブル形式を変更できます。
	クリックすると、グラフ形式を変更できます。
	グラフで表示するビュー（1つまたは複数）を選択します。
	グラフで表示するポリシーを選択します。
<グラフ>	すべてのベースライン・ポリシーに適合している CI（準拠 CI）の数は緑色のバー、ベースライン・ポリシーに違反している CI（非準拠 CI）は赤色のバーで表示されます。

[ポリシー サマリ] 表示枠

[ポリシー サマリ] 表示枠の詳細については、112 ページ「[ポリシー サマリ] ページ」を参照してください。

第 8 章

ビュー・サマリ

本章の内容

概念

- ▶ ビュー・サマリの概要 (104ページ)

タスク

- ▶ 自動ステータス遷移のステータスのレビュー (105ページ)

リファレンス

- ▶ ビュー・サマリのユーザ・インタフェース (106ページ)

概念

ビュー・サマリの概要

ビュー サマリでは、すべての管理ビューのサマリ情報として、認証レベル、ポリシー・ステータス、最終認証日時、自動ステータス遷移のステータスなどが表示されます。このページは、管理ビューにアクセスするポータルであり、ステータス管理モジュールにドリルダウンできます。また、データをレポート形式でエクスポートすることもできます。

ポリシー・ステータス情報では、ビューのポリシー適合レベルを、実際のステータスと認証済みのステータスの両方で追跡します。ポリシーに違反しているビューについては、ドリルダウンによって詳細情報（違反 CI とポリシー）を参照できます。


自動ステータス遷移情報では、ビュー・レベルの認証を追跡できます。ビューが手動または自動のどちらで管理されているかを確認できます。また、認証が必要なビューを簡単に特定でき、ドリルダウンによって適切な操作を実行できます。

また、ビューが最後に認証された日時、認証したユーザ、認証した変更の数の追跡も可能です。最終認証に関する詳細情報のドリルダウンもできます。

注：ビュー サマリには、ビュー読み取りまたはビュー書き込み権限を持っているビューのみが表示されます。

タスク

自動ステータス遷移のステータスのレビュー

特定のビューの [自動ステータス遷移のステータス] 列で  をクリックすると、その実行ステータスが表示されます。

それぞれの実行について、変更日時と変更件数が表示されます。適合していないルールがある場合は、それも表示されます。

- ▶ すべての実行ルールに適合し、すべての変更が認証されている場合、[**詳細を表示**] リンクをクリックすると履歴の比較（認証済みのステータス）モジュールが開き、最新の認証の詳細を確認できます。
- ▶ 認証ルールに適合しない変更がある場合、または変更を認証しようとして失敗した場合、[**詳細を表示**] リンクをクリックするとステータス管理モジュールが開き、変更をレビューして手動で認証できます。
- ▶ 一部の変更のみが認証され、すべての認証ルールに適合しない変更がある場合、認証された変更の横にある [**詳細を表示**] リンクをクリックすると履歴の比較（認証済みのステータス）モジュールが開き、未認証の変更の横にある [**詳細を表示**] リンクをクリックするとステータス管理モジュールが開きます。

リファレンス

ビュー・サマリのユーザ・インタフェース

本項の内容







- ▶ 106ページ「[ビュー サマリ] ページ」

[ビュー サマリ] ページ

このページでは、すべての管理ビューについて、認証とポリシーへの適合ステータスがサマリで表示されます。

利用方法	[アプリケーション] > [ビュー サマリ] を選択します。
重要な情報	列ヘッダをクリックすると、その列の順序でビュー・サマリがソートされます。列ヘッダをクリックすると、黒い小さな三角形が表示されます。上向きの三角形は昇順ソート、下向きの三角形は降順ソートを示します。列ヘッダをもう一度クリックすると、降順と昇順を切り替えることができます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	[お気に入りビューのみを表示する] をクリックすると、すべてのビューの表示とお気に入りビューのみの表示を切り替えることができます。
	[レポートのエクスポート] をクリックすると、[ビュー サマリ] のレポート・データで使用するエクスポート形式を選択できます。次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ Excel : スプレッドシートで表示できる .xls (Excel) ファイル形式でエクスポートします。 ▶ PDF : PDF 形式でエクスポートします。 ▶ CSV : スプレッドシートで表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式でエクスポートします。
	[更新] をクリックすると、ポリシー・リストが更新されます。
	ビュー名の横に警告アイコンが表示されている場合は、アイコンの上にカーソルを置くとツールチップに警告が表示され、アイコンをクリックするとダイアログ・ボックスが開いて警告が表示されます。
	ビュー名の横に情報アイコンが表示されている場合は、アイコンの上にカーソルを置くとツールチップにメッセージが表示され、アイコンをクリックするとダイアログ・ボックスが開いてメッセージが表示されます。
	ビューの自動ステータス遷移を表示します。
<ビューのフィルタ・ボックス>	表示するビューに適用するフィルタで使用する文字列を入力します。入力した文字列が名前に含まれるビューのみが表示されます。
認証レベル	ビューの認証レベルをグラフ形式と数値 (CI の合計数に対する認証済み CI の数) の両方で表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ カーソルをグラフの上に置くと、データの割合 (%) がツールチップで表示されます。

UI の要素	説明
認証レベルの凡例	認証レベルのグラフの凡例。 次のカテゴリが表示されます。 ▶ 認証済み CI ▶ 未認証 CI
最終認証日時	ビューが最後に認証された日時。日付をクリックすると、認証履歴が開き、その時点でのビューのスナップショットが表示されます。
データの最終更新日時	ビューが最後に更新された日時。
ポリシー ステータス	ビューのポリシーのステータスを、実際のステータスと認証済みのステータスの両方について棒グラフで表示します。 カーソルをグラフの上に置くと、データの割合 (%) がツールチップで表示されます。
ポリシー ステータスの凡例	ポリシー・ステータス・グラフの凡例。 次のカテゴリが表示されます。 ▶ 適合 ▶ 違反
ビュー名	ビュー名をクリックすると [ステータス管理] ページが開き、選択したビューが表示されます。

第 9 章

ポリシー・サマリ

本章の内容

概念

- ▶ ポリシー・サマリの概要 (110ページ)

リファレンス

- ▶ ポリシー・サマリのユーザ・インタフェース (112ページ)

概念

ポリシー・サマリの概要

ポリシー・サマリ・モジュールは、Configuration Manager で定義したすべてのポリシーのサマリ情報を提供します。ポリシーを定義したすべての CI について、ポリシー・ステータスを表示します。また、ポリシー・サマリのデータをレポート形式でエクスポートすることもできます。

注：ポリシー統計の計算は、ビュー読み取り権限があるビューについてのみ実行されます。

リファレンス



ポリシー・サマリのユーザ・インタフェース

本項の内容




- ▶ 112ページ「[ポリシー サマリ] ページ」

[ポリシー サマリ] ページ

このページでは、ポリシーの適合レベルをポリシーごとにサマリで表示します。

利用方法	[アプリケーション] > [ポリシー サマリ] を選択します。
重要な情報	<p>各ポリシーについて、適合ステータスごとにビュー内のCIの数を表示します。表示可能なステータスは、[ポリシー ステータスの凡例] で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">▶  適合▶  違反 <p>列ヘッダをクリックすると、その列の順序でポリシー・サマリがソートされます。列ヘッダをクリックすると、黒い小さな三角形が表示されます。上向きの三角形は昇順ソート、下向きの三角形は降順ソートを示します。列ヘッダをもう一度クリックすると、降順と昇順を切り替えることができます。</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[お気に入りビューに関連するポリシーのみを表示する]をクリックすると、すべてのポリシーの表示とお気に入りビューに関連するポリシーのみの表示を切り替えることができます。
	<p>ポリシー・サマリ・レポートのデータで使用するエクスポート形式を選択するには、[レポートのエクスポート]をクリックします。次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ['ポリシー サマリ' レポートを Excel にエクスポート]: スプレッドシートで表示できる .xls (Excel) ファイル形式でエクスポートします。 ▶ ['ポリシー サマリ' レポートを PDF にエクスポート]: PDF 形式でエクスポートします。 ▶ ['ポリシー サマリ' レポートを CSV にエクスポート]: スプレッドシートで表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式でエクスポートします。
	[更新]をクリックすると、ポリシー・リストが更新されます。

左の表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
ポリシー名	<p>ポリシーの名前。</p> <p>ポリシー名の上にカーソルを置くと、そのポリシーの詳細情報（説明とルールの有効性）がツールチップに表示されます。</p>
ポリシー ステータス	<p>ポリシーの適合ステータスを、実際のステータスと認証済みのステータスについて棒グラフで表示します。グラフの上にカーソルを置くと、サマリ情報として CI の割合 (%) と数がツールチップに表示されます。</p>

右の表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UIの要素	説明
<ビュー・テーブルごとの内訳>	左の表示枠で選択したポリシーについて、ポリシー適合に関するデータをビューごとにテーブル形式で表示します。各ビューのCIの数をステータスごとに表示します。

第 10 章

構成分析

本章の内容

概念

- ▶ 構成分析の概要（116ページ）

タスク

- ▶ 比較用の構成モデルの定義（119ページ）
- ▶ 類似する CI のグループを含む CI の選択（121ページ）

リファレンス

- ▶ 構成分析のユーザ・インタフェース（123ページ）

概念

構成分析の概要

本項の内容

- ▶ 116 ページ「構成モデリング」
- ▶ 117 ページ「環境セグメント分析」

構成モデリング

構成モデリング・モジュールでは、管理ビューの複合 CI を構成モデルと比較するための環境を作ることができます。構成モデルとは複合 CI を記述したもので、トポロジ/階層、複合 CI の属性を含んでいます。構成モデルは次のいずれかの方法で作成できます。

- ▶ 任意（ユーザが完全に自由にモデリング可能）
- ▶ 複合 CI から作成（その複合 CI が実際にモデル比較の候補かどうかは無関係）
- ▶ ベースライン・ポリシーからインポート
- ▶ 類似する複合 CI のグループに基づく

比較を行うと、この表示枠には複合 CI ごとにモデルとの一致率が棒グラフで表示されます。一致率は、トポロジおよび各複合 CI の属性について、複合 CI とモデルを比較することで決定されます。モデル CI で比較項目として属性が選択されていないと、モデルのトポロジのみに基づいて比較を行います。

CI 階層のいずれかの属性がモデルの要件に適合しない場合、その複合 CI はモデルに違反しているとみなされます。また、どのようなトポロジがモデルに適合しているとみなされるのかを、2 つのオプションから選択できます。

- ▶ 複合 CI のトポロジがモデルのトポロジと同じである場合
- ▶ 複合 CI のトポロジにモデルのトポロジが含まれる場合

構成モデリング・モジュールの詳細については、124 ページ「構成分析 - [構成モデリング] 表示枠」を参照してください。

注：

- ▶ このモジュールを使用するには、構成分析権限が必要です。
 - ▶ ビュー読み取り権限を持っているビューのみが表示されます。
 - ▶ 分析可能な複合 CI のライセンス数を超えると、警告通知が表示されます。ライセンスを購入するには、HP の営業担当にお問い合わせください。
-

環境セグメント分析

環境セグメント分析モジュールでは、CI セグメント（類似する構成を持つ CI のグループ）を作成できます。

CI を入力として選択し、作成した各セグメントの CI 間の類似性レベルを指定します。CI を入力として選択する際に、それらの CI 間に特定の類似性が存在する必要はありません。セグメントのリストは自動的に生成され、各セグメントの構成モデルが作成されます。入力として選択した各 CI は、作成されたセグメントのいずれかの構成要素になります。

セグメントを選択して構成モデリング・モジュールで分析したり、その中に含まれている CI を別のモデルのベースとして使用したりすることができます。

環境セグメント分析モジュールの詳細については、129 ページ「構成分析 - [環境セグメント分析] ページ」を参照してください。


注：

- ▶ このモジュールを使用するには、構成分析権限が必要です。
 - ▶ ビュー読み取り権限を持っているビューのみが表示されます。
 - ▶ 実行可能なコントロールされた自動化のライセンス数を超えると、警告通知が表示されます。ライセンスを購入するには、HP の営業担当にお問い合わせください。
-

タスク

比較用の構成モデルの定義

このタスクでは、選択した複合 CI と比較する構成モデルを定義する方法を説明します。

 **表示**：構成モデリングおよび分析ムービーで、比較および分析用の構成モデルを定義する方法のデモンストレーションを見ることができます。ムービーにアクセスするには、**<Configuration Manager のルート・ディレクトリ>%servers%server-0%webapps%docs%movies%Configuration_Modeling_and_Analysis%**にある .htm ファイルをクリックしてください。

1 [アプリケーション] > [構成分析] > [構成モデリング] を選択します。次のいずれかの方法で、モデルを作成できます。

- ▶ 類似する CI の特定のグループに基づいてモデルを作成するには、次の手順を実行します。
 - ▶ 複合 CI を選択するビューのステータスを選択します。選択できるオプションは、[実際のステータス] または [認証済みのステータス] のいずれかです。
 - ▶ **[複合 CI の追加]** をクリックし、[複合 CI の追加] ダイアログ・ボックスを開きます。比較する CI を含むビューを選択し、矢印を使用して CI を [選択した CI] 列に移動します。必要に応じて操作を繰り返して CI を追加し、完了したら **[OK]** をクリックします。選択したビューに含まれる CI が 1,000 を超える場合、一番上の矢印ボタンで CI を無作為に選択できます (最大 1,000)。




注：[分析範囲] 表示枠で CI を選択してからモデルを作成する場合、選択した CI の中にモデルのタイプと一致しない CI タイプがあると、Configuration Manager によって自動的に削除されます。

モデルの生成

- ▶ [構成モデリング] のメイン・ツールバーで、[モデルの生成] をクリックします。作成されたモデルは、範囲内のすべての複合 CI に適合しようとします。

注： 選択した CI が十分でなかったり、属性または階層の差が大きすぎたりする場合、選択内容の変更が求められます。

- ▶ 特定の CI タイプに基づいてモデルを作成するには、[構成モデル] ツールバーで  をクリック（空のベースラインを作成）するか、[分析範囲] 表示枠で CI を選択して [構成モデル] 表示枠にドラッグ（完全指定のベースラインを作成）して、CI タイプを選択します。



- ▶ 管理 CI（必ずしも分析範囲内の CI とは限らない）に基づいてモデルを作成するには、[構成モデル] 表示枠で [事前定義された構成の選択] をクリックし、[複合 CI からモデルを作成] を選択します。



- ▶ 構成ポリシー・モジュールで作成したポリシーに基づいてモデルを作成するには、[構成モデル] 表示枠で [事前定義された構成の選択] をクリックし、[既存のベースライン ポリシーからモデルを作成] を選択します。

- 2 属性の横のチェック・ボックスを選択すると、その属性が比較項目として追加されます。選択した属性の値を [属性値] 列、演算子を [演算子] 列に入力します。



- 3 メイン・ツールバーで [分析] をクリックすると、比較が実行されます。


類似する CI のグループを含む CI の選択

このタスクでは、類似する CI のグループを検索する際の CI の選択方法を説明します。

- 1 [アプリケーション] > [構成分析] > [環境セグメント分析] を選択します。
- 2 比較用に CI を選択するビューのステータスを選択します。選択できるオプションは、[実際のステータス] または [認証済みのステータス] のいずれかです。
- 3 [複合 CI の追加] をクリックし、[管理 CI の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。手順 1 で選択したステータスから CI が選択されます。最大 1,000 の複合 CI を選択できます。
- 4 [詳細レベル] をクリックし、セグメント・サイズのパラメータを目的の値に設定します。
 - ▶ 低い値を選択すると多数の小さいセグメントが作成され、それらのセグメントの中の複合 CI の類似性が高くなります。
 - ▶ 高い値を選択すると少数の大きなセグメントが作成され、それらのセグメントの中の複合 CI の差異が大きくなります。
- 5 [セグメントの生成] をクリックし、セグメントを作成します。
- 6 結果をレビューします。セグメント・リストに、各セグメントの名前、セグメント内の複合 CI の数とモデルに対する平均的な類似性レベルが表示されます。リスト ([セグメントリスト] 表示枠) または円グラフ ([セグメント結果] 表示枠) でセグメントをクリックし、[構成モデル] 表示枠でモデルを表示します。
- 7 セグメントの内容をさらに分析するには、セグメント・リストでセグメントを選択して [選択したセグメントの構成モデリングの表示] をクリックします。構成モデリング・モジュールが表示され、選択したセグメントがモデルとして使用されています。



詳細レベル ▼

 セグメントの生成



注：この時点で構成モデリング・モジュールで変更を加えても、環境セグメント・モジュールには反映されません。たとえば、構成モデリング・モジュールの分析範囲で CI の削除や追加を行っても、環境セグメント・モジュールのセグメントや範囲では削除も追加もされません。

リファレンス


構成分析のユーザ・インタフェース

本項の内容



- ▶ 123ページ「[比較詳細] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 124ページ「構成分析 - [構成モデリング] 表示枠」
- ▶ 129ページ「構成分析 - [環境セグメント分析] ページ」
- ▶ 132ページ「[ベースライン ポリシーの選択] ダイアログ・ボックスの選択」
- ▶ 132ページ「[複合 CI の選択] ダイアログ・ボックス」

[比較詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI の比較結果に関する詳細情報を表示します。

利用方法	[分析範囲] 表示枠にある [比較詳細の表示]  をクリックします。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	すべての CI およびすべての属性の表示と、選択した複合 CI の違反がある属性および CI のみの表示を切り替えます。
	現在の複合 CI で、次の違反に移動します。










UI の要素	説明
<左の表示枠>	<p>CI の名前とモデルが表示されます。複合 CI は、矢印をクリックすると展開し、コンポーネント CI が表示されます。モデル値のある CI については、ポリシー違反かどうかアイコンが表示されます。</p> <p>注: CI の属性の中で違反しているものが 1 つでもある場合や、モデル内の CI と一致しない場合、その CI はポリシー違反とみなされます。</p>
<右の表示枠>	<p>左の表示枠で選択した CI について、属性の名前と値、ベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性ごとに、その属性によって CI がポリシー違反になっているかどうかアイコンが表示されます。</p>

構成分析 - [構成モデリング] 表示枠

このページでは、複合 CI との比較対象となる構成モデルを、管理ビューから作成します。

利用方法	[アプリケーション] > [構成分析] > [構成モデリング] を選択します。
重要な情報	<p>[構成モデリング] ページには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 分析結果 ▶ 分析範囲 ▶ 構成モデル <p>[構成モデル] 表示枠では、モデルを定義します。[分析範囲] 表示枠では、比較する複合 CI を選択します。完了したら、[分析] をクリックすると比較を行います。</p> <p>データを変更しても、分析結果は動的には更新されません。モデルまたは複合 CI の選択を変更した場合は、[分析] をクリックして比較を再実行する必要があります。</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[新規モデルの作成] をクリックすると、新しい構成モデルを作成できます。
	[モデルを開く] をクリックすると、既存のモデルを選択して開くことができます。
	[モデルの保存] をクリックすると、現在のモデルが保存されます。
	[モデルに名前を付けて保存] をクリックすると、現在のモデルを新しい名前で保存できます。
	[詳細レベル] をクリックすると、選択した CI へのモデルの適合をどれくらい厳密にするかを指定できます。次のスケールが表示されます。 
 モデルの生成	[モデルの生成] をクリックすると、選択した詳細レベルに基づき、選択した CI からモデルを作成できます。
 分析	[分析] をクリックすると、比較が実行されます。
	[環境セグメント分析に戻る] をクリックすると、環境セグメント分析モジュールに戻ります。





[分析結果] 表示枠

重要な情報	分析の実行後、この表示枠の円グラフに、適合する CI の割合と、違反 CI の適合度の内訳が表示されます。
--------------	---

[分析範囲] 表示枠

重要な情報	この表示枠では、構成モデルとの比較対象となる複合 CI を選択します。
--------------	-------------------------------------







ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[複合 CI の追加] をクリックすると、[複合 CI の追加] ダイアログ・ボックスを使用して、分析範囲に追加する複合 CI を選択できます。
	[複合 CI をリストから削除] をクリックすると、選択した複合 CI を分析範囲から削除できます。
	[すべての複合 CI の削除] をクリックすると、すべての複合 CI を分析範囲から削除できます。
	[比較詳細の表示] をクリックすると、[比較詳細] ダイアログ・ボックスが開き、ポリシーに違反している CI の属性が表示されます。
<複合 CI 名>	分析範囲に含まれる管理 CI の名前。
類似性の結果	モデルと CI の類似レベルを棒グラフで表示します。
ステータス	複合 CI が含まれるビューのステータスを選択します。 CI は、ビューの実際のステータスと認証済みのステータスの両方から選択できますが、比較は選択したステータスのみで実行されます。選択したビューのステータスの CI が存在しない場合、テキストが淡色表示になり、分析対象にはなりません。

[構成モデル] 表示枠

重要な情報	この表示枠では、構成モデルを作成します。手順としては、モデルに CI タイプを追加し、選択した複合 CI との比較項目となる属性を選択します。
--------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	<p>クリックすると、定義済みの構成を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [管理 CI からモデルを作成]: 既存の CI を選択し、構成モデルとして使用します。 ▶ [既存のベースライン ポリシーからモデルを作成]: ポリシーで定義済みの構成モデルを選択します。
	<p>クリックすると、CI タイプを選択して構成モデルに追加できます。CI カウント機能を使用すると、同じタイプの CI を複数追加できます。</p> <p>注: CI は現在選択している CI の下の階層に追加されます。</p>
	<p>クリックすると、選択した CI が構成モデルから削除されます。</p>
	<p>[CI の一致の結果] をクリックすると、比較した CI が適合と違反に分類されます。</p>
	<p>属性が比較項目であることを示します。</p>
	<p>属性が比較項目であり、システムの照合アルゴリズムで順位が付けられていることを示します。</p>
[属性名] 列	<p>選択した CI タイプの属性名。</p>
[属性値] 列	<p>選択した CI タイプの属性の値。各属性の値を選択または入力してください。推奨値を表示するには、入力を開始するか下矢印キーを押します。</p>




UI の要素	説明
CI タイプ	<p>選択した CI タイプ。</p> <p>モデルでは、同じタイプの CIT を複数選択することができます。このモードは、共通定義モードと呼ばれます。このモードでは、選択した CIT のうちの 1 つを変更すると、変更内容がすべての CIT に適用されます。</p>
追加の内部 CI を違反とみなす	<p>[追加の内部 CI を違反とみなす] を選択すると、この構成モデルと比較する CI に追加の内部 CI が存在する場合、ポリシー違反とみなされます。</p>
[CI の一致の結果] 列	<p>適合 CI, 違反 CI, 欠落している CI の数が CI タイプごとに棒グラフで表示されます。カーソルをグラフの上に置くと、割合 (%) がツールチップで表示されます。</p>
[一致の結果] 列	<p>モデル内で指定した属性値と一致する複合 CI の数が、選択した属性ごとに割合 (%) で表示されます。</p>
[演算子] 列	<p>属性のベースライン値と実際値に必要な関係を定義する演算子を選択します。詳細については、85 ページ「属性演算子」を参照してください。</p>

構成分析 - [環境セグメント分析] ページ

このページでは、環境内の類似する CI のグループを検索できます。

利用方法	[アプリケーション] > [構成分析] > [環境セグメント分析] を選択します。
重要な情報	<p>[環境セグメント分析] ページには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 分析範囲 ▶ セグメント・リストおよびセグメント結果 (グラフ形式) ▶ 構成モデル <p>[分析範囲] 表示枠では、セグメントの作成に使用する複合 CI を選択します。完了したら、[セグメントの生成] をクリックします。</p> <p>データを変更しても、分析結果は動的には更新されません。分析範囲または次に示すパラメータに変更を加えるたびに、[セグメントの生成] を再度クリックしてグループを作成し直す必要があります。</p>




ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[新規モデルの作成] をクリックすると、選択したすべての値とセグメントの選択を解除できます。
 類似性レベル ▼	<p>[類似性レベル] をクリックすると、セグメントのサイズを指定できます。次のスケールが表示されます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>低い類似性レベル 1% ▲ 100% 高い類似性レベル</p> </div> <p>値を小さくするとセグメントに含まれる CI の差異が大きくなり、値を大きくするとセグメントに含まれる CI の類似性が高くなります。</p>
 セグメントの生成	[セグメントの生成] をクリックすると、選択した CI に基づいてセグメントを作成できます。

[分析範囲] 表示枠

重要な情報	この表示枠で、セグメントの作成に使用する複合 CI を選択します。
--------------	-----------------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[管理 CI の追加] をクリックすると、分析範囲に追加する複合 CI を選択できます。
	[複合 CI をリストから削除] をクリックすると、選択した複合 CI を分析範囲から削除できます。
	[すべての複合 CI の削除] をクリックすると、すべての管理 CI を分析範囲から削除できます。
<複合 CI 名>	[分析範囲] に含まれる複合 CI の名前。
セグメント ID	複合 CI の割り当て先セグメントの名前を表示します。
ステータス	複合 CI が含まれるビューのステータスを選択します。 CI は、ビューの実際のステータスと認証済みのステータスの両方から選択できますが、セグメント化は選択したステータスのみで実行されます。選択したビューのステータスの CI が存在しない場合、テキストが淡色表示になり、セグメント化対象にはなりません。

[構成モデル] 表示枠

重要な情報	この表示枠には、選択したセグメントのために生成された構成モデルが表示されます。モデルの CI を選択して、定義されている属性を表示します。モデルに対して選択されていない属性はグレー表示されます。
--------------	---


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
属性名	選択した CI タイプの属性名。
属性値	選択した CI タイプの属性の値。
CI タイプ	選択した CI タイプ。
演算子	モデルの属性と複合 CI の属性に必要な関係。詳細については、85 ページ「属性演算子」を参照してください。

[セグメント リスト] 表示枠

重要な情報	セグメントの作成後、この表示枠に作成されたセグメントが一覧表示されます。
--------------	--------------------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[選択したセグメントの構成モデリングの表示] をクリックすると、[構成モデリング] ページが開き、モデルを編集して保存できます。
平均類似性	セグメントの CI とそのセグメントの構成モデルの類似性の平均割合。
CI 数	各セグメントの CI 数。

[セグメント結果] 表示枠

重要な情報	セグメントの作成後、この表示枠の円グラフに、作成された CI のグループが選択したセグメント・サイズに基づいて表示されます。
--------------	--

[ベースライン ポリシーの選択] ダイアログ・ボックスの選択

このダイアログ・ボックスでは、モデル定義に使用するベースラインを持つ既存のベースライン・ポリシーを選択できます。


利用方法	[構成モデル] 表示枠で  をクリックし、[既存のベースラインポリシーからモデルを作成] を選択します。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
ポリシー名	モデルのベースラインに使用できる定義済みベースライン・ポリシーのリストを表示します。
ポリシー ステータス	リストの各ポリシーについて、ポリシーに適合または違反する CI の割合を表示します。

[複合 CI の選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデル定義で使用する CI を選択します。

利用方法	[構成モデル] 表示枠で  をクリックし、[管理 CI からモデルを作成] を選択します。
重要な情報	モデル定義のために特定の CI を選択すると、範囲内の CI のタイプが選択した CI のタイプと一致しない場合、その範囲の CI は削除されます。ユーザがビュー読み取り権限を持っているビューのみが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
<CI のリスト>	選択したビューに含まれる CI の名前とタイプのリスト。モデル CI として使用する CI を選択します。
フィルタ	リスト内の CI のフィルタに使用する文字列を入力します。
ステータス	[実際のステータス] または [認証済みのステータス] のいずれかを選択します。
ビュー	ドロップダウン・リストからビューを選択します。

第 11 章

ステータス管理

本章の内容

概念

- ▶ ステータス管理の概要 (136ページ)

タスク

- ▶ CI の変更の認証 (138ページ)

リファレンス

- ▶ ステータス管理のユーザ・インタフェース (140ページ)

概念

ステータス管理の概要

ステータス管理モジュールでは、ビューのレビューや変更の認証を行うことができます。ステータス管理では、実際のステータスまたは認証済みのステータスのビューに現在含まれている CI がすべて表示されます。たとえば、アプリケーション所有者がアプリケーション・サービス・ツリーで発生した変更を追跡して確認しようとする場合があります。[複合 CI] 表示枠と [トポロジ] 表示枠では、ビューに追加された CI、ビューから削除された CI、2 つのステータス間で更新された CI がそれぞれのアイコンで示されます。アイコンの詳細については、146 ページ「[複合 CI] 表示枠」を参照してください。

認証プロセスでは、まず認証する変更を分析（レビュー）します。変更のタイプと性質、新規ポリシー違反の有無、関連する変更要求の有無を確認します。変更済みのマークが付いている CI から認証する変更を選択します。[認証] をクリックすると、選択したすべての変更の認証が行われます。認証が終わると、選択した変更によって認証ステータスが更新され、ビューのスナップショットが保存されます。手動による認証の詳細については、138 ページ「CI の変更の認証」を参照してください。

自動ステータス遷移機能を使用すると、ビューを自動的に認証できます。ビューのすべての管理 CI に対して自動ステータス遷移ルールが検証され、これらのルールに適合する場合は CI の変更が自動的に認証されます。詳細については、44 ページ「自動ステータス遷移」を参照してください。

UCMDB から Service Manager には、認証済みステータスまたは実際のステータスの CI をプッシュできます。Service Manager 7.1x ~ 9.2x アダプタを使用して UCMDB に新しい統合ポイントを作成する場合、どのステータス・データからプッシュするかを選択できません。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「New Integration Point/Edit Integration Point Dialog Box」を参照してください。ただし、UCMDB のデータ・フロー・モジュールにアクセスできるのは、実際のステータスで Configuration Manager にログインしているときのみです。

注：


ステータス管理モジュールにアクセスするには、次のいずれかの権限が必要です。

- ▶ ビュー読み取り権限：変更を選択してレビューできます。
 - ▶ ビュー読み取り権限：変更をレビューして認証できます。
-

タスク

CI の変更の認証

このタスクでは、複合 CI の変更を認証する方法を説明します。

 **表示**：変更の認証ムービーで、変更を認証する方法のデモンストレーションを見ることができます。ムービーにアクセスするには、<Configuration Manager のルート・ディレクトリ>¥servers¥server-0¥webapps¥docs¥movies¥Change_Authorization¥にある .htm ファイルをクリックしてください。

CI の変更には、次のものがあります。

- ▶ CI のすべての属性の変更（個々の属性の変更は認証できません）
- ▶ CI の追加または削除
- ▶ 内向きの関係の変更
- ▶ 外向きの関係の変更

変更を認証するには、次の手順を実行します。

- 1 ステータス管理モジュールの [複合 CI] 表示枠に、変更が発生した CI のエントリが表示されます。各チェック・ボックスの左にある小さな矢印をクリックすると CI エントリが展開し、CI の変更が 1 行ずつ表示されます。
- 2 変更内容をレビューしたら、認証する変更のチェック・ボックスを選択します。

注：CI のチェック・ボックスを選択すると、その CI の変更内容がすべて自動的に選択されます。



- 3 完了したら、[**選択した変更の認証**] ボタンをクリックします。変更の認証が開始されることを示すメッセージが表示されます。[**OK**] をクリックします。

注：認証には時間がかかる場合があります。認証中も、他のビューの作業は続行できます。

ビューを更新すると、認証済みのステータスになります。


リファレンス

ステータス管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 140ページ「[選択した差異の認証] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 141ページ「[CI 詳細] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 142ページ「[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 143ページ「[CI のソート] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 145ページ「[ステータス管理] ページ」
- ▶ 149ページ「[トポロジの表示] ダイアログ・ボックス」


[選択した差異の認証] ダイアログ・ボックス

利用方法	[ステータス管理] ページの左の表示枠にある [選択した変更の認証]  をクリックします。
重要な情報	[送信] をクリックすると、提案された変更が認証されます。これにより、CI の実際のステータスが認証済みのステータスになります。 注: CI の親がビューに含まれていないと、CI は認証できません。





UI の要素	説明
<提案された変更のリスト>	[複合 CI] 表示枠で認証の対象としてマークした変更のリスト。

[CI 詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI の詳細情報を表示します。

利用方法	[複合 CI の詳細を表示]  をクリックするか、[複合 CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠で CI をダブルクリックします。
------	--


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[差異のみ表示] をクリックすると、2つのステータス間で値が異なる属性のみが表示されます。
	[次の差異] をクリックすると、リスト内にある次の複合 CI に移動します。
	[属性] タブでは、選択した CI の属性すべての表示と、管理属性のみの表示を切り替えることができます。
	2つのステータス間で異なる値を示します。
[属性] タブ	<p>左の表示枠には CI 名が表示されます。複合 CI を展開すると、個々のコンポーネント CI が表示されます。</p> <p>右の表示枠には、この CI の属性名と値が表示されます。実際の属性値と認証済みの属性値の両方が表示されます。</p>



UI の要素	説明
【内向きの関係】 タブ	<p>選択した CI について、内向きの関係をすべて表示します。</p> <p>複合 CI を展開すると、個々のコンポーネント CI が表示されます。コンポーネント CI を 1 つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。</p>
【外向きの関係】 タブ	<p>選択した CI について、外向きの関係をすべて表示します。</p> <p>複合 CI を展開すると、コンポーネント CI が個々に表示されます。コンポーネント CI を 1 つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。</p>

【ポリシー詳細】 ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ベースライン・ポリシー・ルールに関する CI のポリシー違反の詳細情報が表示されます。


利用方法	[比較詳細] 表示枠にある [複合 CI の詳細を表示]  をクリックします。
重要な情報	<p>[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックスが開くのは、ベースライン・ポリシーが適用された CI を選択した場合のみです。</p> <p>アイコンの横にある小さな矢印をクリックし、ポリシー詳細として実際のステータスまたは承認済みのステータスのいずれかを選択します。</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。







UI の要素	説明
	選択した CI について、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を切り替えます。
	リスト内で、次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CI の名前とベースラインが表示されます。複合 CI は、矢印をクリックすると展開し、コンポーネント CI が表示されます。ベースライン値のある CI については、ポリシー違反かどうかアイコンが表示されます。 注： CI の属性の中で違反しているものが 1 つでもある場合や、ベースライン内の CI と一致しない場合、その CI はポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択した CI について、属性の名前と値、ベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性ごとに、その属性によって CI がポリシー違反になっているかどうかアイコンが表示されます。

[CI のソート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[複合 CI] 表示枠の CI リストをソートします。

利用方法	[複合 CI] 表示枠のツールバーで [複合 CI のソート] ボタン  をクリックします。
重要な情報	変更を反映するには、新しいソート・フィールドを保存します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。




UI の要素	説明
	[利用できるソート フィールド] 表示枠から [選択したソート フィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	[利用できるソート フィールド] 表示枠から [選択したソート フィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。
	[選択したソート フィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	[選択したソート フィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。
	選択したフィールドを [選択したソート フィールド] 内で上下に移動します。
	選択したフィールドごとに [昇順] または [降順] を選択すると、ソートの方向を変更できます。
利用できるソート フィールド	CI をソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソート フィールド	CI をソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。



[ステータス管理] ページ

このページでは、実際のステータスのビューを表示し、認証する変更を選択します。

利用方法	[アプリケーション] > [ステータス管理] を選択します。
重要な情報	<p>[ステータス管理] ページには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [複合 CI]: ビューに含まれる CI のリストを表示します。リスト内では、実際のステータスと認証済みのステータスを比較し、各 CI で発生した変更のタイプをアイコンで示します。 ▶ [トポロジ]: ビューに含まれる CI のトポロジ・マップを表示します。マップ内では、実際のステータスと認証済みのステータスを比較し、各 CI で発生した変更のタイプをアイコンで示します。詳細については、194 ページ「[トポロジ] 表示枠」を参照してください。 注: インベントリ・モードでは、[トポロジ] 表示枠は [関連 CI] と呼ばれます。 ▶ [比較詳細]: 選択した CI の変更の詳細が表示されます。タブをクリックすると、選択した CI の変更の詳細情報が表示されます。 ▶ [フィルタ]: インベントリ・モードでは、[フィルタ] 表示枠で複合 CI リストをフィルタできます。詳細については、197 ページ「[フィルタ] 表示枠」を参照してください。 <p>[複合 CI] 表示枠で CI の横にあるチェック・ボックスをクリックして、認証する変更を選択します。</p>






ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI の要素	説明
	[ビューの選択] をクリックすると、別のビューを [ステータス管理] ページで開くことができます。
	クリックすると、変更がインベントリ・モードで表示されます。
	クリックすると、変更がトポロジ・モードで表示されます。

UI の要素	説明
	<p>[レポートのエクスポート] をクリックして、エクスポートするレポートとデータのエクスポート形式を選択します。</p> <p>次のレポートを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 'ステータスの比較'レポート ▶ 'ポリシー分析'レポート <p>次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Excel] : スプレッドシートで表示できる .xls (Excel) ファイル形式でエクスポートします。 ▶ [PDF] : PDF 形式でエクスポートします。 ▶ [CSV] : スプレッドシートで表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式でエクスポートします。
	<p>[更新] をクリックすると、CI リストが更新されます。</p>

[複合 CI] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI の要素	説明
	<p>[すべて選択] をクリックすると、CI エントリがすべて選択されます。</p>
	<p>[すべてクリア] をクリックすると、CI エントリの選択がすべて解除されます。</p>
	<p>[複合 CI のソート] をクリックすると、[CI のソート] ダイアログ・ボックスが開き、各ソート・フィールドで CI リストをソートできます。</p>
	<p>[複合 CI の詳細を表示] をクリックすると、[CI 詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した CI の管理属性が表示されます。</p>
	<p>[認証] をクリックすると、選択した変更が認証され、ステータスが「認証済み」に変わります。</p> <p>注: リスト内で CI を選択しないと、このボタンは有効になりません。</p>

UI の要素	説明
	選択した CI がビューに追加されたことを示します。
	選択した CI がビューから削除されたことを示します。
	選択した CI が更新されたことを示します。
	実際のステータスで、CI が 1 つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	認証済みのステータスで、CI が 1 つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	実際のステータスで、CI がすべてのポリシーに適合していることを示します。
	認証済みのステータスで、CI がすべてのポリシーに適合していることを示します。
<CI のリスト>	<p>ビュー内に現在含まれている CI と、これまでに含まれていた CI がすべて一覧表示されます。CI の右に表示されるアイコンは、CI とポリシー・ステータスに変更が発生したことを示します。CI の横の三角形をクリックすると、変更の内容が別の行に表示されます。</p> <p>カーソルを CI の上に置くと、CI の名前とタイプがツールチップで表示されます。</p> <p>CI の横にアイコンがない場合、その CI には変更が発生していないことを示します。</p> <p>変更を選択してから横のチェック・ボックスを選択すると、認証の対象としてマークされます。</p>

[比較詳細] 表示枠


重要な情報	[複合 CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠で CI を選択すると、その CI のデータを含むタブにはアスタリスク (*) が表示されます。
-------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI の要素	説明
<p>【変更された属性】 タブ</p>	<p>左の表示枠には、CI 名と変更タイプのアイコンが表示されます。複合 CI の場合は、属性が変更された複合 CI が表示されます。</p> <p>右の表示枠には、左の表示枠で選択した CI の属性名と、実際の属性値および認証済みの属性値が表示されます。</p>
<p>【変更された外向きの関係】 タブ</p>	<p>左の表示枠には、選択した CI が外向きの関係を持っている CI が表示されます。矢印をクリックすると各エントリが展開し、複合 CI の関係が表示されます。各関係のタイプと、変更のタイプを示すアイコンが表示されます。</p> <p>右の表示枠には、左の表示枠で選択した関係について、ソース、ターゲット、方向が表示されます。</p>
<p>【ポリシー詳細】 タブ</p>	<p>【ポリシー リスト】 表示枠では、次のデータがポリシー・ルールごとに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ポリシー・ルールの名前 ▶ 実際のステータスでのルール・ステータス ▶ 認証済みのステータスでのルール・ステータス ▶ 関連 CI <p>【詳細】 表示枠には、【ポリシー リスト】 表示枠で選択したポリシー・ルールの詳細（ルールの名前、説明、タイプ、検証日など）が表示されます。</p>
<p>【関連 RFC】 タブ</p>	<p>左の表示枠には RFC ID と関連の CI が表示されます。</p> <p>右の表示枠には、RFC の詳細が表示されます。</p>

[トポロジの表示] ダイアログ・ボックス

このページでは、トポロジ・マップを大きな領域に表示します。

利用方法	[トポロジ] 表示枠のツールバーで [トポロジ マップを全画面で表示] ボタン  をクリックします。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	<p>[トポロジ ノードを強調表示] ボタンの横にある小さい矢印をクリックすると、メニューが開きます。</p> <p>マップの表示モードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 実際のステータスを強調表示 ▶ 認証済みのステータスを強調表示 ▶ 両方を強調表示
<トポロジ表示枠の ツールバー・ボタン>	[トポロジ] 表示枠のツールバー・ボタンは、[トポロジの表示] ダイアログ・ボックスにもあります。詳細については、194 ページ「[トポロジ] 表示枠」を参照してください。

第 12 章

履歴の比較

本章の内容

概念

- ▶ 履歴の比較の概要 (152ページ)

タスク

- ▶ スナップショットの比較 (154ページ)

リファレンス

- ▶ 履歴の比較のユーザ・インタフェース (155ページ)

概念

履歴の比較の概要

ビューの**スナップショット**とは、ある時点でのビューのステータスを示したものであり、ビューの履歴の一部として記録されます。Configuration Manager は、認証時に、ビューの実際のステータスと認証済みのステータスを示すスナップショットを自動的に記録します。さらに、管理ビューに変更が発生していないかどうかを定期的にチェックし、実際のステータスまたは認証済みのステータスのいずれかで変更が発生した場合はスナップショットを取得します。スナップショットを使用することによって、問題が発生した時点でのシステム情報を正確に把握できるので、問題解決に便利です。

スナップショットの使用法の一例として、インストールの後にスナップショットを取得することにより、オリジナルの構成ベースラインとして比較できます。

実際のステータスの履歴比較モジュールでは、実際のステータスのビューで取得された 2 つのスナップショットを比較し、結果を表示します。認証済みのステータスの履歴比較モジュールでは、認証済みのステータスの 2 つのスナップショットを比較し、結果を表示します。どちらのモジュールでも、トポロジ・マップと CI リストには、いずれかのスナップショットのビューに含まれる CI がすべて表示されます。スナップショットの比較で差異が検出された CI には、変更がアイコンで表示されます。

比較するスナップショットは、これまでに保存したスナップショットや、現在のステータス（実際または認証済み）のビューから選択できます。スナップショットの選択の詳細については、162 ページ「[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

注：

履歴の比較モジュールにアクセスするには、次のいずれかの権限が必要です。

- ▶ ビュー読み取り権限：ビューを選択できます。
 - ▶ ビュー書き込み権限：ビューを選択し、スナップショットを保存できます。
-

タスク

スナップショットの比較

このタスクでは、実際のステータスまたは認証済みのステータスのスナップショットを 2 つ選択し、比較する方法を説明します。

スナップショットを比較するには、次の手順を実行します。

- 1 [実際のステータスの履歴比較] または [認証済みのステータスの履歴比較] で、ツールバーにある最初の選択ボックスか、**[スナップショットの選択]** ボタンをクリックします。**[表示するスナップショットの選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 リストからスナップショットを選択し、**[OK]** をクリックします。
- 3 2 番目の選択ボックスをクリックして別のスナップショットを選択し、**[OK]** をクリックします。

選択した 2 つのスナップショットの差異がトポロジ・マップに表示されます。



リファレンス

履歴の比較のユーザ・インタフェース

本項の内容





- ▶ 156ページ「[実際のステータスの履歴比較] ページ」
- ▶ 160ページ「[認証済みのステータスの履歴比較] ページ」
- ▶ 160ページ「[CI 詳細] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 161ページ「[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 162ページ「[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 163ページ「[CI のソート] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 164ページ「[トポロジの表示] ダイアログ・ボックス」





[実際のステータスの履歴比較] ページ

このページでは、実際のステータスのビューのスナップショット 2 つを比較します。

<p>利用方法</p>	<p>[アプリケーション] > [履歴の比較] > [実際のステータス] を選択します。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>[実際のステータスの履歴比較] ページには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [複合 CI] : ビューに含まれる CI のリストを表示します。リスト内では、選択した 2 つのスナップショットを比較し、各 CI で発生した変更のタイプをアイコンで示します。 ▶ [トポロジ] : ビューに含まれる CI のトポロジ・マップを表示します。マップ内では、選択した 2 つのスナップショットを比較し、各 CI で発生した変更のタイプをアイコンで示します。詳細については、194 ページ「[トポロジ] 表示枠」を参照してください。 注 : インベントリ・モードでは、[トポロジ] 表示枠は [関連 CI] と呼ばれます。 ▶ [比較詳細] : 選択した CI の変更の詳細が表示されます。タブをクリックすると、選択した CI の変更の詳細情報が表示されます。 ▶ [フィルタ] : インベントリ・モードでは、[フィルタ] 表示枠で複合 CI リストをフィルタできます。詳細については、197 ページ「[フィルタ] 表示枠」を参照してください。





ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。






<p>UI の要素</p>	<p>説明</p>
	<p>[ビューの選択] をクリックすると、別のビューを [実際のステータスの履歴比較] ページで開くことができます。</p>
	<p>クリックすると、変更がインベントリ・モードで表示されます。</p>
	<p>クリックすると、変更がトポロジ・モードで表示されます。</p>
<p><スナップショットの比較></p> 	<p>スナップショットの選択ボックスをクリックすると、[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。比較対象となるスナップショットを 2 つ選択します。</p>

UI の要素	説明
	[コメントの編集] をクリックすると、選択したスナップショットのコメントを編集できます。
	矢印をクリックすると、スナップショットの前後のペアに移動できます。
	[レポートのエクスポート] をクリックして、エクスポートするレポートとデータのエクスポート形式を選択します。 次のレポートを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 'ステータスの比較' レポート ▶ 'ポリシー分析' レポート 次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ Excel : スプレッドシートで表示できる .xls (Excel) ファイル形式でエクスポートします。 ▶ PDF : PDF 形式でエクスポートします。 ▶ CSV : スプレッドシートで表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式でエクスポートします。
	[更新] をクリックすると、CI リストが更新されます。

[複合 CI] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI の要素	説明
	[複合 CI のソート] をクリックすると、[CI のソート] ダイアログ・ボックスが開き、各ソート・フィールドで CI リストをソートできます。
	[複合 CI の詳細を表示] をクリックすると、[CI 詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した CI の管理属性が表示されます。
	選択した CI がビューに追加されたことを示します。
	選択した CI がビューから削除されたことを示します。

UI の要素	説明
	選択した CI が更新されたことを示します。
	第 1 スナップショットで、CI が 1 つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	第 2 スナップショットで、CI が 1 つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	第 1 スナップショットで、CI がすべてのポリシーに適合していることを示します。
	第 2 スナップショットで、CI がすべてのポリシーに適合していることを示します。
<CI のリスト>	<p>ビュー内に現在含まれている CI と、これまでに含まれていた CI がすべて一覧表示されます。CI の右に表示されるアイコンは、CI とポリシー・ステータスに変更が発生したことを示します。CI の横の三角形をクリックすると、変更の内容が別の行に表示されます。</p> <p>カーソルを CI の上に置くと、CI の名前とタイプがツールチップで表示されます。</p> <p>CI の横にアイコンがない場合、その CI には変更が発生していないことを示します。</p>

[比較詳細] 表示枠

重要な情報	[複合 CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠で CI を選択すると、その CI のデータを含むタブにはアスタリスク (*) が表示されます。
--------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
<p>【変更された属性】 タブ</p>	<p>左の表示枠には、CI 名と変更タイプのアイコンが表示されます。複合 CI の場合は、属性が変更された複合 CI が表示されます。</p> <p>右の表示枠には、左の表示枠で選択した CI の名前と、第 1 および第 2 スナップショットの属性値が表示されます。</p>
<p>【変更された外向きの関係】 タブ</p>	<p>左の表示枠には、選択した CI が外向きの関係を持っている CI が表示されます。矢印をクリックすると各エントリが展開し、複合 CI の関係が表示されます。各関係のタイプと、変更のタイプを示すアイコンが表示されます。</p> <p>右の表示枠には、左の表示枠で選択した関係について、ソース、ターゲット、方向が表示されます。</p>
<p>【ポリシー詳細】 タブ</p>	<p>【ポリシー リスト】 表示枠では、次のデータがポリシー・ルールごとに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ポリシー・ルールの名前 ▶ 第 1 スナップショットでのルール・ステータス ([ステータス]) ▶ 第 2 スナップショットでのルール・ステータス ([前回のステータス]) ▶ 関連 CI <p>【詳細】 表示枠には、[ポリシー リスト] 表示枠で選択したポリシー・ルールの詳細 (ルールの名前、説明、タイプ、検証日など) が表示されます。</p>
<p>【関連 RFC】 タブ</p>	<p>左の表示枠には RFC ID と関連の CI が表示されます。</p> <p>右の表示枠には、RFC の詳細が表示されます。</p>


[認証済みのステータスの履歴比較] ページ

このページでは、認証済みのステータスのビューのスナップショット 2 つを比較します。





利用方法	[アプリケーション] > [履歴の比較] > [認証済みのステータス] を選択します。
重要な情報	詳細については、156 ページ「[実際のステータスの履歴比較] ページ」を参照してください。

[CI 詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI の詳細情報を表示します。

利用方法	[複合 CI の詳細を表示]  をクリックするか、[複合 CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠で CI をダブルクリックします。
------	--


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[差異のみ表示] をクリックすると、2 つのステータス間で値が異なる属性のみが表示されます。
	[属性] タブで [次の差異] をクリックすると、リスト内にある次の複合 CI に移動します。
	[属性] タブでは、選択した CI の属性すべての表示と、管理属性のみの表示を切り替えることができます。
	2 つのステータス間で異なる値を示します。



UI の要素	説明
【属性】 タブ	<p>左の表示枠には CI 名が表示されます。個々の複合 CI を展開すると、コンポーネント CI が表示されます。</p> <p>右の表示枠には、この CI の属性名と値が表示されます。比較対象となる 2 つのスナップショットの属性値が表示されます。</p>
【内向きの関係】 タブ	<p>選択した CI について、内向きの関係をすべて表示します。</p> <p>個々の複合 CI を展開すると、コンポーネント CI が表示されます。コンポーネント CI を 1 つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。</p>
【外向きの関係】 タブ	<p>選択した CI について、外向きの関係をすべて表示します。</p> <p>個々の複合 CI を展開すると、コンポーネント CI が表示されます。コンポーネント CI を 1 つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。</p>

[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ベースライン・ポリシー・ルールに関する CI のポリシー違反の詳細情報が表示されます。

利用方法	[比較詳細] 表示枠の [スナップショットのポリシー詳細を表示]  をクリックします。
重要な情報	<p>[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックスが開くのは、ベースライン・ポリシーが適用された CI を選択した場合のみです。</p> <p>アイコンの横にある小さな矢印をクリックし、選択したスナップショットのいずれかのポリシー詳細を表示するダイアログ・ボックスを選択します。</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	選択した CI について、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を切り替えます。
	リスト内で、次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CI の名前とベースラインが表示されます。複合 CI は、矢印をクリックすると展開し、コンポーネント CI が表示されます。ベースライン値のある CI については、ポリシー違反かどうかアイコンで表示されます。 注: CI の属性の中で違反しているものが 1 つでもある場合や、ベースライン内の CI と一致しない場合、その CI はポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択した CI について、属性の名前と値、ベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性ごとに、その属性によって CI がポリシー違反になっているかどうかアイコンで表示されます。

[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、比較対象となるスナップショットを 2 つ選択します。


利用方法	ツールバーで、スナップショットの選択ボックスのいずれかをクリックします。
重要な情報	最初の選択ボックスでスナップショットを選択し、2 番目の選択ボックスで別のスナップショットを選択します。この 2 つのスナップショットの比較結果が表示されます。
関連タスク	154 ページ「スナップショットの比較」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。





UI の要素	説明
< カレンダー >	カレンダーの日付を選択します。
< スナップショットのリスト >	選択したビューについて、選択した日付に取得されたスナップショットがすべて一覧表示されます。
コメント	スナップショットに関するコメント。
作成日時	スナップショットを取得した日時。
説明	スナップショットの簡単な説明。



[CI のソート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[複合 CI] 表示枠の CI リストをソートします。

利用方法	[複合 CI] 表示枠のツールバーで [複合 CI のソート] ボタン  をクリックします。
重要な情報	CI をソートした後に [更新] ボタンをクリックすると、変更内容が有効になります。


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[利用できるソート フィールド] 表示枠から [選択したソート フィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	[利用できるソート フィールド] 表示枠から [選択したソート フィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。
	[選択したソート フィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	[選択したソート フィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。


UI の要素	説明
	選択したフィールドを [選択したソート フィールド] 内で上下に移動します。
	選択したフィールドごとに [昇順] または [降順] を選択すると、ソートの方向を変更できます。
利用できるソート フィールド	CI をソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソート フィールド	CI をソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。

[トポロジの表示] ダイアログ・ボックス

このページでは、トポロジ・マップを大きな領域に表示します。

利用方法	[トポロジ] 表示枠のツールバーで [トポロジ マップを全画面で表示] ボタン  をクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI の要素	説明
	<p>[トポロジ ノードを強調表示] ボタンの横にある小さい矢印をクリックすると、メニューが開きます。</p> <p>マップの表示モードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ <第 1 スナップショット>を強調表示 ▶ <第 2 スナップショット>を強調表示 ▶ 両方を強調表示
< [トポロジ] 表示枠の ツールバー・ボタン >	[トポロジ] 表示枠のツールバー・ボタンは、[トポロジの表示] ダイアログ・ボックスにもあります。詳細については、194 ページ「[トポロジ] 表示枠」を参照してください。

第 13 章

構成エクスペローラ

本章の内容

概念

- ▶ 構成エクスペローラの概要（166ページ）
- ▶ インパクト分析（167ページ）
- ▶ 自動化の衝突（168ページ）

タスク

- ▶ コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行（170ページ）
- ▶ 複合 CI の折りたたみルールの設定（173ページ）

リファレンス

- ▶ 構成エクスペローラのユーザ・インタフェース（176ページ）

概念

構成エクスプローラの概要

構成エクスプローラ・モジュールでは、IT 環境の現状を実際のステータスまたは認証済みのステータスのいずれかで調査できます。また、実際のステータスまたは認証済みのステータスの管理ビューについて、保存したスナップショットを表示することもできます。ビューに含まれる CI とポリシーに関する情報を表示し、ビューのポリシーが適合または違反のどちらの状態かをチェックできます。

ビューの CI リストは [複合 CI] 表示枠、トポロジ・マップは [トポロジ] 表示枠に表示されます。トポロジ・マップでは、レイアウト（レイヤまたは分類ごとに CI を表示するオプションなど）を指定できます。また、トポロジ・マップにはビュー内の複合 CI のみが表示されますが、[CI 詳細] ダイアログ・ボックスでコンポーネント CI までドリルダウンすることが可能です。このような機能によって、トポロジ・マップはシンプルでわかりやすい構造になっています。

ポリシーが定義されている CI には、CI のポリシー・ステータスがアイコンで表示されます。ビューの CI にポリシー違反がある場合は、[ポリシー詳細] 表示枠に詳細情報が表示されます。

構成エクスプローラのユーザ・インタフェースについては、176 ページ「構成エクスプローラのユーザ・インタフェース」を参照してください。

注：

- ▶ 選択できるのは、ビュー読み取り権限があるビューのみです。
 - ▶ 管理対象の複合 CI のライセンス数を超えると、警告通知が表示されます。ライセンスを購入するには、HP の営業担当にお問い合わせください。
-

インパクト分析

インパクト分析では、自動化が CI に及ぼす影響を計算します。HP Universal CMDB の CI および関係情報を使用します。

インパクト分析結果の表示は、[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠で行うことができます。この表示枠には、自動化の影響を受けたビジネスおよびシステム CI が表示されます。これには、影響を受けたビジネスまたはシステム CI の一般情報と、自動化のインパクト重大度インジケータが含まれます。詳細については、183 ページ「[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠」を参照してください。

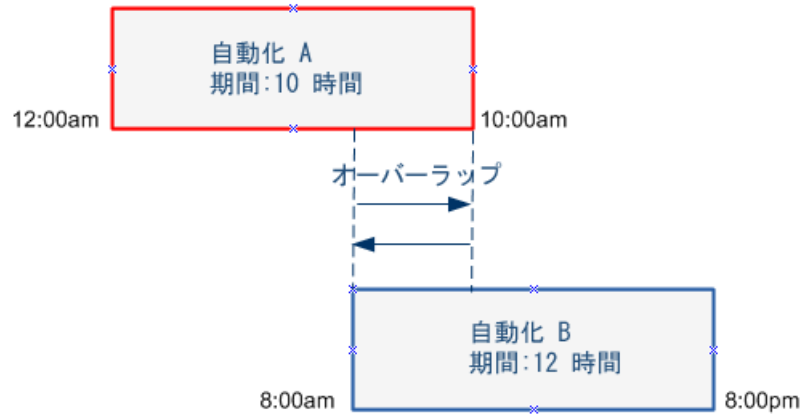
CI のインパクト重大度レベルは、次のルールで決定されます。

- ▶ トリガされた CI は自動的に [クリティカル] に設定されます。
- ▶ インパクトを受けた CI は、直接接続されている CI の重大度レベルになります。
- ▶ インパクトを受けた CI は、間接的に接続されている CI の重大度レベルより 1 つ下の重大度レベルになります。たとえば、ビジネス CI が **My_CI** という CI に間接的に接続されており、**My_CI** の重大度レベルが [中] の場合、このビジネス CI の重大度レベルは [低い] になります。

🔗 自動化の衝突

自動化の衝突は、システムまたはビジネス CI を複数の自動化で使用する場合に、使用期間が重なると発生すると定義されています。

自動化の衝突は、スケジュールの競合に基づいて計算されます。2 つ以上の自動化が共通の要素を共有しており、開始時と終了時が重なっている場合、これらの自動化は衝突しているとみなされます。



同時に実行される 2 つの自動化が必ずしもお互いに影響するとは限りません。衝突が発生するのは、少なくとも 1 つの共通 CI が関わっている場合のみです。衝突には 2 つのタイプがあります。

- ▶ **直接衝突**：2 つ以上の自動化が同じ CI に直接影響する場合に発生します。
- ▶ **間接衝突**：自動化のいずれかが同じ CI に間接的に影響する場合に発生します。たとえば、自動化によってサーバ A のメモリが増加する場合、サーバ A は影響を直接受けています。アプリケーション B がサーバ A に接続されていても、自動化に直接関わっていない場合は、自動化によって間接的に影響を受けているだけです。

注：衝突タイプは、インパクトを受ける CI の重大度レベルのうち最も高いものによって決まります。

衝突の詳細の表示については、188 ページ「[自動化分析] > [衝突] 表示枠」を参照してください。

タスク

コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行

このタスクでは、コントロールされた実行またはコントロールされない自動化の実行方法を説明します。

このタスクでは、次の手順を実行します。

- ▶ 170 ページ「管理対象ビューの追加」
- ▶ 170 ページ「フローの追加と自動化パラメータの構成」
- ▶ 171 ページ「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」


注： コントロールされた自動化機能を、自動化リスクの視覚化とも呼びます。

1 管理対象ビューの追加

[管理] > [ビュー管理] で、管理対象のビューを HP Universal CMDB から追加します。詳細については、45 ページ「ビューを管理ビュー・リストに追加」を参照してください。

2 フローの追加と自動化パラメータの構成


[管理] > [自動化管理] で、次の手順を実行します。

- a  をクリックして [フローの選択] ウィンドウを開きます。
- b 左の表示枠でフロー・ツリーをクリックして展開し、Configuration Manager で自動化として実行する HP Operations Orchestration のフローを選択します。
- c [OK] をクリックして [自動化管理] ウィンドウに戻ります。
- d [自動化の詳細] 表示枠で、[関連する CI タイプ] リストから、自動化を実行する CI タイプを指定します。

- e [実行の詳細] 表示枠で [コントロールされた実行] チェック・ボックスを選択し、選択したフローをコントロールされた自動化として実行します。コントロールされない自動化は、システムによる介入なしで実行されます。コントロールされない自動化を実行するには、[コントロールされた実行] チェック・ボックスの選択を解除します。デフォルトでは、自動化はコントロールされた状態で実行されるように設定されています。

その他の自動化パラメータの構成方法の詳細については、57 ページ「[自動化管理] ページ」を参照してください。

3 コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行

- a [アプリケーション] > [構成エクスプローラ] を選択します。
- b [構成エクスプローラ] ツールバーで、次の手順を実行します。
- ▶ [ステータス] ボックスで、[実際のステータス] または [認証済みのステータス] を選択します。
 - ▶ [スナップショットの選択] ボックスで、[最新] を選択します。
- c [複合 CI] 表示枠で、自動化管理モジュールの [管理 CI タイプ] ボックスで選択したのと同じタイプか、そのサブクラスの CI タイプを選択します。詳細については、57 ページ「[自動化管理] ページ」を参照してください。
- d [複合 CI] 表示枠で [自動化の実行]  をクリックし、[自動化実行] ダイアログ・ボックスを開きます。
- e [自動化] 表示枠で、目的の自動化を選択します。
- f [実行パラメータ] 表示枠で、選択した自動化に必要な実行パラメータを入力します。必須パラメータはアスタリスクが付いているもののみです。
- ▶ 選択した自動化がコントロールされない自動化である場合、ダイアログ・ボックスの下部に [実行] ボタンが表示されます。[実行] をクリックすると、自動化が実行されます。

注： 必須パラメータには赤のアスタリスクが付いています。必要な値を入力しないと、[実行] ボタンは無効です。

- ▶ 選択した自動化がコントロールされた自動化である場合、ダイアログ・ボックスの下部に [次へ] ボタンが表示されます。[次へ] をクリックすると、[自動化プランナ] ページが開きます。

注： 必須パラメータには赤のアスタリスクが付いています。自動化を実行するには、必要な値を入力する必要があります。必要な値を入力しないと、[次へ] ボタンは無効です。

コントロールされた自動化とコントロールされない自動化を定義する方法の詳細については、57 ページ「[自動化管理] ページ」の「[自動化] 表示枠 - [実行の詳細] 領域」を参照してください。

注： 次の手順は、コントロールされた自動化でのみ実行します。

- g** [自動化プランナ] ダイアログ・ボックスの [実施の詳細] 表示枠で、カレンダーを使って自動化の日時を設定します。現在または将来の日付の選択が可能です。デフォルトでは、現在の日時に設定されています。
- h** 自動化を実行する前に、[ポリシー] 表示枠でポリシーのステータスをチェックします。ポリシー違反がある場合、その違反が IT 環境にとってクリティカルかどうかを調べる必要があります。たとえば、自動化によってサーバ・ダウンタイムが発生することがあります。自動化分析情報の詳細については、179 ページ「[自動化プランナ] ページ」の「[自動化分析] > [自動化] 表示枠」を参照してください。
違反によってリスクが発生しない場合は、ポリシー違反を無視して自動化を実行してかまいません。ポリシーへの違反があるかどうかにかかわらず、自動化は実行されます。詳細については、179 ページ「[自動化プランナ] ページ」の「[実施の詳細] 表示枠」および「[ポリシー] 表示枠」を参照してください。

- i **[実行]** をクリックすると、自動化が実行されます。
- ▶ コントロールされた自動化を実行した場合、[コントロールされた自動化] タブで自動化結果の詳細を表示できます。詳細については、192 ページ「[構成エクスペローラ] ページ」の「[コントロールされた自動化] タブ」を参照してください。
 - ▶ コントロールされない自動化を実行した場合、ウィンドウが開き、**[自動化が起動されました。詳細なレポートを表示するにはここをクリックしてください。]** というメッセージが表示されます。この部分はリンクになっており、クリックすると、HP Operations Orchestration が開いて自動化結果を表示できます。

複合 CI の折りたたみルールの設定

このタスクでは、複合 CI を定義する折りたたみルールを構成する方法を説明します。複合 CI は管理ビューのコンテンツを形成します。複合 CI の折りたたみルールの設定は HP Universal CMDB で行います。

注：前のバージョンの Configuration Manager では、折りたたみルールの定義は Configuration Manager で行っていました。前のバージョンからアップグレードした場合、以前に定義した折りたたみルールが HP Universal CMDB に自動的にインポートされます。


このタスクでは、次の手順を実行します。

- ▶ 174 ページ「前提条件」
- ▶ 174 ページ「計算された関係の定義」





1 前提条件

Configuration Manager の複合 CI のデータの表示方法を考慮し、複合 CI の範囲のルールを決定します。

2 計算された関係の定義

- a [管理] > [UCMDB ファウンデーション] を選択し、HP Universal CMDB を開きます。
- b [マネージャ] > [モデリング] > [CI タイプ マネージャ] を選択します。
- c [CI タイプ] 表示枠のリスト・ボックスから、[計算された関係] を選択します。
[Calculated Links] の下で、[Folding Rules (Config Manager)] を選択します。
- d 右の表示枠で [トリプレット] タブをクリックします。
- e [トリプレット] タブで  をクリックし、[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスを開きます。トリプレットを次のように定義します。

UI の要素	説明
ソース	目的のソース CI タイプを選択します。
ターゲット	目的のターゲット CI タイプを選択します。

UI の要素	説明
関係	<p>ソース CI タイプとターゲット CI タイプに必要な関係を選択します。</p> <p>注： 使用可能な関係のリストは、ソース CI タイプとターゲット CI タイプを定義した後にのみ表示されます。</p>
関係の方向	<p>目的の方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  ソースからターゲットへ ▶  ターゲットからソースへ <p>関係の方向により、どちらが複合 CI でどちらがコンポーネント CI かが決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 関係の矢印がターゲットに向いている場合、ソース・クエリ・ノードは複合 CI で、ターゲット・クエリ・ノードはコンポーネント CI です。 <div style="text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 5px;"> 複合 CI コンポーネント CI </div>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 関係の矢印がソースに向いている場合、ターゲット・クエリ・ノードは複合 CI で、ソース・クエリ・ノードはコンポーネント CI です。 <div style="text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 5px;"> コンポーネント CI 複合 CI </div>  </div>

f **[OK]** をクリックして変更を保存します。

変更を保存すると、Configuration Manager が変更の通知を受け取り、関連ビューを再計算します。

[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスの詳細については、HP Universal CMDB のマニュアルを参照してください。

リファレンス



構成エクスプローラのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 176ページ「[自動化実行] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 191ページ「[CI 詳細] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 192ページ「[構成エクスプローラ] ページ」
- ▶ 198ページ「[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 199ページ「[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 200ページ「[CI のソート] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 201ページ「[トポロジの表示] ダイアログ・ボックス」

[自動化実行] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、コントロールされた実行またはコントロールされない自動化を実行します。

<p>利用方法</p>	<p>[アプリケーション] > [構成エクスプローラ] を選択します。[複合 CI] 表示枠で目的の CI を選択し、[自動化の実行]  をクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [自動化の実行]  ボタンを有効にするには、次のことを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ツールバーから [実際のステータス] または [認証済みのステータス] を選択していること。 ▶ 自動化管理モジュールに、[複合 CI] 表示枠で選択した CI の CI タイプと同じ CI タイプにマッピングされている、管理された自動化があること。詳細については、57 ページ「[自動化管理] ページ」を参照してください。 ▶ 自動化を実行できるのは、自動化実行権限を持っているユーザのみです。

関連タスク	170 ページ「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」
参照	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 61 ページ「自動化ポリシーの管理」 ▶ 21 ページ「システム運用の自動化」

〔自動化実行〕 ページ

このページでは、実行する自動化を選択できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
自動化の詳細	<p>〔名前〕 : 〔管理〕 > 〔自動化管理〕 で定義した自動化の名前。</p> <p>〔フロー UUID〕 : Configuration Manager によって使用されている HP Operations Orchestration インスタンスを一意に識別する、HP Operations Orchestration インスタンスの名前。</p> <p>〔フロー パス〕 : HP Operations Orchestration でのフローのフル・パスと元の名前。</p> <p>〔説明〕 : 〔管理〕 > 〔自動化管理〕 で定義した自動化の説明。</p>
自動化	<p>実行できる自動化のリストを表示します。〔自動化〕 > 〔自動化管理〕 からインポートすると、自動化が表示されます。詳細については、56 ページ「HP Operations Orchestration からのフローのインポート」を参照してください。</p> <p>表示される自動化は、構成エクスプローラの 〔複合 CI〕 表示枠で選択した CI タイプに関連しています。</p>

UI の要素	説明
<p>実行パラメータ</p>	<p>フローの実行に必要な実行パラメータ。必須フィールドには赤のアスタリスクが付いています。</p> <p>注： Configuration Manager では、必要な実行パラメータ値が構成されていない自動化を実行することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ コントロールされない自動化を実行する場合、必須パラメータを構成しないと、[実行] ボタンは無効です。 ▶ コントロールされた自動化を実行する場合、必須パラメータを構成しないと、[次へ] ボタンは無効です。
<p>実行タイプ</p>	<p>[管理] > [自動化管理] で、コントロールされた自動化として定義されているか、コントロールされない自動化として定義されているかを表示します。</p>
<p>次へ/実行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このボタンは、コントロールされた自動化では [次へ] と表示されます。このボタンをクリックすると、自動化プランナが表示されます。 ▶ このボタンは、コントロールされない自動化では [実行] と表示されます。必須フィールドが入力されていない場合、このボタンは無効です。 <p>コントロールされない自動化を実行した場合、ウィンドウが開き、[自動化の実行中です。詳細なレポートを表示するにはここをクリックしてください。] というメッセージが表示されます。この部分はリンクになっており、クリックすると、HP Operations Orchestration が開いて自動化結果レポートが表示されます。</p>

〔自動化プランナ〕 ページ

ユーザ・インタフェースの要素の説明を次に示します。

重要な情報	<p>このページを使用できるのは、コントロールされた自動化を実行している場合のみです。</p> <p>次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 179 ページ 「〔実施の詳細〕 表示枠」 ▶ 180 ページ 「〔ポリシー〕 表示枠」 ▶ 183 ページ 「〔自動化分析〕 > [インパクト - <ステータス>] 表示枠」 ▶ 186 ページ 「〔自動化分析〕 > [自動化] 表示枠」 ▶ 188 ページ 「〔自動化分析〕 > [衝突] 表示枠」
--------------	---

〔実施の詳細〕 表示枠

この表示枠では、自動化の開始予定日時を設定できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
予想終了時刻	<p>自動化プロセスの終了が予想される時刻。</p> <p>予想終了時刻の上にポインタを置くと、自動化プロセスの予想時間がツールチップに表示されます。自動化を初めて実行するときの時間は 10 分です。</p> <p>自動化を初めて実行した後、Configuration Manager は個々の自動化にかかった平均時間を計算して安全バッファを足し、時間を更新します。</p>

UI の要素	説明
フローのプロパティ	自動化パラメータを表示します。 注： 必要な実行パラメータを削除すると、[OK] ボタンが無効になります。
計画開始時刻	カレンダーを使用して、自動化の実行を開始する日時を設定します。デフォルトの現在の日時を使用するか、将来の日付を選択して自動化が後で実行されるように再スケジュールできます。 将来の日付を選択すると、Configuration Manager は [自動化プランナ] ページのすべての自動化分析およびポリシー情報を再計算します。



[ポリシー] 表示枠

この表示枠では、自動化ポリシー・モジュールで定義したポリシーのステータスを表示できます。

参照	73 ページ「構成ポリシーの管理」
----	-------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
◀▶	<p>ポリシー詳細の表示/非表示を切り替えることができます。ポリシー名にポインタを置いて ▶ をクリックすると、[管理] > [ポリシー] > [自動化ポリシー] に定義されているポリシー情報が表示されます。詳細については、66 ページ「[自動化ポリシー] ページ」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [説明]：ポリシーの説明。 ▶ [関連するビュー]：ポリシーに割り当てられているビュー。 ▶ [関連する CI タイプ]：ポリシーが関連付けられている CI タイプ。 ▶ [制限]：ポリシーに定義されている条件。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [条件のタイプ]：オプションは [関連する自動化]、[関連する CI] です。 ▶ [条件]：このポリシーに定義されている自動化/CI 条件。 ▶ [自動化分析]：その制限に定義されている条件値。このポリシーに対して定義されているすべての条件に自動化が適合する場合のみ、ポリシー違反となります。 <p>◀ をクリックすると、ポリシー詳細が非表示になります。</p>






UI の要素	説明
<p><自動化ポリシー・リスト></p>	<p>自動化ポリシー・モジュールで定義した自動化ポリシーのリストを表示します。各ポリシーの違反または適合が判断されます。</p> <p> 自動化がこのポリシーに定義されているすべての条件を満たしていることを示します。</p> <p> 自動化がこのポリシーに定義されているすべての条件を満たしてはいないことを示します。</p> <p>違反によって IT 環境にリスクが発生しないことがわかっている場合は、ポリシー違反を無視して自動化を実行できます。違反がクリティカルな場合は、自動化を実行しない決定も可能です。また、自動化が後で実行されるように再スケジュールすることもできます。</p> <p>たとえば、違反ポリシーの定義により、最終実行からの経過時間が 1 か月を超える自動化で違反が発生する場合、サーバ・ダウンタイムが発生する違反とは異なるため、これによるリスクはないと判断することがあります。</p> <p>注： Configuration Manager では、自動化ポリシーへの違反があっても自動化を実行できます。</p>





[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠








この表示枠には、自動化のインパクト分析の計算結果を表示する方法があります。この表示枠には、自動化の影響を受けたビジネスおよびシステム CI が表示されます。これには、影響を受けたビジネスまたはシステム CI の一般情報と、自動化のインパクト重大度インジケータが含まれます。

重要な情報	<p>表示枠のタイトルは、分析時に自動化が CI に与える影響を計算する際に、[実際] または [認証済み] のどちらかのステータスのビューの CI を対象にするかを示します。デフォルトでは [実際] です。</p> <p>ビューを管理するステータスを選択するには、[システム] > [設定] > [アプリケーション管理] > [インパクト] を選択します。</p>
参照	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 73 ページ「構成ポリシーの管理」 ▶ 167 ページ「インパクト分析」 ▶ 「データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス」(16 ページ「HP Universal CMDB Configuration Manager の概要」)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
<p>ビジネス クリティカル度が最大の CI</p>	<p>自動化によるインパクトを受けた CI のうち、ビジネス・クリティカル度レベルが最大の CI を表示します。</p> <p>ビジネス・クリティカル度属性は HP Universal CMDB で定義されています。HP Universal CMDB では、重要度レベルがビジネス CI に割り当てられています。各 CI には、1 ～ 10 の重要度レベルを割り当てることができます。</p> <p>HP Universal CMDB での CI のビジネス・クリティカル度レベルは、次のようにマッピングされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ HP Universal CMDB の 0 ～ 2 ---> Configuration Manager の [低い] ▶ HP Universal CMDB の 3 ～ 5 ---> Configuration Manager の [中] ▶ HP Universal CMDB の 6 ～ 8 ---> Configuration Manager の [高い] ▶ HP Universal CMDB の 9 ～ 10 ---> Configuration Manager の [クリティカル] <p>ビジネス・クリティカル度レベルは次のアイコンで示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">  クリティカル  高い  中  低い <p>ドリルダウン矢印  をクリックすると、ビジネス・クリティカル度レベルが最大の CI のリストを含む表が表示されます。この表には、各 CI の CI 名、CI タイプ、インパクト重大度 レベル、ビジネス・クリティカル度 レベルがあります。</p> <p>CI のインパクト重大度およびビジネス・クリティカル度レベルを示すツールチップは、重大度およびクリティカル度のアイコンにポインタを置くと表示されます。</p> <p>この矢印  をクリックすると、表が非表示になります。</p>

UI の要素	説明
ビジネス CI の合計数	<p>自動化のインパクトを受けたビジネス CI の合計数を表示します。</p> <p>ドリルダウン矢印  をクリックすると、インパクトを受けたビジネス CI のリストを含む表が表示されます。この表には、各 CI の CI 名、CI タイプ、インパクト重大度 レベル、ビジネス・クリティカル度 レベルがあります。</p> <p>インパクト重大度レベルを示すアイコンの詳細については、この表の [インパクト重大度が最悪の CI] を参照してください。</p> <p>CI のインパクト重大度およびビジネス・クリティカル度レベルを示すツールチップは、重大度およびクリティカル度のアイコンにポインタを置くと表示されます。</p> <p>この矢印  をクリックすると、表が非表示になります。</p>
システム CI の合計数	<p>自動化のインパクトを受けたシステム CI の合計数を表示します。</p> <p>ドリルダウン矢印  をクリックすると、インパクトを受けた CI のリストを含む表が表示されます。この表には、各 CI の CI 名、CI タイプ、インパクト重大度 レベルがあります。</p> <p>CI のインパクト重大度を示すツールチップは、重大度のアイコンにポインタを置くと表示されます。</p> <p>この矢印  をクリックすると、表が非表示になります。</p>

UI の要素	説明
<p>インパクト重大度が最悪の CI</p>	<p>インパクトを受けたビジネス CI のうち、インパクト重大度が最悪の CI を表示します。</p> <p>インパクト重大度レベルは次のアイコンで示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">  クリティカル  高い  中  低い  極めて低い <p>ドリルダウン矢印  をクリックすると、インパクト重大度レベルが最悪のビジネス CI のリストを含む表が表示されます。この表には、各 CI の CI 名、CI タイプ、インパクト重大度 レベル、ビジネス・クリティカル度 レベルがあります。</p> <p>CI のインパクト重大度およびビジネス・クリティカル度レベルを示すツールチップは、重大度およびクリティカル度のアイコンにポインタを置くと表示されます。</p> <p>この矢印  をクリックすると、表が非表示になります。</p>

[自動化分析] > [自動化] 表示枠

この表示枠には、過去の自動化の実行に関する一般情報が表示されます。

<p>重要な情報</p>	<p>コントロールされた自動化とコントロールされない自動化について統計が計算されますが、[自動化分析] > [自動化] 表示枠に表示されるのは、コントロールされた実行の統計のみです。</p>
<p>参照</p>	<p>73 ページ「構成ポリシーの管理」</p>



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。





UI の要素	説明
構成変更の原因	自動化によって HP Universal CMDB の CI の変更が発生するかどうかを指定します。
ダウンタイムの原因	管理された自動化によって実行中に CI が使用できない状態になるかどうかを指定します。
実行率	この自動化の実行成功率および失敗率を表示します。成功率は緑で、失敗率は赤で表示されます。
予想される期間	自動化プロセスの予想時間。自動化を初めて実行するときの予想時間は 10 分です。 自動化を初めて実行した後、Configuration Manager は個々の自動化にかかった平均時間を計算して安全バッファを足し、時間を更新します。
最終実行日時	前回の自動実行の日時または日付。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動化が過去 48 時間に実行された場合、日付と時刻の両方が表示されます。 ▶ 現在から 48 時間以上前に実行された場合は、日付のみが表示されます。
実行回数	自動化が実行された回数。
リスク評価	管理された自動化のリスクレベル。有効値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 不明 ▶ なし ▶ 低い ▶ 中 ▶ 高い
成功した連続実行数	自動化の実行が連続して成功した回数。

[自動化分析] > [衝突] 表示枠

この表示枠には、自動化の衝突原因の詳細が表示されます。

関連タスク	170 ページ「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」
参照	<ul style="list-style-type: none">▶ 168 ページ「自動化の衝突」▶ 27 ページ「変更要求」

UI の要素	説明
 <p><衝突が 存在する></p>  <p><衝突が 存在しない></p>	<p>自動化が別の自動化/RFC と衝突しているかどうかを示します。</p> <p>衝突が発生するのは、共通の CI が、実行機関が重なる複数の自動化/RFC の影響を受けた場合です。</p> <p>衝突は次の条件を満たす自動化によって発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Configuration Manager で現在実行中、または実行がスケジュールされている他の自動化と衝突している または ▶ HP Service Manager で現在実施されている、または実施がスケジュールされている RFC と衝突している



UI の要素	説明
<p>CI の合計衝突数</p>	<p>衝突に関与し、広く影響を受けたすべてのビジネス/システム CI を表示します。</p> <p>ドリルダウン矢印  をクリックすると、衝突に関与する CI のリストを含む表が表示されます。表には、CI 名、CI タイプ、衝突タイプがあります。</p> <p>衝突タイプは次のアイコンで示されます。</p> <p> 直接衝突：衝突の影響を直接受けたビジネス/システム CI。</p> <p> 間接衝突：衝突の影響を間接的に受けたビジネス/システム CI。</p> <p>CI の衝突タイプを示すツールチップは、衝突タイプのアイコンにマウスを置くと表示されます。</p> <p>システム CI に関する注：表示されるのはトップ・レベルの（複合）CI のみです。</p> <p>衝突している自動化が複数の CI で衝突を発生させている場合、重大度が最も高い衝突によって重大度が決まります。</p> <p>矢印  をクリックすると、表が非表示になります。</p>
<p>衝突しているアクティビティの合計数</p>	<p>▶ 【衝突している自動化】：</p> <p>Configuration Manager で実行中、または実行がスケジュールされている、衝突している自動化の合計数を示します。</p> <p>▶ 【衝突している RFC】：</p> <p>Configuration Manager は、HP Service Manager で発生した HP Universal CMDB 変更要求 (RFC) をインポートします。RFC は、それぞれが 1 つ以上の CI に関連付けられています。</p> <p>衝突している RFC は、Configuration Manager で現在実行中、または実行がスケジュールされている自動化のうち、HP Service Manager で現在実行中、または実行がスケジュールされている RFC と衝突するものの合計数を示します。</p> <p>Configuration Manager が RFC を受け取る方法の詳細については、27 ページ「変更要求」を参照してください。</p>

[CI 詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI の詳細情報を表示します。

利用方法	[複合 CI の詳細を表示]  をクリックするか、[複合 CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠で CI をダブルクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。




UI の要素	説明
	[次の差異] をクリックすると、リスト内にある次の複合 CI に移動します。
	[属性] タブでは、選択した CI の属性すべての表示と、管理属性のみの表示を切り替えることができます。
[属性] タブ	左の表示枠には CI 名が表示されます。個々の複合 CI を展開すると、コンポーネント CI が表示されます。 右の表示枠には、この CI の属性名と値が表示されます。
[内向きの関係] タブ	選択した CI について、内向きの関係をすべて表示します。 個々の複合 CI を展開すると、コンポーネント CI が表示されます。コンポーネント CI を 1 つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。
[外向きの関係] タブ	選択した CI について、外向きの関係をすべて表示します。 個々の複合 CI を展開すると、コンポーネント CI が表示されます。コンポーネント CI を 1 つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。

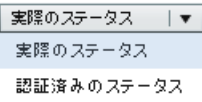




[構成エクスプローラ] ページ

このページでは、実際のステータスまたは認証済みのステータスのビューのスナップショットが表示されます。

利用方法	[アプリケーション] > [構成エクスプローラ] を選択します。
重要な情報	<p>[構成エクスプローラ] ページには次の表示枠やタブがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [複合 CI] 表示枠: CI を一覧表示し、各 CI にポリシー・ステータスをアイコンで表示します。 ▶ [トポロジ] 表示枠: CI をトポロジ・マップで表示し、各 CI のポリシー・ステータスをアイコンで表示します。 注: インベントリ・モードでは、[トポロジ] 表示枠は [関連 CI] と呼ばれます。 ▶ [ポリシー詳細] タブ: 選択した CI について、ポリシーの適合と違反の詳細を表示します。 ▶ [コントロールされた自動化] タブ: 現在実行中のコントロールされた自動化と、将来の実行がスケジュールされた自動化を表示します。 ▶ [フィルタ] 表示枠: インベントリ・モードでは、[フィルタ] 表示枠で複合 CI リストをフィルタできます。 <p>[複合 CI] 表示枠と [トポロジ] 表示枠は相互に連携しています。一方の表示枠で CI を選択すると、もう一方でも自動的に選択されます。</p>



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。




UI の要素	説明
	[ビューの選択] をクリックすると、別のビューを [構成エクスプローラ] ページで開くことができます。
	クリックすると、変更がインベントリ・モードで表示されます。
	クリックすると、変更がトポロジ・モードで表示されます。

UI の要素	説明
	<p>表示するビューのステータスを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [実際のステータス]: ビューの実際のステータスに含まれる CI と関係をすべて表示します。 ▶ [認証済みのステータス]: ビューの認証済みのステータスに含まれる CI と関係をすべて表示します。
	<p>[表示するスナップショットの選択] をクリックすると [表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。ここで、保存されているビューのスナップショットを選択できます。</p>
	<p>[コメントの編集] をクリックすると、選択したスナップショットのコメントを編集できます。</p>
	<p>ポリシー分析レポートのデータで使用するエクスポート形式を選択するには、[レポートのエクスポート] をクリックします。次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Excel: スプレッドシートで表示できる .xls (Excel) ファイル形式でエクスポートします。 ▶ PDF: PDF 形式でエクスポートします。 ▶ CSV: スプレッドシートで表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式でエクスポートします。
	<p>[更新] をクリックすると、CI リストが更新されます。</p>

[複合 CI] 表示枠






ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。




UI の要素	説明
	<p>[複合 CI のソート]: [CI のソート] ダイアログ・ボックスを開き、さまざまなソート・フィールドで CI リストをソートできます。</p>
	<p>[複合 CI の詳細を表示]: [CI の詳細] ダイアログ・ボックスを開き、選択した CI の管理属性を表示します。</p>

UI の要素	説明
	[自動化の実行] ：コントロールされた実行またはコントロールされない自動化を実行できます。[自動化実行] ダイアログ・ボックスを開きます。
	現在、CI が 1 つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	現在、CI がすべてのポリシーに適合していることを示します。
<CI のリスト>	ビュー内に現在含まれている CI と、これまでに含まれていた CI がすべて一覧表示されます。 カーソルを CI の上に置くと、CI の名前とタイプがツールチップで表示されます。 CI の横アイコンがない場合、その CI にはポリシーが定義されていないことを示します。

[トポロジ] 表示枠


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	[トポロジ概要の表示] をクリックすると、トポロジの概要の表示と非表示を切り替えることができます。
	[レイヤ レイアウト] をクリックすると、CI をレイヤごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。
	[階層レイヤ レイアウト] をクリックすると、CI をレイヤの階層ごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。
	[分類レイアウト] をクリックすると、CI を分類ごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。
	[円型レイアウト] をクリックすると、円型のレイアウトでトポロジ・マップを表示します。

UI の要素	説明
	ズーム・コントロールバーで、トポロジ・マップを拡大/縮小できます。
	[ウィンドウに合わせる] をクリックすると、トポロジ・マップがウィンドウ・サイズに合わせて表示されます。
	[トポロジ マップを全画面で表示] をクリックすると、[トポロジ] ボックスにトポロジ・マップが表示されます。
<トポロジ概要表示>	トポロジ概要表示は、表示枠の右上角に配置されます。ここには、[トポロジ] 表示枠内のトポロジ・マップの一部が表示されます。ビューのサイズが大きい場合やビューを拡大する場合に便利です。

[ポリシー詳細] 表示枠








ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI の要素	説明
	クリックすると、[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。 注： このボタンは、ポリシー・リストでベースライン・ルールを選択しないと表示されません。
[詳細] 表示枠	[ポリシー リスト] 表示枠で選択したポリシー・ルールの詳細（ルールの名前、説明、タイプ、検証日など）が表示されます。
[ポリシー リスト] 表示枠	選択した CI で定義されているポリシー・ルールがすべて表示されます。ルールの名前、選択したステータスの状態、関連 CI が表示されます。

【コントロールされた自動化】タブ

このタブは、現在実行中のコントロールされた自動化と、将来の実行がスケジュールされた自動化を表示します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
<p>【最近のコントロールされた自動化】表示枠</p>	<p>過去 24 時間に実行したすべての自動化を表示します。実行開始後 24 時間経った自動化は、この表示枠には表示されません。</p> <p>それぞれの自動化について、次のデータがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動化の名前。 自動化の名前は、HP Operations Orchestration のフロー実行レポートへのリンクになっています。 ▶ 自動化の開始日時と期間。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動化の実行が開始された日時と期間（自動化の実行が完了している場合）。 ▶ 自動化の実行が開始された日時と予想される期間（自動化がまだ実行中の場合）。 ▶ 自動化ステータスを示すアイコン： <ul style="list-style-type: none">  【不明】：ステータス・データが使用できないか、HP Operations Orchestration で示されているステータスをシステムが認識できないことを示します。このアイコンは自動化を初めて実行したときに表示され、HP Operations Orchestration から更新ステータスを受け取ると置き換えられます。  【実行中】：自動化の実行中です。  【成功】：自動化の実行が成功しました。  【成功 (問題あり)】：自動化の実行が成功しましたが、問題が発生しました。  【失敗】：自動化が失敗しました。  【キャンセル済み】：自動化がキャンセルされました。  【エラー】：一般エラーを示します。たとえば、HP Operations Orchestration に接続せずに自動化を実行した場合に発生します。

UI の要素	説明
[計画されているコントロールされた自動化] 表示枠	<p>将来の日付で実行がスケジュールされているすべての自動化を表示します。自動化の実行が開始された後は、[最近のコントロールされた自動化] 表示枠に表示されます。</p> <p>それぞれの自動化について、次のデータがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動化の名前。 ▶ 自動化の開始日時と予想される期間。 ▶ [キャンセル]: クリックすると、計画されている自動化をキャンセルできます。自動化をキャンセルすると、 アイコンが表示されます。自動化は、スケジュールされた開始日時に [最近のコントロールされた自動化] 表示枠に表示され、スケジュールされた実行開始日時の 24 時間後に表示されなくなります。

[フィルタ] 表示枠


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
変更された CI	<p>変更ステータスに基づいて CI をフィルタします。[はい] を選択すると、変更が発生した CI のみがビューに表示されます。[いいえ] を選択すると、変更なしの CI のみがビューに表示されます。</p> <p>注: 構成エクスプローラでは、このフィルタは使用できません。</p>
CI 名	<p>CI 名で CI をフィルタします。選択した CI のみがビューに表示されます。</p> <p>値ボックスに CI 名を入力するか、[詳細...] をクリックしてダイアログ・ボックスを開き、リストから CI を選択してください。</p>
CI タイプ	<p>CI タイプで CI をフィルタします。選択した CI タイプの CI のみがビューに表示されます。</p> <p>[詳細...] をクリックしてダイアログ・ボックスを開き、リストから CI タイプを選択します。</p>



UI の要素	説明
管理ステータス	管理ステータスで CI をフィルタします。選択したステータスの CI のみがビューに表示されます。 [管理] または [非管理] を選択します。
ポリシー名	ポリシーの名前で CI をフィルタします。選択したポリシーに関連する CI のみがビューに表示されます。 [詳細...] をクリックしてダイアログ・ボックスが開き、リストからポリシーを選択します。
ポリシー ステータス	ポリシー・ステータスで CI をフィルタします。選択したステータスの CI のみがビューに表示されます。 [違反] または [適合] を選択します。

[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ベースライン・ポリシー・ルールに関する CI のポリシー違反の詳細情報が表示されます。

利用方法	[ポリシー詳細] 表示枠の [ポリシー詳細の表示]  をクリックします。
重要な情報	[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックスが開くのは、ベースライン・ポリシーが適用された CI を選択した場合のみです。このダイアログ・ボックスには、選択したステータス（実際または認証済み）のポリシーの詳細情報が表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	選択した CI について、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を切り替えます。
	リスト内で、次の違反に移動します。

UI の要素	説明
<左の表示枠>	CI の名前とベースラインが表示されます。複合 CI は、矢印をクリックすると展開し、コンポーネント CI が表示されます。ベースライン値のある CI については、ポリシー違反かどうかアイコンが表示されます。 注： CI の属性の中で違反しているものが 1 つでもある場合や、ベースライン内の CI と一致しない場合、その CI はポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択した CI について、属性の名前と値、ベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性ごとに、その属性によって CI がポリシー違反になっているかどうかアイコンが表示されます。

[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、表示するスナップショットを選択します。


利用方法	ツールバーで、スナップショットの選択ボックスのいずれかをクリックします。
-------------	--------------------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。







UI の要素	説明
<カレンダー>	カレンダーの日付を選択します。
<スナップショットのリスト>	選択したビューについて、選択した日付に取得されたスナップショットがすべて一覧表示されます。
コメント	スナップショットに関するコメント。
作成日時	スナップショットを取得した日時。
説明	スナップショットの簡単な説明。

[CI のソート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[複合 CI] 表示枠の CI リストをソートします。


利用方法	[複合 CI] 表示枠のツールバーで [CI のソート] ボタン  をクリックします。
重要な情報	CI をソートした後に [更新] ボタンをクリックすると、変更内容が有効になります。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[利用できるソート フィールド] 表示枠から [選択したソート フィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	[利用できるソート フィールド] 表示枠から [選択したソート フィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。
	[選択したソート フィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	[選択したソート フィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。
	選択したフィールドを [選択したソート フィールド] 内で上下に移動します。
	選択したフィールドごとに [昇順] または [降順] を選択すると、ソートの方向を変更できます。
利用できるソート フィールド	CI をソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソート フィールド	CI をソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。

[トポロジの表示] ダイアログ・ボックス

このページでは、トポロジ・マップを大きな領域に表示します。

利用方法	[トポロジ] 表示枠のツールバーで [トポロジ マップを全画面で表示] ボタン  をクリックします。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
< [トポロジ] 表示枠の ツールバー・ボタン >	[トポロジ] 表示枠のツールバー・ボタンは、[トポロジの表示] ダイアログ・ボックスにもあります。詳細については、194 ページ「[トポロジ] 表示枠」を参照してください。

第 IV 部

システムのセットアップ

第 14 章

システム設定

本章の内容

概念

- ▶ システム設定の概要 (206ページ)
- ▶ ユーザ管理の構成の概要 (208ページ)

タスク

- ▶ 構成の変更の保存と適用 (209ページ)
- ▶ Configuration Manager で未設定の共有ユーザ・リポジトリを使用するための設定 (210ページ)
- ▶ Configuration Manager で外部ユーザ・リポジトリ (LDAP) を使用するための設定 (210ページ)

リファレンス

- ▶ システム設定のユーザ・インターフェース (223ページ)
- ▶ トラブルシューティングおよび制限事項 (236ページ)

概念

システム設定の概要

システム設定モジュールでは、環境のセットアップに必要な構成セットを定義します。

構成セットには、システムに関して定義したプロパティが含まれています。構成セットを複数作成しておき、そのうちの 1 つをシステムの実行用に選択することができます。Configuration Manager により、作成したすべての構成セットの履歴が保持されます。既存の構成セットのすべてのバージョンを一覧表示する方法については、223 ページ「[構成セットを開く] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

Configuration Manager では、構成セットをシステム間で移動できます。次の操作が可能です。

- ▶ ローカル・ディレクトリに構成セットをエクスポートする。
- ▶ ローカル・システムから別のシステムに構成セットをインポートする（テスト環境から実稼働環境への移動など）。

新しく作成した構成セットは、ドラフトとして保存されます。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトは、最初にアクティブ化するまでの間は編集可能です。ドラフトがアクティブになった時点で、新しい構成プロパティが Configuration Manager に適用されます。ドラフトをアクティブ化する方法の詳細については、209 ページ「構成の変更の保存と適用」を参照してください。

構成セットは、アクティブ化した後は編集できなくなります。したがって、編集の必要がある場合には、ドラフトの新規作成が必要になります。既存の構成セットを元に新しくドラフトを作成し、新しい名前で作成してください。

ドラフトの作成方法については、224 ページ「[ドラフトとして保存] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

Configuration Manager は、構成セットの検証を行い、構成に問題があるかどうか（フィールドに値が入力されていないなど）を判定します。問題が検出されると、問題の説明、問題が検出された構成表示枠へのリンク、問題の重大度を示すアイコンが表示されます。

構成に対するこのような検証は、次の操作の後に実行されます。

- ▶ 構成セットを保存する
- ▶ 構成セットを開く
- ▶ 構成セットをインポートする

問題処理の詳細については、234 ページ「[問題] 表示枠」を参照してください。

注： Configuration Manager の設定に変更を加えるには、システム設定権限が必要です。

ユーザ管理の構成の概要

Configuration Manager では、認証/ユーザ/グループ管理のために組織 LDAP に接続したり、リレーショナル・データベースでサポートされている未設定のユーザ・リポジトリを使用したりすることができます。

ユーザ管理情報は、次のプロバイダによって提供されます。

- ▶ **認証プロバイダ**は、ユーザ認証で使用するログイン情報を提供します。
- ▶ **ユーザ・プロバイダ**は、ユーザの定義を提供します。
- ▶ **グループ・プロバイダ**は、グループの定義を提供します。

Configuration Manager の未設定のユーザ・リポジトリ（**共有データ・リポジトリ**）または外部 LDAP サーバ（**外部データ・リポジトリ**）に格納されている管理情報を使用するように、プロバイダを設定できます。Configuration Manager でユーザ情報を変更すると、該当するプロバイダのリポジトリ内のデータが更新されます。

一般的なアプリケーション実装では、**ユーザ・プロバイダ**、**グループ・プロバイダ**、**認証プロバイダ**のすべてに同じデータ・リポジトリ（**外部**または**共有**）が指定されます。

共有データ・リポジトリは、Configuration Manager のリレーショナル・データベースで管理されます。

[システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] の編集方法の詳細については、225 ページ「[システム設定] ページ」を参照してください。

タスク

構成の変更の保存と適用

このタスクでは、構成の変更を保存する方法と、Configuration Manager に新しい構成プロパティを適用する方法について説明します。

1 **[システム]** > **[設定]** を選択して、必要な構成の変更を行います。



2 左の表示枠にある **[現在の編集可能な構成セットの保存]** ボタン をクリックすると、**[ドラフトとして保存]** ダイアログ・ボックスが開きます。ここで、変更した構成セットをドラフトとして保存します。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトがアクティブ化されると、新しい構成プロパティが Configuration Manager に適用されます。

3 **[ドラフト名]** ボックスにドラフトの名前を入力し、**[保存]** をクリックします。



4 左の表示枠にある **[構成セットを開く]** をクリックすると、**[構成セットを開く]** ダイアログ・ボックスが開きます。

5 **[ドラフト]** ボタンをクリックすると、既存のドラフトのみが表示されます。

6 必要なドラフトを選択して、**[開く]** をクリックします。現在選択されている構成セットの名前が、左の表示枠の一番上に表示されます。



7 左の表示枠にある **[現在の構成セットのアクティベーション]** ボタンをクリックします。選択したドラフトがアクティブになり、Configuration Manager に新しい構成プロパティが適用されます。

Configuration Manager で未設定の共有ユーザ・リポジトリを使用するための設定

このタスクでは、Configuration Manager で共有ユーザ・ディレクトリを使用するための設定方法を説明します。

- 1 [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] で、次の項目を [SHARED] に設定します。
 - ▶ 認証プロバイダ
 - ▶ ユーザプロバイダ
 - ▶ グループプロバイダ
- 2 [ユーザ<属性>が必須] オプションをすべて選択して、ユーザ作成時の入力に必須にします。
- 3 [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [共有ユーザ リポジトリ] > [カスタマイズ] で、すべての属性値が選択されていることを確認します。

Configuration Manager で外部ユーザ・リポジトリ (LDAP) を使用するための設定

Configuration Manager は、ユーザ認証のために、LDAP サーバと直接連携します。このタスクでは、Configuration Manager で認証に LDAP を使用するための設定方法を説明します。

このタスクでは、次の手順を実行します。

- ▶ 211 ページ「LDAP 接続の構成」
- ▶ 212 ページ「Configuration Manager での LDAP サーバ接続プロパティの構成」
- ▶ 213 ページ「Configuration Manager のユーザ・オブジェクトと LDAP のユーザ・オブジェクトのマッピング」
- ▶ 215 ページ「グループ検索プロパティの構成」
- ▶ 217 ページ「Configuration Manager のグループ・オブジェクトと LDAP のグループ・オブジェクトのマッピング」

- ▶ 219 ページ「ネストされたグループのサポートの構成」
- ▶ 220 ページ「Configuration Manager - LDAP 接続の詳細な属性の構成」
- ▶ 220 ページ「Configuration Manager で LDAP サーバを使用するための構成」

1 LDAP 接続の構成

- a <http://directory.apache.org/studio> から Apache Directory Studio LDAP ブラウザをダウンロードしてインストールします。
- b LDAP ブラウザを開き、アプリケーション・ウィンドウの左下にある [Connections] タブで [New Connection] ボタンをクリックします。
- c LDAP ホスト名 (**IdapHost**) とポート番号 (**IdapPort**) を入力します。
- d 適切な暗号化レベル ([**enableSSL**]) を選択します。
- e [**Check Network Parameters**] をクリックします。
- f [**Next**] をクリックします。
- g 次の認証方法のいずれかを選択します。
 - ▶ No Authentication useAdministrator=false
 - ▶ Simple Authentication useAdministrator=true
- h [**Finish**] をクリックします。接続が自動的にテストされます。
- i SSL を選択すると、[Certificate trust] ウィンドウが開くことがあります。該当する場合は [**View Certificate**] を選択します。証明書が Configuration Manager で使用している Java キー・ストアに表示されていることを確認します。

2 Configuration Manager での LDAP サーバ接続プロパティの構成

このステップでは、Configuration Manager と LDAP サーバの接続を構成します。

[システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザ リポジトリ] で、次のユーザ・ログイン情報を定義します。

属性名	説明
ldapAdministrator	初期 LDAP 接続を作成するために使用する管理者のユーザ名。 注 ：このパラメータが必要なのは、 useAdministrator オプションを true に設定している場合のみです。
enableSSL	このパラメータを選択すると、LDAP サーバへの接続に SSL が使用されます。
ldapAdministrator Password	初期 LDAP 接続を作成するために使用する管理者のパスワード。 注 ：このパラメータが必要なのは、 useAdministrator オプションを true に設定している場合のみです。
ldapHost	LDAP サーバを稼働しているマシンのホスト名。
ldapPort	LDAP サーバのポート番号。 enableSSL を true に設定している場合、このポートが SSL 接続に使用されます。
useAdministrator	true に設定すると、 管理者ユーザ名 および パスワード の各パラメータで指定した管理者のユーザ名とパスワードを使用して LDAP 接続が作成されます。それ以外の場合、ユーザ名またはパスワードなしで LDAP 接続が作成されます。 注 ：ライブラリでは、v2 ゲスト・ユーザはサポートされていません。

3 Configuration Manager のユーザ・オブジェクトと LDAP のユーザ・オブジェクトのマッピング

本項では、LDAP ベンダまたは、Configuration Manager のユーザ・オブジェクトを表すカスタム実装固有オブジェクトを定義します。

注：複数のカンマ区切りオブジェクト・クラスがサポートされています。

Configuration Manager のユーザ構成プロパティを LDAP サーバ構成プロパティにマッピングするには、次の手順を実行します。

- a LDAP ブラウザのツリー・メニューからユーザを選択します。
- b LDAP ブラウザのメイン・ウィンドウに表示されているユーザ情報を確認します。
- c [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザ リポジトリ] で、次の属性の LDAP プロパティ名を割り当てます。

注: 表示される属性名は、使用している LDAP ツールによって異なることがあります。

属性名	説明
必須属性	
usersLoginName Attribute	ユーザが LDAP へのログインに使用するユーザ名を格納します。
usersObjectClass	ユーザ情報の格納に使用される LDAP オブジェクト・クラス。

属性名	説明
オプション属性	
usersDisplayName Attribute	ユーザの LDAP 表示名を格納するために使用される属性。
usersEmailAttribute	ユーザの LDAP 電子メール・アドレスを格納するために使用される属性。
usersFirstName Attribute	ユーザの LDAP の名を格納するために使用される属性。
usersLastName Attribute	ユーザの LDAP の姓を格納するために使用される属性。
usersPreferred LanguageAttribute	特定の言語でユーザ・インタフェースを表示する属性。
usersPreferredLocationAttribute	指定した言語の場所を格納する属性。

4 グループ検索プロパティの構成

本項では、LDAP グループで使用する検索プロパティを定義します。プロパティは 2 セットあります。一つは通常（非ルート）プロパティ用、もう一つはルート・グループ用です。ルート・グループ検索で返されたグループのみが、[システム] > [ユーザ管理] > [ユーザ管理] ウィンドウ > [ユーザとグループ] タブのルート・レベルで表示されます。

これによって、グループ検索を関連するグループのみに絞り込むことができます。一定数のグループ数のみを表示するには、ルート・グループ検索条件を適切に制限します。ルート・グループと非ルート・グループの両方に同じ検索条件を使用できます。グループの総数が少ない場合、この構成をお勧めします。

注：まず、LDAP ブラウザを使用して、ユーザ検索の構成を検証する必要があります。検証が成功した場合のみ、次に、Configuration Manager を対応するプロパティ定義で更新します。

- a LDAP ブラウザのツリー・メニューで、[Search] フォルダを選択します。
- b [Search] フォルダを右クリックします。[New] メニューから [New Search] を選択します。
- c 対応する入力フィールドで、次のプロパティを定義します。

属性名	説明
groupsBase	LDAP ディレクトリでグループを検索するために使用される識別名 (DN)。
groupsFilter	LDAP グループ検索から返されるインスタンスを指定します。

属性名	説明
groupsScope	<p>グループ検索の範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ SCOPE_SUB : グループのベースの下のサブ・ツリーを検索します。 ▶ SCOPE_ONE : グループのベースの下の第 1 レベルのサブ・ツリーのみを検索します。 ▶ SCOPE_BASE : サブツリーのルートのみを検索します。 <p>注 : グループのベースは groupsBase 属性で定義されています。</p>
rootGroupsBase	<p>LDAP ディレクトリでルート・グループを検索するために使用される識別名 (DN)。</p>
rootGroupsScope	<p>ルート・グループ検索の範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ SCOPE_SUB : グループのベースの下のサブ・ツリーを検索します。 ▶ SCOPE_ONE : グループのベースの下の第 1 レベルのサブ・ツリーのみを検索します。 ▶ SCOPE_BASE : サブツリーのルートのみを検索します。 <p>注 : グループのベースは rootGroupsBase 属性で定義されています。</p>

d [Search] をクリックします。

e 検索を検証した後, [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザリポジトリ] のステップ c で定義したプロパティを更新します。

5 Configuration Manager のグループ・オブジェクトと LDAP のグループ・オブジェクトのマッピング

このステップでは、LDAP ベンダー、または静的グループを表すカスタム実装固有オブジェクトを定義します。

注：複数のカンマ区切りオブジェクト・クラスがサポートされています。適切な対応するカンマ区切り属性名を定義できます。

Configuration Manager のグループ構成プロパティを LDAP サーバのグループ構成プロパティにマッピングするには、次の手順を実行します。

- a LDAP ブラウザのツリー・メニューからグループを選択します。
- b LDAP ブラウザのメイン・ウィンドウに表示されているグループ情報を確認します。
- c [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザ リポジトリ] で、次の属性の LDAP プロパティ名を割り当てます。

注：表示される属性名は、使用している LDAP ツールによって異なることがあります。

属性名	説明
必須属性	
groupsMembers Attribute	グループのメンバ情報を格納するために使用されます。この複数値の属性は、静的グループ・メンバの完全識別名 (DN) を格納します。
groupsObjectClass	静的グループの情報を格納するために使用される LDAP オブジェクト・クラス。

属性名	説明
オプション属性	
dynamicGroupsClass	動的グループの情報を格納するために使用される LDAP オブジェクト・クラス。
dynamicGroups MemberAttribute	動的グループのメンバを定義する検索 URL を格納するために使用される属性。
dynamicGroups NameAttribute	動的グループの一意の名前を格納するために使用される属性。通常、この属性は dynamicGoupsDisplayNameAttribute と同じです。
dynamicGroups DescriptionAttribute	動的グループの説明を格納するために使用される属性。
dynamicGroupsDisplay NameAttribute	動的グループの表示名を格納するために使用される属性。通常、この属性は dynamicGoupsNameAttribute と同じです。
enableDynamicGroups	この属性の値が true の場合、Configuration Manager は動的グループと静的グループのユーザを検索するように指示されます。 注 ：非常に大規模な動的グループのメンバの検索には時間がかかります。

属性名	説明
groupNameAttribute	グループの一意の名前を格納するための属性。通常、この属性は groupsDisplayNameAttribute と同じです。
groupsDisplayNameAttribute	グループの表示名を格納するための属性。通常、この属性は groupNameAttribute と同じです。
groupsDescriptionAttribute	グループの説明を格納するために使用されます。

6 ネストされたグループのサポートの構成

LDAP ディレクトリでユーザ検索を構成する際、Configuration Manager で LDAP サーバのグループ階層情報を考慮するかどうかを定義します。

属性名	説明
enableNestedGroups	Configuration Manager はサブグループのすべてのユーザを再帰的に検索するように指示されます。 注: グループの検索フィルタによってインスタンスが返されます。
maximalAllowedGroupsHierarchyDepth	グループ階層で許可する最大の深さを定義します。このレベルより下のグループは検索されません。 負の値を定義すると、深さが無制限に許可されます。 注: このパラメータが関連するのは、 enableNestedGroups パラメータを true に設定している場合のみです。

7 Configuration Manager - LDAP 接続の詳細な属性の構成

詳細な属性を定義して、Configuration Manager - LDAP 接続を微調整できます。

属性名	説明
ldapVersion	<p>LDAP プロトコル・バージョン。設定可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 3 - デフォルト ▶ 2 - 旧バージョンの LDAP
baseDistinguishName Delimiter	<p>ベース DN の区切り文字。ユーザやグループ、ユーザ検索で複数のベース DN を使用する場合に、構成で使用する記号。</p> <p>注：この記号は、この構成で使うベース DN の中では使用できません。ベース DN で使用する場合は、デフォルト値を別の記号に変更してください。</p>
scopeDelimiter	<p>範囲の区切り文字。ユーザまたはグループ検索で複数の範囲を使用する場合に、構成で使用する記号。</p> <p>注：この記号は、この構成で使う範囲名の中では使用できません。範囲名で使用する場合は、デフォルト値を別の記号に変更してください。</p>
attributeValues Delimiter	<p>ユーザまたはグループの複数の属性名を使用する場合に、構成で使用する記号。</p> <p>注：この記号は、この構成で使う属性の中では使用できません。属性名で使用する場合は、デフォルト値を別の記号に変更してください。</p>

8 Configuration Manager で LDAP サーバを使用するための構成

a [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] で、次を [外部] に設定します。

- ▶ ユーザ プロバイダ
- ▶ グループ プロバイダ

b [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザ リポジトリ] > [有効化] で、次の属性が**選択されている**ことを確認します。

- ▶ グループを読み取り可能
- ▶ グループ役割に読み取りを割り当て可能
- ▶ グループ役割に書き込みを割り当て可能
- ▶ 原則を読み取り可能
- ▶ 原則役割に読み取りを割り当て可能
- ▶ 原則役割に書き込みを割り当て可能
- ▶ 役割を作成可能
- ▶ 役割を削除可能
- ▶ 役割を読み取り可能
- ▶ 役割を同期可能

c [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザ リポジトリ] > [有効化] で、次の属性が**選択されていない**ことを確認します。

- ▶ グループを作成可能
- ▶ グループを更新可能
- ▶ グループを削除可能
- ▶ 原則を作成可能
- ▶ 原則を削除可能
- ▶ 原則を更新可能

注: 外部ユーザ・リポジトリに存在するその他の属性は、読み取り専用を設定します。

- d [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [共有ユーザリポジトリ] > [カスタマイズ] で、次の属性が**選択されている**ことを確認します。
 - ▶ ユーザ表示名属性を読み取り可能
 - ▶ ユーザ名（名）属性を読み取り可能
 - ▶ ユーザ名（姓）属性を読み取り可能
 - ▶ ユーザログイン名属性を読み取り可能
 - ▶ ユーザー一意 ID 属性を読み取り可能
- e 構成の変更を保存し、アクティブにします。詳細については、209 ページ「構成の変更の保存と適用」を参照してください。
- f Configuration Manager を再起動します。

9 認証プロバイダを外部に設定

- a [システム] > [ユーザ管理] を選択し、ユーザまたはグループのログイン権限を定義します。詳細については、242 ページ「Configuration Manager のユーザおよび権限のセットアップ」を参照してください。
- b [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] で、認証プロバイダを [EXTERNAL] に設定します。
- c 構成の変更を保存し、アクティブにします。詳細については、209 ページ「構成の変更の保存と適用」を参照してください。
- d Configuration Manager を再起動します。

リファレンス


システム設定のユーザ・インタフェース

本項の内容




- ▶ 223ページ「[構成セットを開く] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 224ページ「[ドラフトとして保存] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 225ページ「[システム設定] ページ」

[構成セットを開く] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、既存の構成セット・バージョンがすべて一覧表示されます。

利用方法	左の表示枠で、[システム] > [設定] > [構成セットを開く]  を選択します。
重要な情報	構成セット・バージョンの名前は変更できません。
関連タスク	209 ページ「構成の変更の保存と適用」


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[現在アクティブな構成セット]: 現在アクティブな構成セットを示します。
	[以前にアクティブ化された構成セット]: これまでにアクティブ化された構成セットを示します。
	[ドラフト]: ドラフト (まだアクティブになっていない構成セット) を示します。ドラフトをアクティブ化すると、ドラフトの変更内容が Configuration Manager の履歴に適用および保存されます。

UI の要素	説明
アクティベーション済み	現在アクティブな構成セットを表示します。
すべて	既存の構成セットとドラフトをすべて表示します。
ドラフト	既存のドラフトをすべて表示します。
最終アクティベーション 実行者	ドラフト/構成セットを最後にアクティベーションしたユーザの名前。
最終アクティベーション 実行日時	ドラフト/構成セットを最後にアクティベーションした日時。
最終変更者	ドラフト/構成セットを最後に変更したユーザの名前。
最終変更日時	ドラフト/構成セットを最後に変更した日時。

[ドラフトとして保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログボックスでは、新しい構成セットのドラフトを作成します。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトは、最初にアクティブ化するまでの間は編集可能です。ドラフトをアクティブ化すると、構成プロパティが Configuration Manager に適用されます。ドラフトをアクティブ化する方法の詳細については、209 ページ「構成の変更の保存と適用」を参照してください。

利用方法	左の表示枠で、[システム] > [設定] > [現在の編集可能な構成セットの保存]  を選択します。
重要な情報	既存のドラフトの名前は変更できません。
関連タスク	209 ページ「構成の変更の保存と適用」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
<既存のドラフトのリスト>	既存のドラフトをすべて一覧表示します。
ドラフト名	新しいドラフトの名前として、一意の名前を入力します。
最終変更者	ドラフトを最後に変更したユーザの名前。
最終変更日時	ドラフトを最後に変更した日時。
名前	ドラフトの名前。



[システム設定] ページ


このページでは、Configuration Manager の構成セットを変更します。






利用方法	[システム] > [設定] を選択します。
重要な情報	設定を変更すると、左の表示枠で、変更したカテゴリの名前の横にアスタリスクが表示されます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 210 ページ「Configuration Manager で未設定の共有ユーザ・リポジトリを使用するための設定」 ▶ 210 ページ「Configuration Manager で外部ユーザ・リポジトリ (LDAP) を使用するための設定」


左の表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	<p>[現在の編集可能な構成セットの保存]：新しい構成セットのドラフトを作成します。ドラフトとは、まだアクティブになっていない編集可能な構成セットです。</p> <p>このボタンは、現在アクティブになっている構成セットを変更すると有効になります。詳細については、224 ページ「[ドラフトとして保存] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
	<p>[構成セットを開く]：既存の構成セット・バージョンすべてを一覧表示します。詳細については、223 ページ「[構成セットを開く] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

UI の要素	説明
	<p>【構成セットのインポート】：ローカル・システムから同じシステムまたは別のシステムに構成セットをインポートします。[構成セットのインポート] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>重要：Configuration Manager では、同じバージョンの Configuration Manager から一部エクスポートした構成セットを既存の構成セットにインポートできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 既存の構成セットをすべてのプロパティで上書きできます。 ▶ インポートした構成セットにない既存の構成を削除することはできません。 <p>例：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [システム] > [設定] > [アプリケーション管理] > [トポロジ表示] > [トポロジレイアウト] を選択します。 2 [レイヤ] 表示枠で [ソフトウェア] フィールドとフィールドに関連付けられた色を削除します。 3 構成セットをエクスポートします。 4 次に、構成セットを、[ソフトウェア] フィールドが存在する別のドラフトにインポートします。インポート操作を実行しても、[ソフトウェア] フィールドはドラフトから削除されません。他の既存のエントリが上書きされるか、そのドラフトに新しいエントリが追加されるだけです。エントリを削除するには、手動で行います。 <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ まだアクティブになっていない構成セット（ドラフト）の使用中に構成セットをインポートすると、インポートした構成セットによって現在のドラフトが上書きされます。 ▶ すでにアクティブになっている構成セットの使用中に一部エクスポートした構成セットをインポートするには、[構成セットのインポート] ダイアログ・ボックスの [ドラフト名] ボックスに別のドラフト名を入力してドラフトを作成する必要があります。

UI の要素	説明
 (続き)	<p>制限事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Configuration Manager のユーザ・インタフェースを使用してエクスポートした構成セットを、構成セットのエクスポート・ユーティリティでインポートすることはできません。詳細については、277 ページ「構成セットのエクスポート」を参照してください。 ▶ 構成セットのエクスポート・ユーティリティを使用してエクスポートした構成セットを、Configuration Manager のユーザ・インタフェースでインポートすることはできません。この場合、現在アクティブな構成セットが完全に上書きされます（インポートしたセットにない構成アイテムは削除されます）。 <p>< Configuration Manager のインストール・ディレクトリ > ¥conf¥ フォルダにある vanilla.zip ファイルから構成セットをインポートする場合も、現在アクティブな構成セットが上書きされます</p>
	<p>[構成セットを zip ファイルにエクスポート]： ローカル・ディレクトリに構成セット全体または構成セットの一部を zip ファイルでエクスポートします。[構成セットのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>[構成セットのエクスポート] ダイアログ・ボックスで、ツリーからエクスポートする構成セットを選択します。</p>
	<p>[現在の構成セットのアクティベーション]： ドラフト/構成セット内の構成プロパティを Configuration Manager に適用します。これにより、この構成セットはアクティブな構成セットになります。</p> <p>注： 同時に複数の構成セットがアクティブになることはありません。</p>
	<p>[構成を構成セットに追加]： 構成ツリーでノードを選択すると、このボタンが有効になります。下位構成を追加できます。</p>
	<p>[構成を構成セットから削除]： 構成ツリーでノードを選択すると、このボタンが有効になります。下位構成を削除できます。</p>

UI の要素	説明
	構成カテゴリを表します。 注： 各カテゴリの横の矢印をクリックすると、下位レベルのカテゴリを展開したり折りたたむことができます。
<構成ツリー>	構成カテゴリが表示されます。ツリー内でノードを選択すると、右の表示枠に構成フィールドが表示されます。ツリー内でファイルを選択すると、右の表示枠で開きます。





構成セットは、次のカテゴリに分類されます。

自動化インパクト

設定	説明
インパクト分析のステータス	実際または認証済みステータスのビューから、自動化が CI に及ぼす影響をインパクト分析で計算するかどうかを決定できます。 次のオプションを選択できます。 ▶ ACTUAL ▶ AUTHORIZED デフォルト： ACTUAL 詳細については、183 ページ「[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠」を参照してください。

取得される RFC 基準

設定	説明
RFC 最大日数	RFC の終了予定日から経過可能な最大日数。

設定	説明
RFC CI タイプ	<p>RFC の定義が可能な CI タイプを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  新しい CI タイプを追加します。 ▶  選択した CI タイプを削除します。 <p>CI タイプ名は手動で編集できます。</p>
RFC フィルタ	<p>プロパティ名と値に基づいて、表示する RFC をフィルタします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  新しいプロパティを追加します。 ▶  プロパティを削除します。 <p>プロパティの名前と値は手動で編集できます。</p> <p>注： プロパティは 1 行ずつ表示され、値はカンマ区切りで表示されます。RFC のプロパティ値が指定された値のいずれかの場合、その RFC は表示されます。</p>

HP Operations Orchestration (OO) サーバ

この表示枠では、HP Operations Orchestration の接続を設定します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
周期間隔	<p>HP Operations Orchestration サーバで自動化フローの結果をチェックする頻度を示す間隔（単位：秒）を定義します。</p> <p>デフォルト：60 秒</p>
ホスト	<p>HP Operations Orchestration サーバがインストールされているマシンのホスト名。</p>
パスワード	<p>HP Operations Orchestration サーバへの接続に必要なパスワード。</p>
ポート	<p>HP Operations Orchestration サーバで使用するポート。</p>
ユーザ名	<p>HP Operations Orchestration サーバへの接続に必要なユーザ名。</p>

UI の要素	説明
バージョン	HP Operations Orchestration のバージョン。



オフライン分析と認証タスク

設定	説明
オフライン分析の繰り返し間隔	基本となる間隔を秒単位で指定します。他のタスクでは、この間隔を基準（倍数）に設定を行います。
候補の削除の繰り返しサイクル数	候補の削除を連続実行する際の実行間隔（サイクル数）。
自動認証の繰り返しサイクル数	自動認証を連続実行する際の実行間隔（サイクル数）。

オフライン消去

設定	説明
オフライン消去の繰り返し間隔	ポリシー履歴と統計履歴を連続実行する際の実行間隔（日数）。
履歴の保持	環境スナップショット、ポリシー履歴、統計履歴を格納する日数。この日数よりも古いポリシー履歴と統計履歴は、次の消去時に削除されます。







RFC 表示

設定	説明
RFC プロパティ	<p>表示する RFC プロパティを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  新しいプロパティを追加します。 ▶  選択したプロパティを削除します。 <p>プロパティ名は手動で編集できます。</p>

トポロジ制限

設定	説明
グラフィック レイアウト の上限	トポロジ・マップで表示可能な複合 CI の最大数。

トポロジ・レイアウト

設定	説明
レイヤ	<p>トポロジ・マップで表示するレイヤを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  新しいレイヤを追加します。 ▶  選択したレイヤを削除します。 <p>レイヤの名前、表示名、レベル数、色を編集できます。</p>
分類	<p>トポロジ・マップで表示する分類を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  新しい分類を追加します。 ▶  選択した分類を削除します。 <p>分類の名前、表示名、レベル数、色を編集できます。</p>
レイアウト例外	<p>上記で定義した分類に対して例外を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  新しい例外を追加します。 ▶  選択した例外を削除します。 <p>選択した CI タイプについて、指定した属性が指定した値である場合、指定した分類が適用されます。</p>

UCMDB ファウンデーション

設定	説明
接続ストラテジ	UCMDB への接続方法。
顧客	UCMDB 顧客の名前。
UCMDB サーバ名	UCMDB サーバの名前。
UCMDB サーバポート	UCMDB サーバのポート番号。






設定	説明
UCMDB アクセス URL	UCMDB へのアクセスに使用する URL。
ユーザ名	UCMDB ユーザ名。
パスワード	UCMDB ユーザ・パスワード。

値の推奨

設定	説明
最大保存数	推奨される属性値をデータベースに保存する際の、属性値の最大個数。
最大表示数	推奨される属性値を表示する際の、属性値の最大個数。
属性値統計の繰り返し サイクル数	属性値統計の再計算を連続実行する際の実行間隔（サイクル数）。

【問題】表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	<p>問題の重大度レベルを示します。次のアイコンが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  : 構成セットにエラーが存在することを示します。この場合、構成セットをアクティブ化することはできません。また、[現在の構成セットのアクティベーション] ボタン  は無効になります。 ▶  : 警告を示します。この状態でも構成セットのアクティブ化は可能です。 ▶  : 情報メッセージを表示します。この状態でも構成セットのアクティブ化は可能です。
コード	<p>問題がある表示枠へのリンクを示します。リンクをクリックすると、構成ツリーでノードが選択され、それに対応する表示枠が右側に表示されます。</p>
説明	<p>問題の説明を示します。</p>

ユーザ管理の構成

このページでは、LDAP サーバの接続情報を定義します。Configuration Manager でユーザ情報を変更すると、該当するサーバのデータが更新されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
<タイプ>プロバイダ	認証プロバイダ、グループ・プロバイダ、カスタマイズ・プロバイダ、ユーザ・プロバイダを格納するリポジトリ。プロバイダごとに、LDAP サーバとして [EXTERNAL] または [SHARED] のいずれかを指定します。プロバイダについては、208 ページ「ユーザ管理の構成の概要」を参照してください。
ユーザ<属性>属性が必須	ユーザ作成に属性が必須かどうかを示します。

外部/共有ユーザ リポジトリ

このページでは、LDAP サーバの接続プロパティを指定します。ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
外部ユーザリポジトリ	このプロパティは、External または Shared と呼ばれるリポジトリの LDAP プロパティ・テーブルから取得されます。
外部 - 有効化	役割、ユーザ、グループ、原則のアクセス情報を定義します。グループ、役割、原則について、作成、削除、読み取り、割り当てが可能かどうかを指定します。
外部/共有 - カスタマイズ	読み取り可能または編集可能なユーザ属性を指定します。この設定は、ユーザ管理モジュールでユーザを作成または変更する際に、どの情報が編集可能または読み取り専用であるかを指定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、255 ページ「[ユーザ管理] タブ」を参照してください。

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では、LDAP に関する既知の問題について説明します。

問題 : LDAP サーバとの接続を確立できない。通信例外がログに記録される。

解決策 : LDAP ホスト、ポート、SSL モードの設定を確認します。

- a LDAP ホストとポートの設定が正しいことを確認します。
[システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザ リポジトリ] を選択し、**ldapHost** および **ldapPort** の設定を確認します。
- b SSL モードの設定が正しいことを確認します。組織 LDAP の管理者に、LDAP 接続には管理者ユーザを使用する必要があるかどうかを確認します。[システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザ リポジトリ] を選択し、**enableSSL** の設定を確認します。
- c 適切なサーバ証明書がインストールされていることを確認します。次のコマンドを実行します。

```
<Configuration Manager のインストール・ディレクトリ>%java%windows%x86_64%bin%keytool.exe -list -trustcacerts [-alias <証明書のエイリアス>] -keystore  
<Configuration Manager インストール・ディレクトリ>%java%windows%x86_64%lib%security%cacerts -storepass changeit
```
- d 組織 LDAP の管理者に、LDAP 接続には管理者ユーザを使用する必要があるかどうかを確認します。[システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザ リポジトリ] を選択し、**useAdministrator**、**ldapAdministrator** および **ldapAdministratorPassword** の設定を確認します。

問題：ユーザ管理またはグループ管理の画面にグループが表示されない。ログに例外は記録されていない。

解決策：次の内容を確認します。

- a ユーザとグループの検索フィルタの設定が正しいことを確認します。[システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザ リポジトリ]を選択し、**usersBase, usersScope, usersFilter, groupsBase, groupsScope, groupsFilter, rootGroupsBase, rootGroupsScope, rootGroupsFilter** の各プロパティを変更します。
- b LDAP クライアントのブラウザを開き、ベース DNS にユーザが表示されることを確認します。

問題：UI の処理速度が極端に低い。

解決策：一般的に、処理速度の低下は、LDAP で構成したグループやユーザの数が多すぎることが原因です。次の手順に従ってベース DNS とフィルタを構成し、サブセットに分けることでグループの数を減らします。

- a [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザ リポジトリ] を選択します。
- b **usersBase, usersScope, usersFilter, groupsBase, groupsScope, groupsFilter, rootGroupsBase, rootGroupsScope, rootGroupsFilter** の各設定を変更します。

問題：ユーザが存在するにも関わらず、ユーザ管理またはグループ管理の画面に表示されない。

解決策：ユーザとグループの管理画面には、グループに所属しているユーザのみが表示されます。メイン画面でユーザを表示するためには、ユーザを LDAP のグループに割り当てる必要があります。

問題：ログインに時間がかかる。

解決策：そのユーザは、多数のグループに所属していると考えられます。グループ検索フィルタを変更してグループの数を少なくすると、起動時間を短縮できます。

a [システム] > [設定] > [ユーザ管理の構成] > [外部ユーザリポジトリ] を選択します。

b `groupsFilter` の設定を変更します。

第 15 章

ユーザ管理

本章の内容

概念

- ▶ ユーザ管理の概要 (240ページ)

タスク

- ▶ Configuration Manager のユーザおよび権限のセットアップ (242ページ)

リファレンス

- ▶ 権限と権限セット (245ページ)
- ▶ ユーザ管理のユーザ・インタフェース (247ページ)
- ▶ トラブルシューティングおよび制限事項 (258 ページ)

概念

ユーザ管理の概要

HP Universal CMDB Configuration Manager では、ユーザ、グループ、割り当てられる役割、権限、環境を定義できます。ユーザの役割では、HP Configuration Manager 上にあるどのデータ・インスタンス上でどのような操作を実行できるかを定義します。たとえば、ユーザ役割にビュー管理の権限がないと、ビュー管理モジュールは使用できません。

注： このモジュールを使用するには、ユーザ管理権限が必要です。

環境

Configuration Manager では、環境は 1 つまたは複数の管理ビュー・インスタンスとして定義されます。Configuration Manager の管理ビューの詳細については、41 ページ「ビュー管理」を参照してください。環境を定義した後、環境を権限にアタッチします。たとえば、Configuration Manager の管理者には、すべての環境でのビュー読み取り権限とビュー書き込み権限を割り当て、DB マネージャには、local_lab_databases として定義された環境でのビュー読み取り権限とビュー書き込み権限を割り当てます。

役割と権限

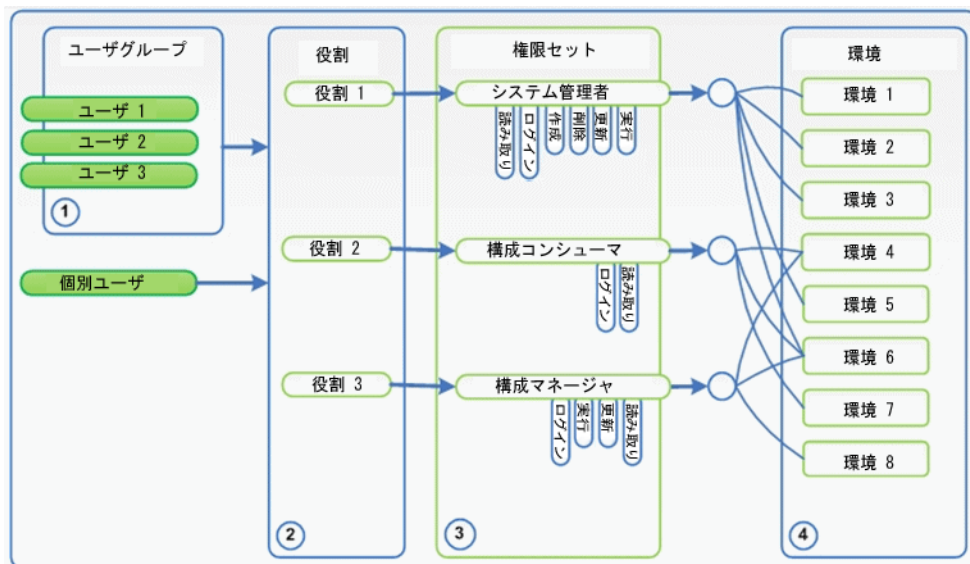
役割は、それぞれ権限と関連付けられています。権限とは、役割が実行可能な Configuration Manager の操作を指し、組織内での責務に基づいて決定されます。役割の例としては、ユーザにビューの作成を許可する役割や、構成ポリシーの編集は許可するがビューの作成は許可しない役割などがあります。詳細については、245 ページ「権限と権限セット」を参照してください。

ユーザとグループ

各ユーザには、Configuration Manager での操作に関する権限を定義した役割リストが設定されます。ユーザに役割を割り当てると、その役割で定義されている範囲のプログラムや環境のみにアクセスできるようになります。ユーザのグループに、同じ役割とアクセス権を割り当てることもできます。ユーザやユーザ・グループを別のグループにアタッチすると、そのグループの役割がすべて継承されます。

ユーザ管理の概要

次の図は、Configuration Manager でのユーザ、グループ、役割、権限、環境の関係を示しています。



タスク

Configuration Manager のユーザおよび権限のセットアップ

このタスクでは、Configuration Manager でユーザと権限を定義する手順を説明します。

このタスクでは、次の手順を実行します。

- ▶ 242 ページ「前提条件」
- ▶ 242 ページ「環境の定義」
- ▶ 243 ページ「役割と権限の定義」
- ▶ 243 ページ「グループの定義」
- ▶ 244 ページ「ユーザの定義」

1 前提条件

Configuration Manager で、管理対象となるビューを選択します。これにより、ユーザと権限で使用する環境を定義することができます。詳細については、41 ページ「ビュー管理」を参照してください。

2 環境の定義

a [システム] > [ユーザ管理] を選択し、[環境管理] タブをクリックします。

b 環境タイプを選択します。



c [環境の作成] ボタンをクリックします。新しい環境の名前と説明を入力し、[OK] をクリックします。



d [環境の詳細] 表示枠で [インスタンスの追加] ボタンをクリックします。[選択できるインスタンス] 表示枠でインスタンスを選択し、矢印を使って [選択したインスタンス] 表示枠に移動します。完了したら [OK] をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、251 ページ「[環境管理] ページ」を参照してください。

3 役割と権限の定義



- a [システム] > [ユーザ管理] を選択し、[役割管理] タブをクリックします。
- b [役割の作成] ボタンをクリックします。新しい役割の名前と説明を入力します。
- c [役割の詳細] 表示枠で [権限のアタッチ] ボタンをクリックします。
- d 適切な役割の権限を選択し、[次へ] をクリックします。
グローバル権限以外のすべての権限に、環境が割り当てられている必要があります。
- e [完了] をクリックするか、[別の権限のコミットと追加] をクリックして、追加の権限を役割に割り当てます。

ユーザ・インタフェースについては、253 ページ「[役割管理] ページ」と248 ページ「役割への権限の割り当てウィザード」を参照してください。

4 グループの定義

注: グループを作成する場合、データ・リポジトリが読み取り/書き込みに設定されている必要があります。



- a [システム] > [ユーザ管理] を選択し、[ユーザ管理] タブをクリックします。
- b [グループの作成] ボタンをクリックします。新しいグループの名前と説明を入力し、[OK] をクリックします。
- c [グループの詳細] 表示枠で [役割と権限] の下にある [役割の割り当て] ボタンをクリックします。
- d [OK] をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、255 ページ「[ユーザ管理] タブ」を参照してください。

5 ユーザの定義

注 : ユーザを作成する場合、データ・リポジトリが読み取り/書き込みに設定されている必要があります。



- a [ユーザとグループ] タブで、新しいユーザを追加するグループを選択します。
- b **[ユーザとグループ]** タブで **[ユーザの作成]** ボタンをクリックします。新しいグループの名前と説明を入力し、**[OK]** をクリックします。
- c すべてのフィールドに情報を入力します。
- d **[OK]** をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、255 ページ「[ユーザ管理] タブ」を参照してください。

リファレンス

権限と権限セット

権限

Configuration Manager では、2 種類の権限があります。

- ▶ 静的権限：アクセスできるモジュールと実行できるアクションを決定する権限（例：構成分析，ビュー管理）
- ▶ データ・レベルの権限：特定のデータに対して実行できるアクションを指定する権限（ビュー読み取り，ビュー書き込み）

Configuration Manager で割り当てることができる権限は次のとおりです。

名前	説明
自動化実行	Configuration Manager で自動化を実行する権限。
自動化管理	自動化を構成する権限（[管理] > [自動化管理]）。
自動化ポリシー すべてのビュー	自動化ポリシーの範囲を定義するときに（[管理] > [ポリシー] > [自動化ポリシー]），[すべてのビュー] を選択する権限。
自動化ポリシー管理	自動化ポリシーを定義するための権限（[管理] > [ポリシー] > [自動化ポリシー]）。
構成分析	構成モデリングおよび環境セグメント分析モジュールを使用するための権限（[アプリケーション] > [構成分析]）。
構成ポリシー管理	構成ポリシーを追加，編集，削除するための権限（[管理] > [ポリシー] > [構成ポリシー]）。
ライセンス管理	Configuration Manager でライセンスをインストールするための権限（[システム] > [ライセンス]）。

名前	説明
ログイン	Configuration Manager にログインするための権限。 注： この権限はすべてのユーザに割り当てられます。
システム設定	Configuration Manager の構成を編集するための権限（[システム] > [設定]）。
ユーザ管理	ユーザ、役割、環境、権限を管理するための権限（[システム] > [ユーザ管理]）。
ビュー読み取り	選択したビューを表示、分析するための権限。
ビュー書き込み	選択したビューの変更を表示、編集、認証するための権限。
ビュー管理	ビューを管理、管理解除、編集するための権限（[管理] > [表示管理]）。

権限セット

権限セットとは事前定義された権限のグループです。権限を個別に選択しなくても、権限セットをルールに適用できます。事前定義された権限には次のものがあります。

名前	説明
構成コンシューマ	次の権限が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 構成分析 ▶ ログイン
構成コントリビュータ	次の権限が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動化実行 ▶ 自動化ポリシー管理 ▶ 構成分析 ▶ ログイン ▶ ビュー書き込み

名前	説明
構成管理者	次の権限が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動化管理 ▶ 自動化ポリシー すべてのビュー ▶ 自動化ポリシー管理 ▶ 構成分析 ▶ ログイン ▶ ビュー書き込み
ポリシー管理者	次の権限が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 構成ポリシー管理 ▶ ログイン ▶ ビュー読み取り
システム管理者	すべての権限が含まれます。
ビュー管理者	次の権限が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ログイン ▶ ビュー管理


ユーザ管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 248ページ「役割への権限の割り当てウィザード」
- ▶ 250ページ「[役割の割り当て] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 251ページ「[環境管理] ページ」
- ▶ 253ページ「[役割管理] ページ」
- ▶ 255ページ「[ユーザ管理] タブ」

役割への権限の割り当てウィザード

このウィザードは、選択した役割に権限を割り当てます。

利用方法	[システム] > [ユーザ管理] > [役割管理] を選択します。[役割の詳細] 表示枠で役割を選択し、  をクリックします。
ウィザード・マップ	役割への権限の割り当てウィザードには、次のページが含まれています。 [権限または権限セットの選択] ページ > [権限への環境の割り当て] ページ > [確認] ページ
参照	245 ページ「権限と権限セット」

[権限または権限セットの選択] ページ

このウィザード・ページでは、割り当てる権限を選択します。

重要な情報	権限または権限セットをツリーから選択します。
ウィザード・マップ	役割への権限の割り当てウィザードには、次のページが含まれています。 [権限または権限セットの選択] ページ > [権限への環境の割り当て] ページ > [確認] ページ
参照	245 ページ「権限と権限セット」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。



UI の要素	説明
<権限ツリー>	Configuration Manager で定義済みの権限セットと個別の権限。

[権限への環境の割り当て] ページ

このウィザード・ページでは、環境を権限に割り当てます。

重要な情報	権限を割り当てることができる環境が存在しないと、このページは表示されません。
ウィザード・マップ	役割への権限の割り当てウィザードには、次のページが含まれています。 [権限または権限セットの選択] ページ > [権限への環境の割り当て] ページ > [確認] ページ
参照	▶ 245 ページ「権限と権限セット」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
 	権限を選択し、矢印をクリックして、目的の環境を [選択できる環境] リストから [選択した環境] リストに移動します。
選択できる環境選択した環境	権限は、特定の環境またはすべての環境に適用する指定と、どの環境にも適用しない指定ができます。
権限	権限または権限セットがツリー構造で表示されます。

[確認] ページ

このウィザード・ページでは、権限の割り当てを確認します。


ウィザード・マップ	役割への権限の割り当てウィザードには、次のページが含まれています。 [権限または権限セットの選択] ページ > [権限への環境の割り当て] ページ > [確認] ページ
------------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI の要素	説明
環境	選択した権限に関連付けられている環境のリスト。
権限	この役割に新しく割り当てられた権限。

[役割の割り当て] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、役割をユーザまたはグループに割り当てます。


利用方法	[ユーザ管理] タブの [グループの詳細] 表示枠にある [役割と権限] 項で、[役割の割り当て] ボタン  をクリックします。
重要な情報	Configuration Manager の起動時に実行可能な操作は、役割と権限に基づいて決定されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
 	[選択できる役割] リストにある役割を選択し、矢印をクリックして [選択した役割] リストに移動します。
選択できる役割と 選択した役割	各ユーザまたはグループには、1 つまたは複数の役割を割り当てる ことができます。
選択した役割の権限の 詳細	選択した役割の権限と環境に関する詳細を読み取り専用の形式で表 示します。



[環境管理] ページ

このページでは、ビューを含む環境を定義および編集します。

利用方法	[システム] > [ユーザ管理] > [環境管理] タブを選択します。
重要な情報	ユーザと役割は、環境単位に管理します。ユーザおよびグループには、特定の環境で特定の操作を行うことを許可する権限を割り当てます。 [更新]  をクリックすると、表示内容が更新されます。
関連タスク	242 ページ「Configuration Manager のユーザおよび権限のセットアップ」





[環境] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	環境タイプを選択して [環境の作成] をクリックすると、選択したタイプの環境を新規作成できます。
	[環境の削除] をクリックすると、選択した環境が削除されます。 注： 1 つの環境のみを権限にアタッチし、その権限を任意の役割にアタッチする場合、環境を削除すると、権限と権限セットは役割からアタッチ解除されます。
<環境ツリー>	環境タイプと、各タイプで定義されている環境が表示されます。

【環境の詳細】表示枠

[環境] 表示枠で選択した環境の詳細情報が表示されます。ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	<p>[インスタンスの追加] をクリックすると、[インスタンスの管理] ダイアログ・ボックスで選択した環境にビュー・インスタンスが追加されます。各環境には、1 つまたは複数のビュー・インスタンスを割り当てることができます。</p> <p>[インスタンスの管理] ダイアログ・ボックスで、[選択できるインスタンス] のビュー・インスタンスを選択し、そのインスタンスを矢印で [選択したインスタンス] に移動します。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">   </div> <p>注： このインスタンスは、ビュー管理モジュールで定義したビューです。詳細については、41 ページ「ビュー管理」を参照してください。</p>
	<p>[インスタンスの削除] をクリックすると、選択したインスタンスが環境から削除されます。</p>
詳細の編集	[詳細の編集] をクリックすると、選択した環境の名前と説明を編集できます。
説明	選択した環境の説明。
環境	選択した環境の名前。
インスタンス	選択した環境のビュー・インスタンスのリスト。


[環境タイプの詳細] 表示枠

[環境] 表示枠で選択した環境タイプの詳細情報が表示されます。ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
説明	選択した環境タイプの説明。
環境	選択した環境タイプの名前。



[役割管理] ページ

このページでは、Configuration Manager を操作するユーザの役割と権限を定義します。

利用方法	[システム] > [ユーザ管理] > [役割管理] タブを選択します。
重要な情報	役割を定義する前に、環境を定義しておくことをお勧めします。詳細については、251 ページ「[環境管理] ページ」を参照してください。 [更新]  をクリックすると、表示内容が更新されます。
関連タスク	242 ページ「Configuration Manager のユーザおよび権限のセットアップ」



[役割] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	[役割の作成] をクリックすると、新しい役割を作成できます。
	[役割の削除] をクリックすると、選択した役割が削除されます。
<役割リスト>	Configuration Manager で現在定義されている役割のリスト。役割を選択すると、詳細情報が [役割の詳細] 表示枠と [権限] 表示枠に表示されます。


【役割の詳細】表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	【権限のアタッチ】 をクリックすると、選択した権限が、選択した役割にアタッチされます。権限の選択には、役割への権限の割り当てウィザードを使用します。ユーザ・インタフェースの詳細については、248 ページ「役割への権限の割り当てウィザード」を参照してください。
	【権限の管理】 をクリックすると、選択した権限を変更できます。権限の変更には、役割への権限の割り当てウィザードを使用します。ユーザ・インタフェースの詳細については、248 ページ「役割への権限の割り当てウィザード」を参照してください。
	【権限のアタッチ解除】 をクリックすると、選択した役割から権限がアタッチ解除されます。
詳細の編集	【詳細の編集】 をクリックすると、選択した役割の名前と説明を編集できます。
環境	環境を権限ごとに一覧表示します。リストが長すぎて [環境] の列に収まらない場合は、ツールチップを使って全体を表示できます。 【適用なし】 ：環境設定を必要としない権限を示します。 <環境名> ：権限が、特定の環境にアタッチされていることを示します。 【すべて】 ：権限は、すべての環境に適用されていることを示します。
権限	選択した役割にアタッチされている権限セットと権限。
役割の説明	選択した役割の説明。
役割名	選択した役割の名前。

[ユーザ管理] タブ

Configuration Manager のユーザ管理では、ユーザ、グループ、役割、権限を管理します。この表示枠では、次の設定を行うことができます。

利用方法	[システム] > [ユーザ管理] > [ユーザ管理] タブを選択します。
重要な情報	ユーザの定義の前に、環境と役割を定義しておくことをお勧めします。詳細については、251 ページ「[環境管理] ページ」および253 ページ「[役割管理] ページ」を参照してください。 [更新]  をクリックすると、表示内容が更新されます。
関連タスク	242 ページ「Configuration Manager のユーザおよび権限のセットアップ」







[ユーザの検索] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
検索	[検索] をクリックすると、[ユーザの検索] セクションで指定した条件を満たすユーザを検索できます。
ユーザの検索	検索条件。ユーザの検索条件として、ユーザの詳細情報（[名]、[姓]、[ログイン名]、[表示名]、[電子メール]）を一部またはすべて入力します。
ユーザ名	検索条件を満たすすべてのユーザのリスト。



[ユーザとグループ] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	[ユーザの作成] をクリックすると、選択したグループに新しいユーザを作成できます。作成したユーザは、グループの役割を継承します。
	[グループの作成] をクリックすると、既存のグループに新しいグループを作成できます。
	[ルートの下にグループを追加] をクリックすると、ルートの下に新しいグループを作成できます。
	[削除] をクリックすると、選択したユーザまたはグループが削除されます。
	[グループにアタッチ] をクリックすると、選択したユーザまたはグループがグループにアタッチされます。このユーザ/グループは、グループの役割をすべて継承します。
	[グループからアタッチ解除] をクリックすると、選択したユーザまたはグループがグループからアタッチ解除されます。グループからユーザ/グループをアタッチ解除すると、グループから継承した役割の割り当ても解除されます。 注： <ul style="list-style-type: none"> ▶ グループにアタッチされていないユーザは、Configuration Manager では表示されません。グループにアタッチされていないユーザの検索には、[検索] 表示枠を使用します。ユーザ・インタフェースの詳細については、255 ページ「[ユーザの検索] 表示枠」を参照してください。 ▶ グループが他のグループにアタッチされている場合、アタッチを解除すると、そのグループはグループおよびユーザのツリーの「ルート」に移動します。
<ユーザとグループのリスト>	既存のグループと、そのグループにアタッチされているユーザすべてがツリー構造で表示されます。 注： グループにアタッチされていないユーザは、Configuration Manager では表示されません。グループにアタッチされていないユーザの検索には、[検索] 表示枠を使用します。ユーザ・インタフェースの詳細については、255 ページ「[ユーザの検索] 表示枠」を参照してください。

[グループの詳細] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
	[役割の割り当て] をクリックすると [役割の割り当て] ダイアログ・ボックスが開き、選択したユーザ/グループに役割が割り当てられます。詳細については、250 ページ「[役割の割り当て] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	[役割の削除] をクリックすると、選択した役割がユーザまたはグループから削除されます。
<役割と権限のリスト>	選択したユーザまたはグループについて、割り当てられている役割と、権限および環境を一覧表示します。
詳細の編集	[詳細の編集] をクリックすると、選択したユーザまたはグループの詳細を編集できます。
グループの説明/ユーザの説明	選択したグループまたはユーザの説明。
グループ名/ユーザ名	選択したグループまたはユーザの名前。

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では、ユーザ管理のトラブルシューティングと制限事項について説明します。これらの解決策に関する Configuration Manager の構成セットは、[システム] > [設定] > [ユーザ管理] > [ユーザ管理の構成] にあります。

問題： Configuration Manager にログインできない。

解決策： ユーザの定義と権限を確認します。ユーザのログイン情報は、認証プロバイダがチェックします。

- a [ユーザ管理の構成] ページの [認証プロバイダ] で、正しい認証プロバイダが設定されていることを確認します ([SHARED] または [EXTERNAL])。
- b `conf\permissions-mode.xml` ファイルで、ユーザがログイン権限を持っていることを確認します。

問題： グループの下にユーザを作成できない。

解決策： グループの設定とユーザの設定を確認します。

- a [ユーザ管理の構成] ページの [ユーザ プロバイダ] で、正しいユーザ・プロバイダが設定されていることを確認します ([SHARED] または [EXTERNAL])。
- b [外部ユーザ リポジトリ] > [有効化] ページで、[原則を更新可能] を有効にします。

問題： ユーザを更新できない。

解決策： ユーザ・プロバイダが更新可能かどうかを確認します。[外部ユーザ リポジトリ] > [有効化] ページで、[原則を更新可能] を有効にします。

問題： ユーザのフィールドを更新できない。

解決策： ユーザ・プロバイダとユーザのフィールドが更新可能かどうかを確認します。

- a [外部ユーザ リポジトリ] > [有効化] ページで、[原則を更新可能] を有効にします。
- b [ユーザ リポジトリ] > [カスタマイズ] ページで、フィールド名の最後が「編集可能」のフィールドをチェックします (たとえば、[ユーザ表示名属性を編集可能] など)。

問題：グループを作成できない。

解決策：[外部ユーザ リポジトリ] > [カスタマイズ] ページで、[グループを作成可能] を有効にします。

問題：グループを更新できません。

解決策：[ユーザ リポジトリ] > [カスタマイズ] ページで、[グループを更新可能] を有効にします。

問題：ユーザに役割を割り当てることができない。

解決策：役割プロバイダと役割のフィールドが更新可能かどうかを確認します。

- 1 [ユーザ管理の構成] ページの [役割プロバイダ] で、正しい役割プロバイダが設定されていることを確認します ([SHARED] または [EXTERNAL])。
- 2 [外部ユーザ リポジトリ] > [有効化] ページで、[原則役割に書き込みを割り当て可能] を有効にします。

問題：Configuration Manager でセキュリティ・エラーが発生する。

解決策：構成に関するセキュリティ・エラー・メッセージが表示される場合は、詳細な内容を取得して、正しい構成を確認します。

たとえば、グループ詳細を変更しようとしてセキュリティ例外が発生した場合、「グループは更新可能として定義されていません」という内容のメッセージが表示されます。したがって、[外部ユーザ リポジトリ] > [有効化] ページで、[グループを更新可能] を有効にします。

問題：ユーザ情報の更新時に、パスワード・フィールドを更新できない。

解決策：ユーザ・プロバイダの設定を確認します。

- 1 [ユーザ管理の構成] ページの [ユーザ プロバイダ] で、正しいユーザ・プロバイダが設定されていることを確認します ([SHARED] または [EXTERNAL])。
- 2 [ユーザ リポジトリ] > [カスタマイズ] ページで、[ユーザ パスワード属性を編集可能] を有効にします。

第 16 章

ライセンス

本章の内容

概念

- ▶ ライセンスの概要 (262ページ)

タスク

- ▶ ライセンスのインストール (264ページ)

リファレンス

- ▶ ライセンスのユーザ・インタフェース (265ページ)

概念

ライセンスの概要

構成分析モジュールの先進機能である自動セグメント化と自動ベースライン設定は、インスタントオン・ライセンスで提供されます。インスタントオン・ライセンスは、管理 CI 数に制限がなく、Configuration Manager の初回使用から 60 日間有効な無料ライセンスです。この 60 日間経過後は、Configuration Manager で管理する一定数の複合 CI に対し、永久ライセンスを購入する必要があります。管理する複合 CI を追加するには、永久ライセンスの追加購入が必要です。

自動リスク・ビジュアライザでは、500 個のコントロールされた自動化の 1 回限りの実行（または 60 日間の使用。どちらか遅い方を適用）が提供されます。無料での最初の 500 個のコントロールされた自動化（または 60 日間の使用）が終わったら、30 日間（移行期間）で分析する必要があるコントロールされた自動化の実行回数に対して、永久ライセンスを購入する必要があります。この回数は、前の 60 日間で実際に使用した回数から見積もります。

注：これらのすべてのモジュールでは、初期の無料ライセンスを使用して、60 日間の無料使用が可能です（評価用ライセンス）。詳細については、HP の営業担当にお問い合わせください。

永久ライセンスは追加版です。つまり、永久ライセンスを追加購入すると、既存の合計ライセンス数が置き換えられるのではなく増加します。

ライセンス制限を越えると、次の動作が発生します。


- ▶ **Configuration Manager** の使用中に警告通知が表示されます。このようなメッセージが表示された場合、ライセンスを購入してインストールし、ライセンス数を増やす必要があります。これらのモジュールのライセンスを購入するには、HP の営業担当にお問い合わせください。
- ▶ 管理者（新規ライセンスのインストール権限を持っているユーザ）が **Configuration Manager** にログインすると、ポップアップ・メッセージが表示され、新規ライセンスをインストールするためのライセンス・モジュールに自動的にリダイレクトされます。

注： **Configuration Manager** で新規ライセンスをインストールするには、ライセンス管理権限が必要です。

タスク

ライセンスのインストール

このタスクでは、Configuration Manager で新規ライセンスをインストール方法について説明します。

- 1 新規ライセンスを購入するには、HP の営業担当にお問い合わせください。
- 2 [システム] > [ライセンス] を選択します。
- 3  をクリックして、[ライセンスのインストール] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 HP の営業担当から受け取った新規ライセンス・キー全体をコピーして、[OK] をクリックします。

注：

- ▶ 一部のライセンスには、別のライセンス・キーが複数付属しています。各ライセンス・キーを別々にインストールしてください。
 - ▶ 引用符 (“) はライセンス・キーの一部なので、これを含めてコピーします。
-

ライセンスがすでにインストールされている場合、または無効なライセンス・キーを入力した場合、エラー・メッセージが表示されます。

インストールが成功すると、関連するライセンス項が更新され、新規ライセンスのステータスが表示されます。

リファレンス

ライセンスのユーザ・インタフェース

本項の内容


- ▶ 265 ページ「[ライセンス] ページ」



[ライセンス] ページ

このページでは、インストールしたライセンスの表示や、新規ライセンスのインストールを行うことができます。

利用方法	[システム] > [ライセンス] を選択します。
関連タスク	264 ページ「ライセンスのインストール」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
 インストール	[ライセンスのインストール] ダイアログ・ボックスが開き、新規ライセンスのライセンス・キーを入力できます。
実際の使用数	選択したライセンスで管理されている複合 CI, 実行された自動化の数。この数は 1 日に 1 回更新されます。
ライセンス数	選択したライセンスで管理できる複合 CI, または実行できる自動化の数。
説明	ライセンスの説明。
有効期限	ライセンスの有効期限が切れる日時。
ライセンス タイプ	選択したライセンスのタイプ ([インスタント オン], [評価], [永久]) を指定します。

UI の要素	説明
名前	ライセンス名 (Controlled Automations per Month または Advanced Configuration Analysis)。
ステータス	<p>選択したライセンスのステータス（購入したライセンスの使用期間を超えているかどうかなど）を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  は、現在のライセンスで許可されている使用期間を超えている場合に表示されます。 ▶  は、現在のライセンスで許可されている使用期間をまだ超えていない場合に表示されます。

第 V 部

プリファレンス

第 17 章

ユーザ・プリファレンス

本章の内容

概念

- ▶ ユーザ・プリファレンスの概要 (270ページ)

リファレンス

- ▶ ユーザ・プリファレンスのユーザ・インタフェース (271ページ)

概念

ユーザ・プリファレンスの概要

ユーザ・プリファレンス・モジュールでは、Configuration Manager で使用するお気に入りビューとローカライゼーション設定を選択できます。

リファレンス

ユーザ・プリファレンスのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 271ページ「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」

[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス





このダイアログ・ボックスでは、Configuration Manager のすべてのモジュールで表示するお気に入りのビューと、表示で使用する言語を選択します。

利用方法	[プリファレンス] > [ユーザ プリファレンス] を選択します。
重要な情報	<p>次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [お気に入りビュー] : お気に入りにするビューを選択します。左のテーブルで選択してダブルクリックするか、矢印ボタンで右のテーブルに移動してください。 ▶ [ローカライゼーション設定] : Configuration Manager の表示で使用する言語を選択します。 <p>注 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ お気に入りビューを定義すると、各種モジュールで、ビューをすべて表示するオプションとお気に入りのビューのみを表示するオプションを選択できます。 ▶ [OK] をクリックすると、プリファレンスが自動的に適用されます。ログアウトしてからログインし直す必要はありません。

お気に入りビュー

ビュー読み取り権限を持っているビューのみが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI の要素	説明
	クリックすると、選択したビューがお気に入りビュー・リストから削除されます。
	クリックすると、お気に入りビュー・リストからビューがすべて削除されます。
	クリックすると、すべてのビューがお気に入りビュー・リストに追加されます。
	クリックすると、選択したビューがお気に入りビュー・リストに追加されます。
<左のテーブル>	使用可能なすべてのビューの名前と説明が表示されます。
<右のテーブル>	お気に入りビューの名前が表示されます。
お気に入りビューの選択	お気に入りビューのフィルタを有効または無効にします。次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [すべてのビュー]: お気に入りビュー・リストが定義されていません。すべてのビューを表示します。 ▶ [選択したビュー]: お気に入りビュー・リストのビューを選択します。お気に入りビューのみを表示します。

ローカライゼーション設定

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI の要素	説明
言語	ドロップダウン・リストから言語を選択します。
サンプル	選択した言語での日付と数値の形式。

第 VI 部

付録

付録 A

ユーティリティ

本章の内容

リファレンス

▶ Configuration Manager ユーティリティ (276ページ)

リファレンス

Configuration Manager ユーティリティ

本項では、次のユーティリティについて説明します。

- ▶ 277 ページ「構成セットのエクスポート」
- ▶ 280 ページ「構成セットのインポート」
- ▶ 283 ページ「パスワード暗号化」
- ▶ 284 ページ「ポピュレート」
- ▶ 285 ページ「キー生成」

注：これらのユーティリティを Linux システムで実行する場合は、次の手順を実行してください。

- ▶ 手順に記載されている円記号をフォワードスラッシュ (/) に変更します。
 - ▶ 各ユーティリティ名の **.bat** を **.sh** に置き換えます。
-

構成セットのエクスポート

構成セットのエクスポート・ユーティリティでは、構成セットを構成ダンプ・ファイルにエクスポートできます。この構成ダンプ・ファイルを、後で別の名前で Configuration Manager の同じインスタンスに、または Configuration Manager の別のインスタンスにインポートできます。これは、たとえばステージング環境またはテスト環境の構成セットを本稼働環境に移行する場合に便利です。

注：この機能は Configuration Manager の UI からでも使用できます。このユーティリティは、Configuration Manager を無効な構成で起動したためにサーバが起動できないなど、何らかの理由で UI がロックされている場合にのみ使用します。

このユーティリティでは、Configuration Manager サーバが動作している必要はありません。

構成セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

次のコマンドを実行します。

```
< Configuration Manager のインストール・ディレクトリ > %bin%export-cs.bat < データベース・プロパティ > < 構成セット ID > < ダンプ・ファイル名 >
```

< データベース・プロパティ >には、**database.properties** ファイルの場所を示して指定するか、各データベース・プロパティを指定します。

構成セット ID を特定するには、**--history** または **--drafts** オプションを使用して構成セットのエクスポート・ユーティリティを実行し、すべての履歴またはドラフト構成セットを表示します。履歴構成セットには、現在の構成セットを含め、これまでにアクティブ化したすべての構成セットが含まれます。

次にコマンドラインのオプションを示します。

オプション	説明
--connection-url	データベース接続 URL。 注 ：これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--dialect, --driver, --username, --password とともに使用します。
--dialect	データベース・ダイアレクト。 サポートされているダイアレクト ：H2Dialect, SQLServerDialect, Oracle9iDialect, Oracle10gDialect 注 ：これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--connection-url, --driver, --username, --password とともに使用します。
--driver	データベース・ドライバ・クラス名。例：org.h2.Driver, net.sourceforge.jtds.jdbc.Driver, oracle.jdbc.OracleDriver 注 ：これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--connection-url, --dialect, --username, --password とともに使用します。
--drafts	構成セットのドラフトを表示します。すべて非アクティブな構成セットです。
-f <ファイル名> --file <ファイル名>	ダンプ・ファイル名。 注 ：このオプションは必須です。
-h --help	使用方法メッセージ。
--history	構成セットの履歴を表示します。すべてアクティブな構成セットです。
-i <ID> --id <ID>	エクスポートする構成セットの ID。
-p <ファイル> --database-properties <ファイル>	database.properties ファイルの場所。 注 ：データベース・プロパティの指定に --connection-url, --driver, --username, --password を使用していない場合、このオプションは必須です。

オプション	説明
--password	データベース・パスワード。 注 ：これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。 --connection-url , --dialect , --driver , --username とともに使用します。
--username	データベース・ユーザ名。 注 ：これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。 --connection-url , --dialect , --driver , --password とともに使用します。
--verbose	冗長モード。

- ▶ 次に、履歴構成セットの表示方法の例を示します。

```
cd <CM のインストール・ホーム>%bin%
export-cs.bat -p ..%conf%database.properties --history
```

- ▶ 構成セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

```
<CM のインストール・ホーム>%bin%export-cs.bat -p <database.properties の場所> -i <構成
セット ID> -f <ダンプ・ファイル名>
```

例：ID 1 の構成セットを `dump.zip` にエクスポートする場合

```
cd <CM のインストール・ホーム>%bin%
export-cs.bat -p ..%conf%database.properties -i 1 -f dump.zip
```

構成セットのインポート

構成セットのインポート・ユーティリティでは、構成セットのダンプ・ファイルを Configuration Manager のインスタンスにインポートできます。構成セットのインポートは、たとえば、別の環境への移行（ステージング環境またはテスト環境から本稼働環境へ）に便利です。

注：

- ▶ この機能は Configuration Manager の UI でも使用できます。UI オプションを使用して、インポートした構成セットの検証も実行することをお勧めします。
- ▶ インポートされる構成セットの名前は、ダンプ・ファイルと同じ名前になります。構成セットの名前は一意であるため、同じ名前のダンプ・ファイルを 2 回インポートすることはできません。

構成セットをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 このユーティリティの使用時にサーバが動作している可能性もありますが、構成によってはシステム全体の再起動が必要になるため、まず Configuration Manager の実行中のインスタンスをすべて停止することをお勧めします。
- 2 次のコマンドを実行します。

```
<Configuration Manager のインストール・ディレクトリ>%bin%import-cs.bat <データベース・プロパティ> <ダンプ・ファイル名>
```

<データベース・プロパティ>には、**database.properties** ファイルの場所を示して指定するか、各データベース・プロパティを指定します。

次にコマンドラインのオプションを示します。

オプション	説明
--activate	インポートした構成をアクティブ化します。
--connection-url	データベース接続 URL。 注 ：これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。 --dialect , --driver , --username , --password とともに使用します。
--dialect	データベース・ダイアレクト。 サポートされているダイアレクト ：H2Dialect, SQLServerDialect, Oracle9iDialect, Oracle10gDialect 注 ：これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。 --connection-url , --driver , --username , --password とともに使用します。
--driver	データベース・ドライバ・クラス名。例：org.h2.Driver, net.sourceforge.jtids.jdbc.Driver, oracle.jdbc.OracleDriver 注 ：これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。 --connection-url , --dialect , --username , --password とともに使用します。
-f <ファイル名> --file <ファイル名>	ダンプ・ファイル名。 注 ：このオプションは必須です。
-h --help	使用法メッセージ。
-p <ファイル> --database-properties <ファイル>	database.properties ファイルの場所。 注 ：データベース・プロパティの指定に --connection-url , --driver , --username , --password を使用していない場合、このオプションは必須です。
--password	データベース・パスワード。 注 ：これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。 --connection-url , --dialect , --driver , --username とともに使用します。
--username	データベース・ユーザ名。 注 ：これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。 --connection-url , --dialect , --driver , --password とともに使用します。
--verbose	冗長モード。

付録 A・ユーティリティ

構成セットをインポートするには、次の手順を実行します。

```
<CM のインストール・ホーム>%bin%import-cs.bat -p <database.properties の場所> -f <ダンプ・ファイル名>
```

例：構成セットのダンプ・ファイル mydump.zip をインポートする場合

```
cd <CM のインストール・ホーム>%bin%  
import-cs.bat -p ..%conf%database.properties -f mydump.zip
```

パスワード暗号化

パスワードを暗号化するには、次の手順を実行します。

- 1 Configuration Manager のインストール・ディレクトリに、次のファイルが格納されている **security** ディレクトリがあることを確認します。

```
encrypt_security
```

このファイルは、インストール・プロセスで作成されます。ただし、このファイルが存在しない場合は、**<Configuration Manager のインストール・ディレクトリ>%bin** ディレクトリで次を実行します。

```
generate-keys.bat
```

- 2 次を実行します。

```
<Configuration Manager のインストール・ディレクトリ>%bin%encrypt-password <オプション>
```

コマンド・ラインでは次のオプションを使用できます。

オプション	説明
-p <パスワード> --password <パスワード>	1 つの平文パスワードを暗号化します。
-d <フォルダ> --dir <フォルダ>	指定したパスにある暗号化キーを使用します。このオプションを指定しない場合、デフォルトのキーの場所は <CM のインストール・ホーム>%security です。ここで、キー生成ユーティリティで秘密鍵および公開鍵が作成されます。
-h --help	このメッセージを出力します。

例：1 つのパスワードを暗号化する場合

```
EncryptPassword.bat -p <暗号化するパスワード>
```

- 3 生成された暗号化パスワード (**{ENCRYPTED} <暗号化されたパスワード>**) をコピーし、適切な Configuration Manager 構成ファイルに貼り付けます。

ポピュレート


ポピュレート・ユーティリティでは、Configuration Manager データベースでテーブルを作成できます。

注：このユーティリティにより、データベースに格納されていたデータを削除できます。

ポピュレート・ユーティリティを使用するには、次の手順を実行します。

次のコマンドを実行します。

```
< Configuration Manager のインストール・ディレクトリ > %bin%populate.bat i
```

 **キー生成**

キー生成ユーティリティはインストール時に自動的に実行され、公開鍵と秘密鍵を作成します。暗号化プロパティ・ファイルの値に変更があった場合、次の操作が必要です。

- ▶ キー生成ユーティリティを使用して、公開鍵および秘密鍵を生成し直します。
- ▶ パスワード暗号化ユーティリティを使用してデータベース・パスワードを生成し直した後、データベース・プロパティ・ファイルを更新します。

キー生成ユーティリティを使用するには、次の手順を実行します。

次のコマンドを実行します。

```
< Configuration Manager のインストール・ディレクトリ > %bin%generate-keys.bat
```


付録 B

システム・データのエクスポートとインポート

本章の内容

概念

- ▶ システム・データのエクスポートとインポートの概要 (288ページ)

タスク

- ▶ システム・データのエクスポート (291ページ)
- ▶ システム・データのインポート (292ページ)
- ▶ ログの冗長レベルの設定 (292ページ)

概念

システム・データのエクスポートとインポートの概要

JMX を使用して、Configuration Manager データをインポートおよびエクスポートできます。これらの操作は、たとえば、システム・データをステージング環境から実稼働環境に移動する場合や、システムがクラッシュした後のリカバリの際に実行します。

エクスポートしたデータには、次のリソースが含まれます。

- ▶ Configuration Manager で管理されているビューと、ビュー管理モジュールで各ビューに対して定義されている CI タイプのリスト。ビューが参照している TQL はエクスポートされません。
- ▶ 構成ポリシー・モジュールで定義されている構成ポリシーの設定。参照されている TQL はエクスポートされません。
- ▶ 構成分析モジュールで保存した構成分析結果（保存したモデルおよび複合 CI を含む）。複合 CI の実際の CI 情報（属性など）はエクスポートされません。

エクスポート操作では、データが移行され、Configuration Manager が動作しているマシンのファイル・システムに格納されます。また、ネットワーク・パスを指定して、別のサーバにエクスポート・データを格納することもできます。データは XML ファイルとしてエクスポートされます。

システム・データを含む XML ファイルを、Configuration Manager のファイル・システムから、同じバージョンの別の Configuration Manager システムにインポートすることができます。また、ネットワーク・パスを指定して、別のサーバからのエクスポート・データをインポートすることもできます。

注意： Configuration Manager システム間でシステム・データをインポートするときは、Configuration Manager のバージョンが同じか互換性があることを確認する必要があります。

Configuration Manager の 2 つのインスタンス間（Configuration Manager の各インスタンスが別の HP Universal CMDB インスタンスに接続されている）でデータを移行する前に、まず HP Universal CMDB インスタンス間で関連する TQL をエクスポートしてからビューをエクスポートする必要があります。

ベースライン・ポリシーを適用した場合、構成ポリシー・モジュールの **[詳細フィルタ]** ボックスで選択した TQL をエクスポートする必要があります。

トポロジ・ポリシーを適用した場合、構成ポリシー・モジュールの **[条件 TQL]** ボックスの条件 TQL と **[詳細フィルタ]** ボックスで選択した TQL をエクスポートする必要があります。

参照される TQL をエクスポートするには、HP Universal CMDB のパッケージ・マネージャを使用します。詳細については、HP Universal CMDB のマニュアルを参照してください。

インポート操作のログ・ファイル

インポート操作では、**amber_import_export.log** ファイルが **<Configuration Manager のインストール・ディレクトリ>%servers%<Configuration Manager サーバ拡張名>%logs** ディレクトリに生成されます。

すべてのインポート・アクションは、エラー・メッセージやエラー原因を含めて **amber_import_export.log** に書き込まれます。次に例を示します。

- ▶ Managing view 'View1'
 - ▶ View 'View1' already exists
 - ▶ View 'View1' was created
 - ▶ View 'View1' was not created:reason...
- ▶ Adding configuration analysis (adhoc) model 'Model1'
 - ▶ Configuration analysis (adhoc) model 'Model1' was created
 - ▶ Configuration analysis (adhoc) model 'Model1' already exists

付録 B・システム・データのエクスポートとインポート

- ▶ Adding policy rule 'Rule1'
 - ▶ Policy rule 'Rule1' was created
 - ▶ Policy rule 'Rule1' already exists
 - ▶ Policy rule 'Rule1' was not created:reason...

ログ・ファイルのメッセージ重大度を設定する方法については、292 ページ「ログの冗長レベルの設定」を参照してください。

タスク

システム・データのエクスポート

このタスクでは、Configuration Manager のシステム・データをエクスポートし、ファイル・システムに格納する方法を説明します。

- 1 Web ブラウザを起動し、アドレスに **http://<サーバ名>:<ポート番号>/cnc/jmx-console** と入力します。ここで、**<サーバ名>** は Configuration Manager がインストールされているマシンの名前です。
- 2 JMX コンソールの認証資格情報を入力します。デフォルトは次のとおりです。
 - ▶ ログイン名=**admin**
 - ▶ パスワード=**admin**
- 3 **[Amber]** の下の **[ImportExport service]** をクリックします。
- 4 **[exportData]** 操作を特定します。
- 5 **[Value]** フィールドに、ファイル名と、データをエクスポートする Configuration Manager サーバのファイル・システムのディレクトリのフル・パスを入力します。また、エクスポート・ファイルを同じサーバに置かない場合は、ネットワーク・パスを指定することもできます。
- 6 **[Invoke]** をクリックしてデータをエクスポートします。データが指定したディレクトリに XML ファイルとしてエクスポートされます。

システム・データのインポート

このタスクでは、JMX コンソールを使用して、Configuration Manager のファイル・システムのシステム・データを含む XML ファイルを、同じバージョンの別の Configuration Manager にインポートする方法を説明します。

- 1 Web ブラウザを起動し、アドレスに **http://<サーバ名>:<ポート番号>/cnc/jmx-console** と入力します。ここで、<サーバ名>は Configuration Manager がインストールされているマシンの名前です。
- 2 JMX コンソールの認証資格情報を入力します。デフォルトは次のとおりです。
 - ▶ ログイン名 = **admin**
 - ▶ パスワード = **admin**
- 3 [Amber] の下の [ImportExport service] をクリックします。
- 4 [importData] 操作を特定します。
- 5 [Value] フィールドに、ファイル名と、データをインポートする Configuration Manager サーバのファイル・システムのディレクトリのフル・パスを入力します。また、ネットワーク・パスを指定して、別のサーバ上にあるファイルからデータをインポートすることもできます。
- 6 [Invoke] をクリックしてデータをインポートします。

ログの冗長レベルの設定

インポート操作は **amber_import_export.log** という名前のログ・ファイルに書き込まれます。このタスクでは、**amber_import_export.log** ファイルのメッセージ重大度レベルを変更する方法について説明します。

amber_import_export.log ファイルの詳細については、288 ページ「システム・データのエクスポートとインポートの概要」の「インポート操作のログ・ファイル」を参照してください。

表示されるメッセージ重大度レベルを変更するには、次の手順を実行します。

<Configuration Manager のインストール・ディレクトリ>%conf%cmlog4j.properties ファイルで、次の行を編集します。

```
log4j.logger.amber.import-export=INFO, amber_import_export_fileout
```

次のタイプのログ・メッセージ・コマンドを使用できます。

- ▶ **ERROR** : エラー・メッセージのみが表示されます。
- ▶ **WARN** : 警告およびエラー・メッセージが表示されます。
- ▶ **INFO** : 警告およびエラー・メッセージに加え、システムが実行する処理アクティビティを記録する情報メッセージが表示されます。
- ▶ **DEBUG** : すべてのタイプのメッセージと追加のデバッグ・メッセージが表示されます。

注意 : ログ・レベルを **DEBUG** に設定すると、パフォーマンスに影響する可能性があります。
